

103
4
263

大日本名家全書卷四

畫家部增補

大日本名家全書

畫家之部 增補

倭畫師池守

越前ノ人天
平勝宝年間



玄證阿闍梨

梅尾高山寺ノ
僧ニシテ治承

年間盛ナリシ人ナリ往昔
ハ高山寺ニ此僧筆ノ稿本
多カリシガ今ハ散乱シテ
好古家ノ愛玩トナレリトゾ

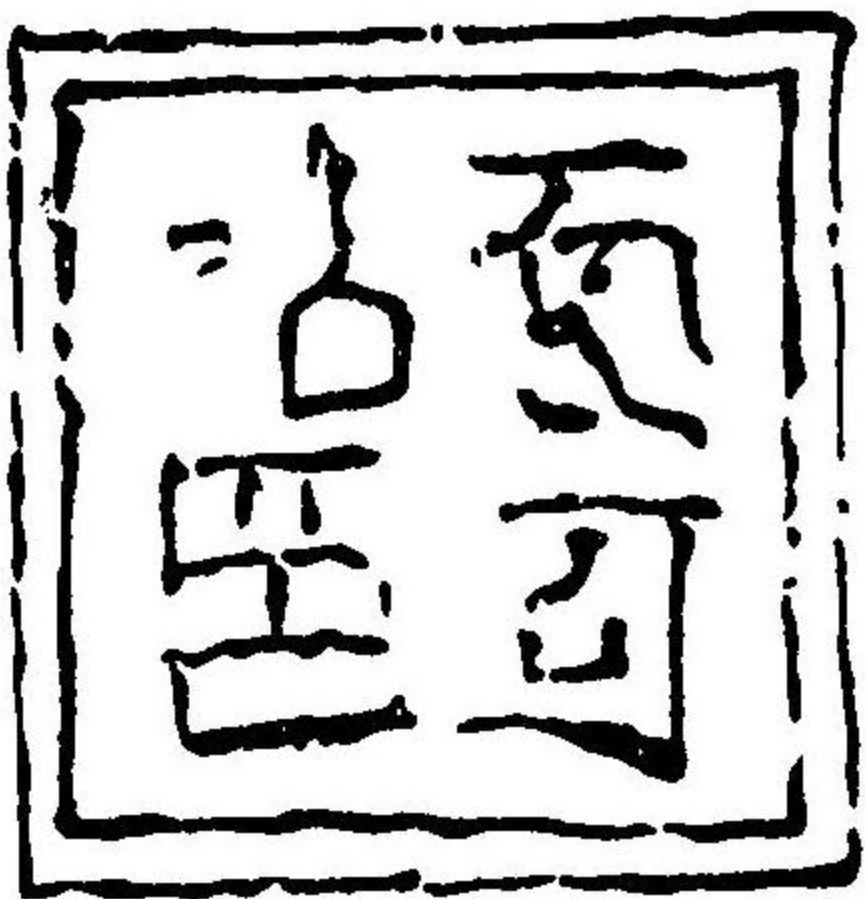
治承三年

己酉月十日
死

○畫家

僧覺猷

僧覺猷(補)



藤原信實

(補)

信實

住吉慶忍

傳詳カナラ
或ハ云慶
入ナリト建長頃ノ人



畫師住吉住人介

住吉慶忍

土佐經隆

(補)

後位下藤原經隆

春日行長

往柄天神縁起
ノ筆者ナリ其

奥書ニ于時宝曆元應曆緒
之玄律大呂朔之朝云々ト
アリ以テ元應年間ノ人タ
ルヲ知ルベシ

右近將監

●增補

藤原行長

僧豪信

山法師ニシテ
法印タリ建武

項ノ人

子孫

藤原伊久

貞和項ノ人

繪所正信下

行加賀守

藤原伊久

書之

春日行秀

應永項ノ人

長白

繪所預

修印色

行秀乃姪

六角寂濟

或ハ云土佐光
貞二子ト應永

三十一年二月二日寂ス

前信所

預散位

藤原明長

前兵部

藤原入道

藤原

土佐行廣

補法名経光從
五位上左近衛

將監タリ應永項ノ人

責工

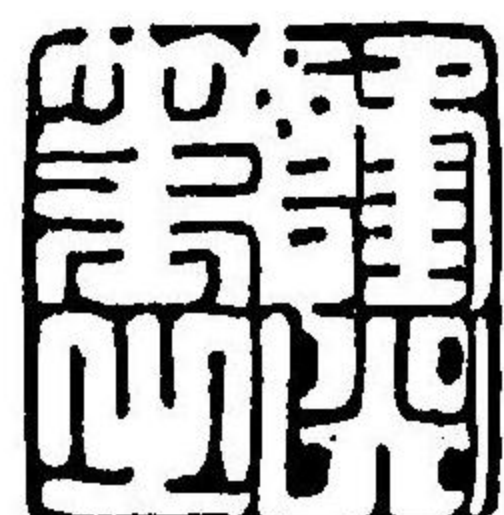
五佐守

藤原行廣

栗田口隆光

或ハ云土佐光
貞三男ト應永

ノ人



信師

栗田口

民部注眼

隆光

土佐光國

補從五位下ニ
叙シ備後守ニ

任ス剃髮シ法眼ニ叙シ法
名ヲ永春ト称ス或ハ云永
春ハ別人ト栗田口ト稱ス

藤原光國

畫師大史注眼永春

僧慶鼎

嘉吉年間ノ人

建慶宗親氏並

慶鼎頭陀

土佐光重

補正五位下越
前守タリ本編

ニ明應元年画所預トナル
トアレハ土佐系番ニハ明
徳頃トアリ



光成筆

土佐光信

(補) 從四位下ニ叙シ刑部大輔

ニ任ス繪所預タリ本編ニハ廣周ノ子トアレ左土佐系圖ヲ按スルニ光弘ノ嗣ト為ス而シテ廣周ハ行秀ノ子光弘ノ弟ナリ大永五年五月二十日卒ス年九十二

光成筆之

大手丸

名印部類ニ光元ノ幼名カト

アリ光元ハ永祿二年正月廿三日戰死年三十ト系圖ニ見ユレバ天文十三年ハ其十三歳ノ時ニ當レリ

天弘二四月廿六

光成筆

土佐光起

(補)

光成筆

光成筆

土佐廣雅

光吉ノ三男ト云フ

廣雅印

光成筆

廣雅印

光成筆

土佐左近將監光起筆

土佐法眼常昭筆

土佐光成

(補)

光成印

光成印

土佐將監光成筆

光成印

光成印

土佐左近衛將監任官

刑部權大輔

藤原光成筆

土佐光芳

(補) 寶永四年八月ニシテ春宮

坊ノ御杉戸ニ童形舞樂ノ畱ヲ画ク

光成印

光成印

光成筆

正五位下

藤原光芳

光成筆

藤原光成筆

光成筆

土佐光祐

(補)

光祐印

光祐印

光祐印

光祐印

光祐印

光祐印

光祐印

光祐印

土佐光時 童名長松丸 從四位下ニ叙シ
 左近衛將監伯耆守ニ任ス
 天明七年大嘗會悠紀主基ノ御屏風ヲ画キ寛政元年清涼殿名所御障子及殿上馬形ノ御障子錢形ノ御屏風等ヲ画ク文政二年八月十七日卒ス年五十六

画所預

土佐九近將監

光時



土佐光祿 光時ノ子正五位上野介左近衛將監タリ又参河守ニ任ゼラル



土佐光文

光祿ノ嗣實ハ光孝ノ男從四位下ニ叙シ左近衛將監備前守ニ任ス明治十二年十一月九日卒ス年六十八



畫所預 土佐光文

光文



土佐光章 光文ノ子童名直丸從六位下伊豫介明治八年七月四日歿ス年二十八



土佐光貞

補正五位下左近衛將監土佐守宝曆四年正月繪所預ヲ分テ別家ト為ル
 明和元年同八年天明七年大嘗會悠紀主基ノ御屏風ヲ画キ寛政元年清涼殿唐画倭画及昆明地荒海等ノ御障子錢形御屏風ヲ画ク文化三年二月四日卒ス年六十九



畫所預



土佐守

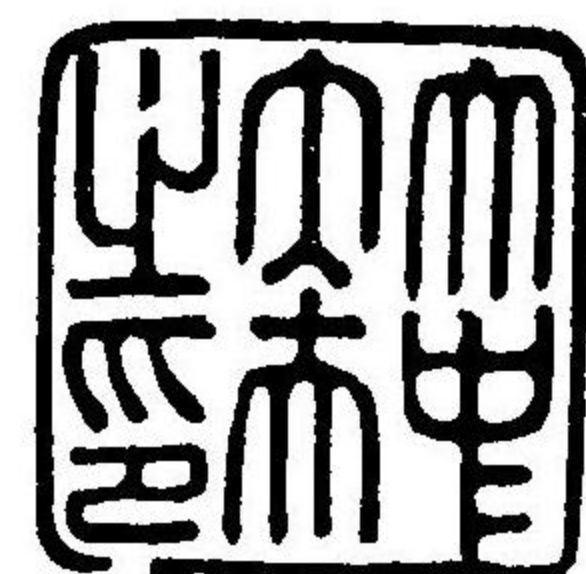
光貞

賴

土佐光孚

(補)童名虎若丸
寛政元年八歳

ニシテ清涼殿名所御屏風
ヲ画ク後ニ正四位下ヲ贈
ラル



畫所預土佐守光孚

土佐土佐守

光孚

土佐光清

光孚ノ子童名
繁松從四位下ニ

叙シ土佐守ニ任ス文久二
年十一月二十一日卒ス年
五十八



土佐守光清

土佐家画所預ノ章此ニ附ス



土佐一徳

或ハ一得ニ作
ル光吉弟或ハ

門人ト云フ光吉ハ慶長十
八年ニ卒セリ其頃ノ人ナ
ルニシ



土佐光繼

光吉門人或ハ
云土佐ノ族



土佐挑翁

傳詳ナラズ



土佐祖千枚楠庵而筆

土佐道味



住吉如慶

補王佐光吉ノ
二子ナリ名ハ

廣通初忠俊内記ト称ス剃
髮シテ法名如慶ト号シ法
眼ニ叙ス後水尾帝嘗テ住
吉法眼慶恩ノ後ナキヲ惜
マセ玉ヒ住吉繪所ヲ再興
シ玉フ時ニ廣通名画ノ聞

住吉具慶

補名ハ廣純又
廣澄ト称ス通

称内記剃髮シテ具慶ト号
シ法眼ニ叙ス天和三年八
月徳川幕府ノ画工トナリ
江戸ニ移ル寛永二年四月
二日歿ス年七十五



法橋具慶筆

法眼具慶父筆

住吉廣保

廣純ノ子初廣
芬童名吉松通

称酒之助後十内記又内藏
允ト称ス法名至石寛延三
年五月八日歿ス年八十五



エアルヲ以テ後西院天皇
寛文二年住吉繪所タルベ
キノ勅命アリ同社々司津
守國治旧例ニ仍リ家号ノ
許状ヲ授與ス因テ土佐氏
ヲ改メテ住吉氏ヲ称ス



去佐内記筆

住吉法橋如慶筆

住吉廣守

補廣保ノ子通
称總次郎俊子

内記ト称ス法名至全又賀
慶トイフ安永六年十月二
十二日歿ス年七十三



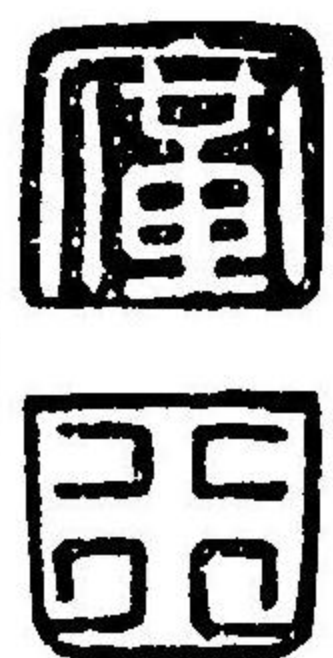
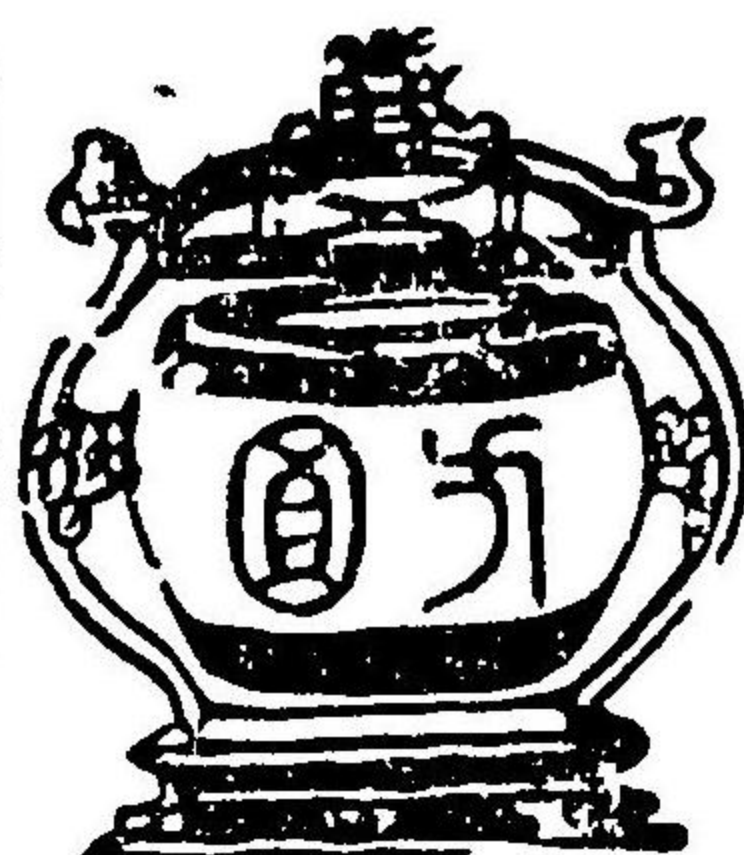
住吉廣守

住吉廣守

住吉廣行

補廣守ノ嗣子
實ハ板谷廣當

ノ男ナリ通称ハ内記景金
園ト号ス文化八年八月六
日歿ス年五十七



住吉廣行筆

住吉内記

住吉廣尚 (補)廣行ノ子文
政十一年七月
二十一日歿年四十八



廣尚画

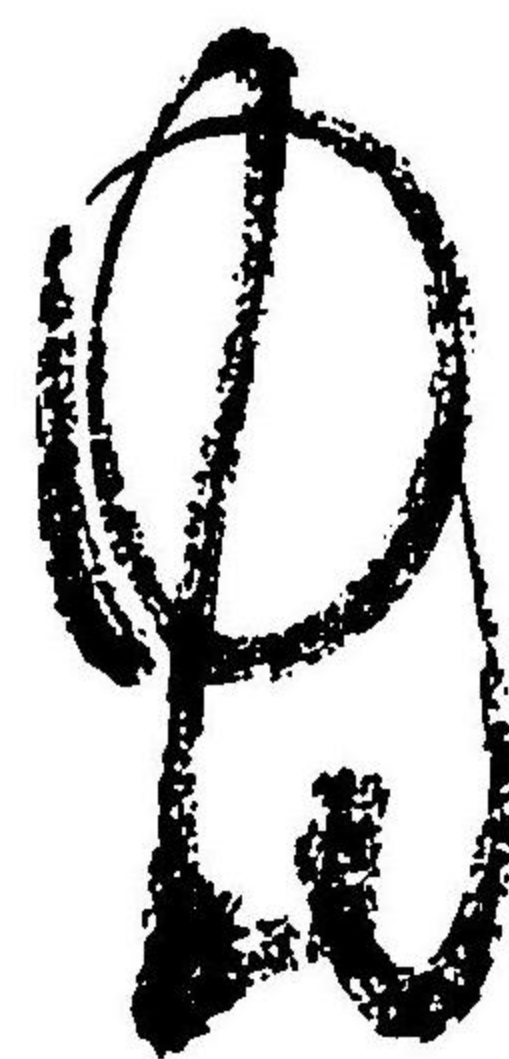
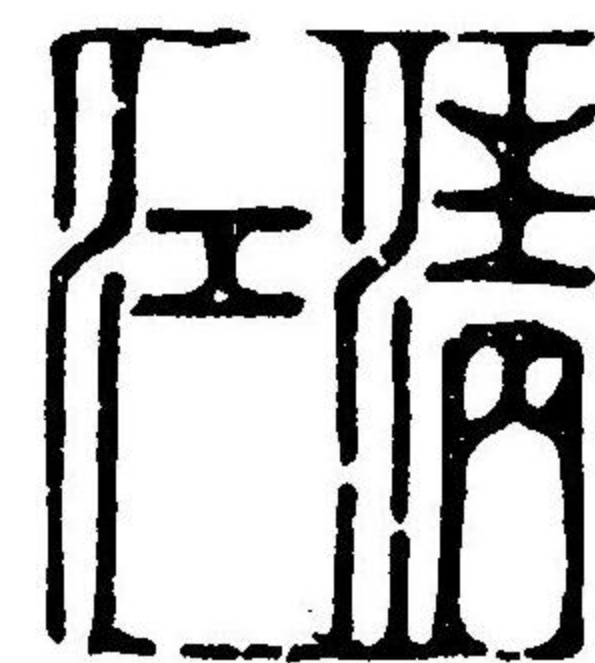
住吉丹記

廣尚

住吉弘貫

廣尚ノ弟ニシテ其後ヲ承ク

初廣定又弘定ト称ス通称内記文久三年七月二十二日歿ス年七十一



住吉外記廣定画

住吉廣賢

弘貫ノ嗣實ハ遠藤廣實ノ男

ナリ内記ト称ス明治十六年五月三十日歿ス年四十九



清江廣賢

生年十二

孝友茂二弟画

板谷廣長

(補)廣當ノ子文
化十一年四月
十七日歿ス年五十五

桂意

住吉廣長筆

板谷廣隆

廣長ノ子桂舟
ト号ス天保二
年五月三十日歿ス年四十六



桂舟

廣隆筆

法眼桂舟筆

板谷弘延

廣隆ノ孫ナリ
桂舟ト号ス



桂舟弘延筆

栗田直芳

初ノ近藤五郎
兵衛ト称シ後

慶羽ト号ス住吉廣守ノ門人ニシテ徳川幕府ノ奥坊主
タリ寛政三年十月十六日
歿ス年六十九



板谷廣當

(補)初廣慶又慶
舟ト称ス住吉

廣守ノ門人ナリ初住吉氏
ヲ冒シ後本姓ニ復ス



行年六十六歳

唐多丹藤原廣當

直隆

直芳

行年六十七歳慶羽筆下

栗田口直隆

直芳ノ子慶羽
珪羽慶受雙齋

尺蠖齋等ノ号アリ文化四
年九月十四日歿ス年五十五

直隆

直隆

直隆

直隆

直隆寫

栗田口隆吉

直隆ノ子珪
節ト号ス

隆吉

栗田

藤原隆吉画

栗田口隆重

隆吉ノ子珪輪
又桂林ト号ス

栗田口桂林隆重筆

隆重

田中訥言

補

訥言

浮田一蕙

浮田一蕙

浮田一蕙

土佐光孚門人
画ヲ能クシ旁

ヲ好ンデ國歌ヲ詠ズ風ニ
勤王ノ説ヲ唱ヘ徳川幕府
ノ獄ニ囚セラレ因テ病ヲ
得テ歿ス追賞シテ從四位
ヲ贈ラル

浮田

一蕙

院生徒

藤原為業

院生

院生

岡田為恭

通称ヲ冷泉三
郎トイフ京都

ノ人着色画ニ巧ミナリ文
久二年五月五日歿ス年四
十二

岡田

為恭

為恭

御子老

藤原朝臣

為業

於京ニ所藤原為恭

并寫之

為業

原在正

在中ノ長子名
近義字子信

原在正

原在正

原在明

補字子徳寫照
ト号ス若狭目

内匠大允兼大和介ニ任ス
京都室町ニ住ス弘化元年
六月十五日歿ス年六十七

原在明

原在明

原内舍人内匠大允

原在明

原在明

原在照

在明ノ子觀瀾
ト号ス内匠少

允兼近江介ニ任ス明治四
年十二月二十一日歿ス年
五十六



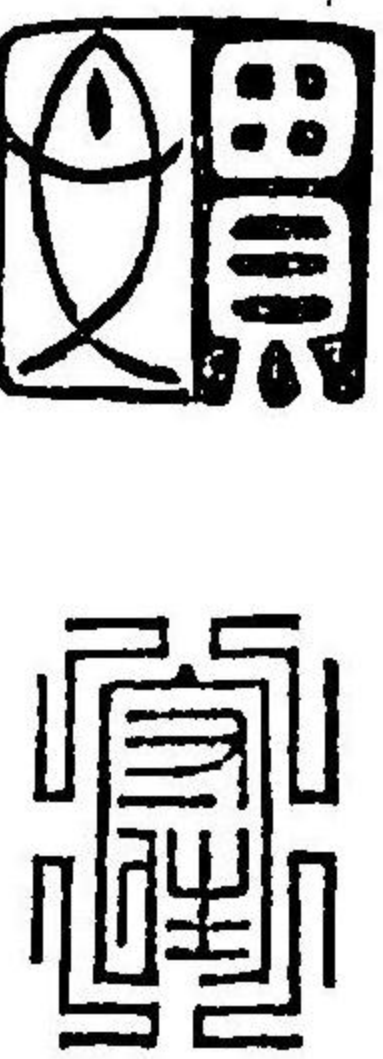
近江守原在照

守住貫魚

字ハ士濟通称
徳次郎回春斎

ト号ス阿波ノ人藩ノ画師
ナリ後チ大坂ニ移居ス文
化六年ニ生レ幼ヨリ画ヲ
好ミ住吉弘貫ニ学ビテ山
水花鳥ヲ善クス諸國ヲ歴
遊シテ足跡殆ンド國內ニ
遍ネシ明治五年画ヲ博覧
會ニ出シテ銅牌ヲ得十七
年又繪画共進會ニ出シテ
金印ヲ受ク二十三年美術
協會ニ出シテ亦金牌ヲ得
帝室技藝員ト為リ二十五
年二月二十六日歿ス年八十四

賞賜金印



貫魚

山名貫義

幼名大助天保
七年三月江戸

二番町ニ生ル和歌山藩士
ナリ幼ヨリ画ヲ好ミ旧幕
府ノ繪師住吉弘貫ノ門ニ
入り其蘊奥ヲ極ム維新ノ
後測量技術ヲ以テ工部省
内務省ニ出仕シ數官ヲ歴
任シ東京美術学校教授ニ
任ジ從六位ニ叙ス明治十

七年画ヲ繪画共進會ニ出
シテ銀章ヲ受ク十九年皇
居御杉戸并ニ御襖ヲ画ク
廿九年帝室技藝員ト為ル
三十五年六月十一日從五
位ニ叙シ勲六等ヲ授ケラ
ル是日歿ス年六十七



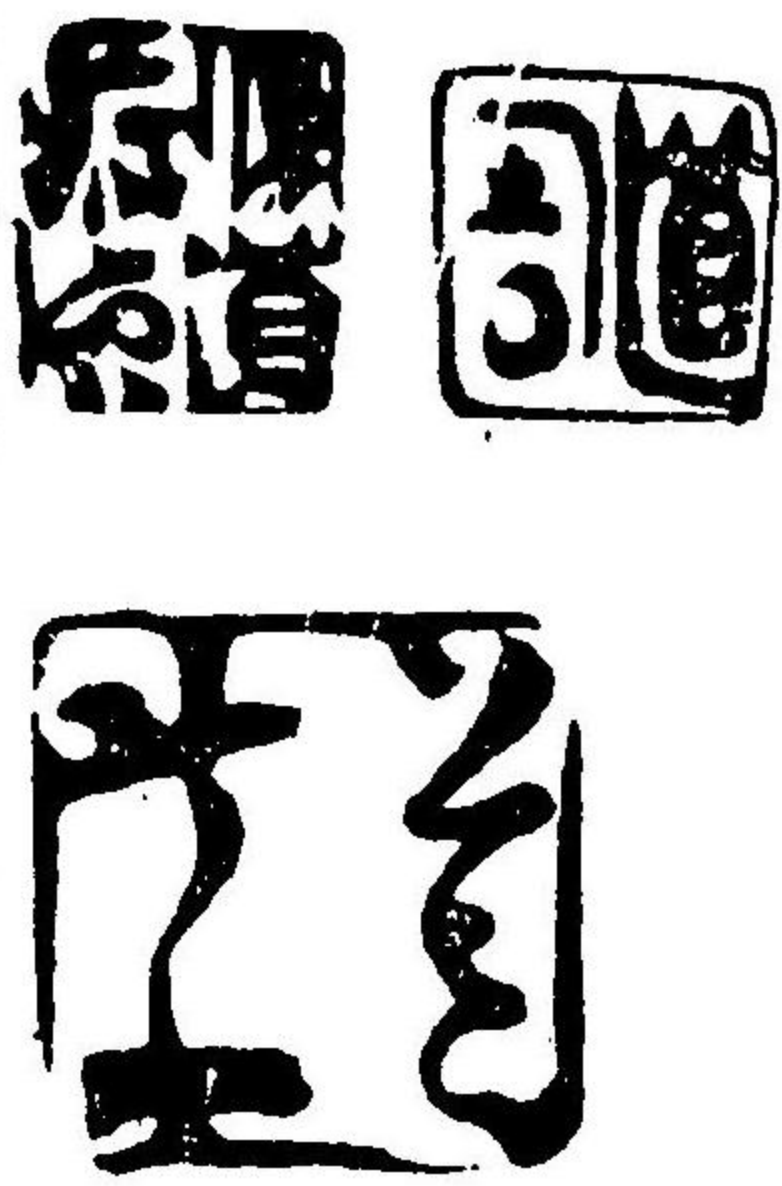
鬼頭道恭

尾張ノ人ナリ
岡田為恭ニ学

ンテ得ル所アリ大ニ仏画
ニ長ズ天保十一年ニ生ル



藤原虎太郎



川崎千虎

初名源六後鞠
太郎ト改メ更

ニ千虎ト改ム鞠屋又茶六
巷ト号ス旧名古屋藩士ナ
リ天保六年十二月生ル画
所預土佐光文ノ門ニ入り
画道及公家有職ヲ研究ス
画ヲ博覧會共進會等ニ出
シテ屢褒賞ヲ受ク明治十
一年帝國博物館ニ出仕シ
後チ東京美術学校教授ト
為リ現ニ内務省古社寺保
存會委員タリ

狩野光信

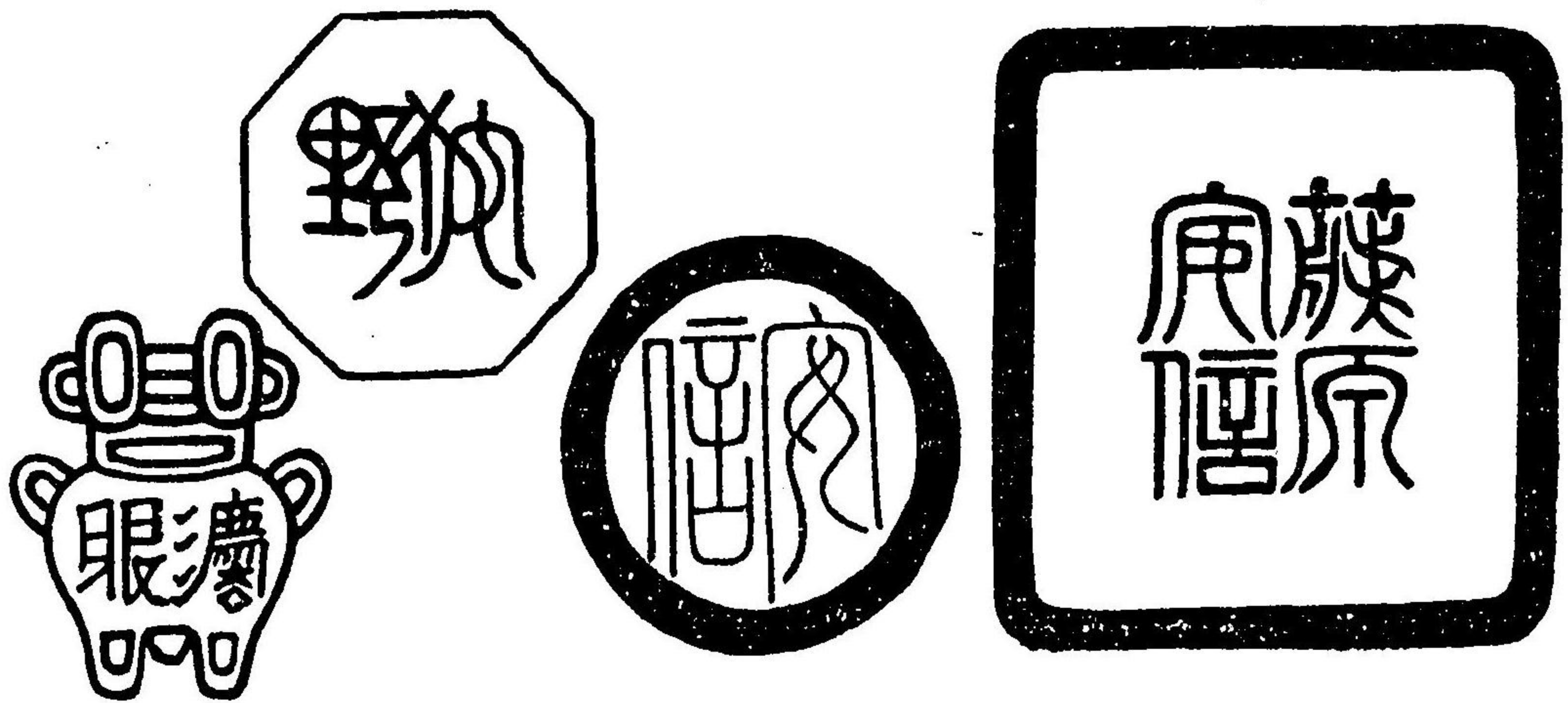
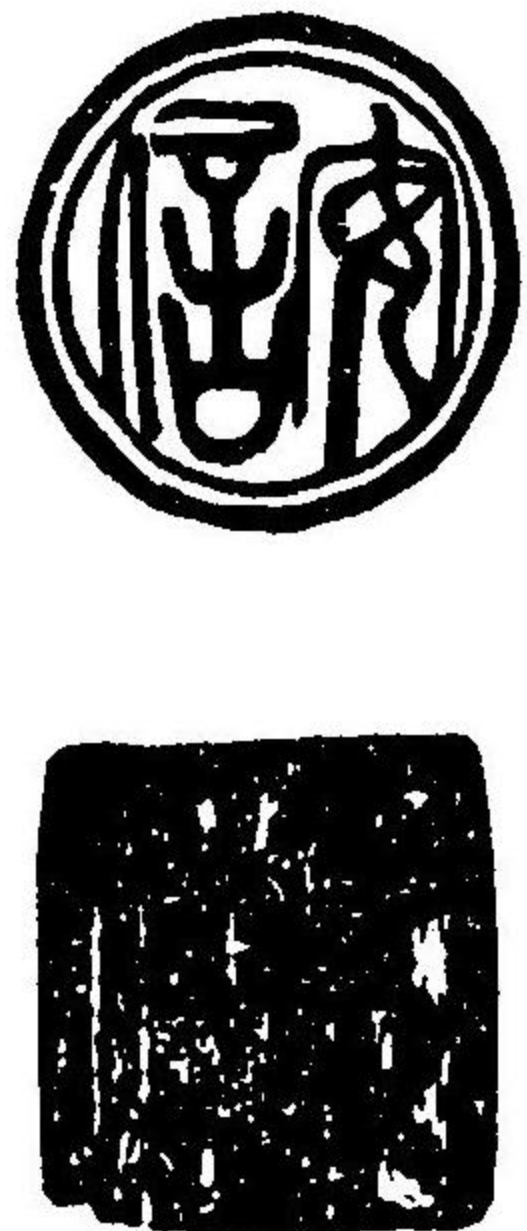
補狩野氏六世
ナリ初メ四郎

治郎ト称ス家法ヲ学ビ且
宋人玉淵ガ山水ヲ倣フ豊
太閣ニ仕ヘ後チ徳川家康
ノ召ニ應ジテ東行シ歸途
桑名ニ歿ス慶長十八年六
月四日ナリ



狩野永真

安信補



夫信筆

後

狩野時信

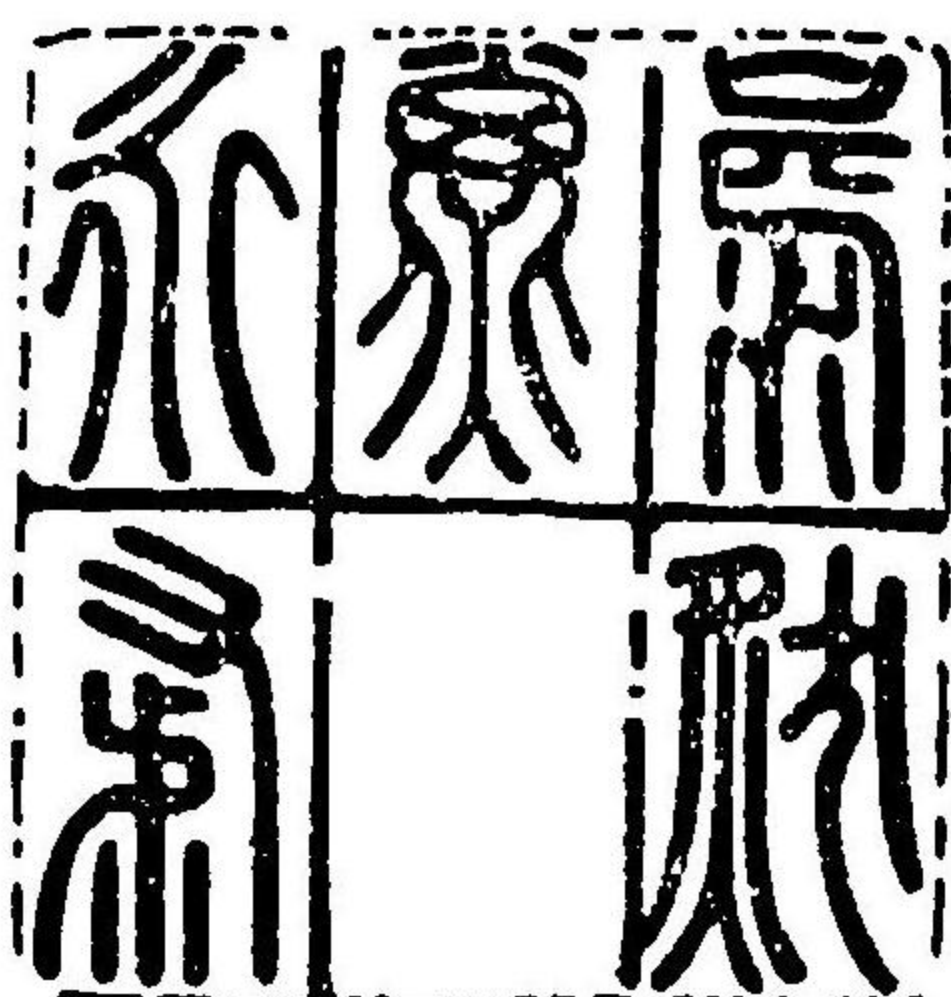
(補)



時信筆

狩野永叔

(補)



狩野永真

憲信(補)



真

狩野祐清

(補)



祐清



祐清

祐清



法眼

祐清

五



狩野永徳

英信ノ子名ハ
高信初四郎次

郎ト録ス法眼ニ叙ス最モ
花鳥ヲ能クス寛政六年十
二月廿九日歿ス年五十六

狩野永賢

高信ノ子初ノ
名ハ利信後泰

信ト改ム寛政十年八月十
日歿ス年三十二



高信

永賢



永賢利信画



狩野邦信

祐清ト録ス初
ノ探秀トイフ

永賢ノ養子實ハ探牧守邦
ノ二男法眼ニ叙ス天保十
二年二月二十日歿ス年五十四

五

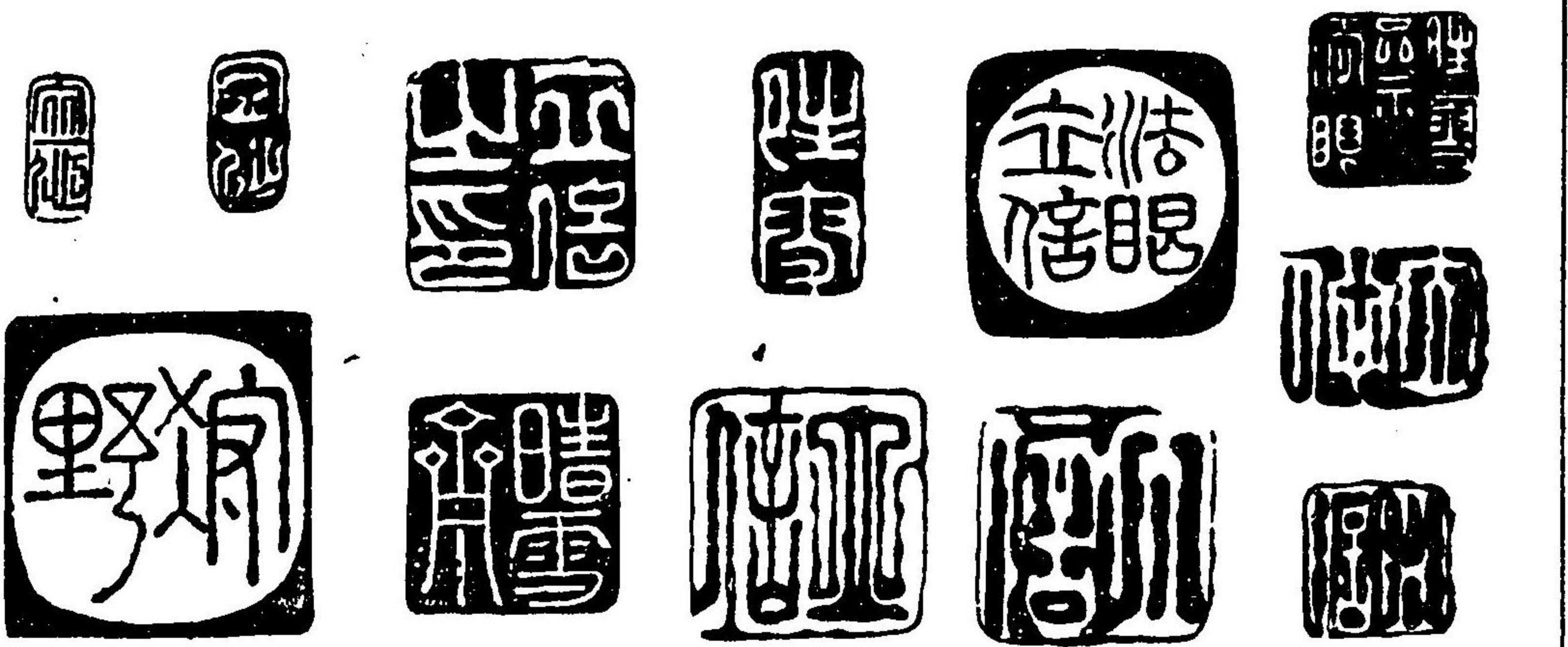
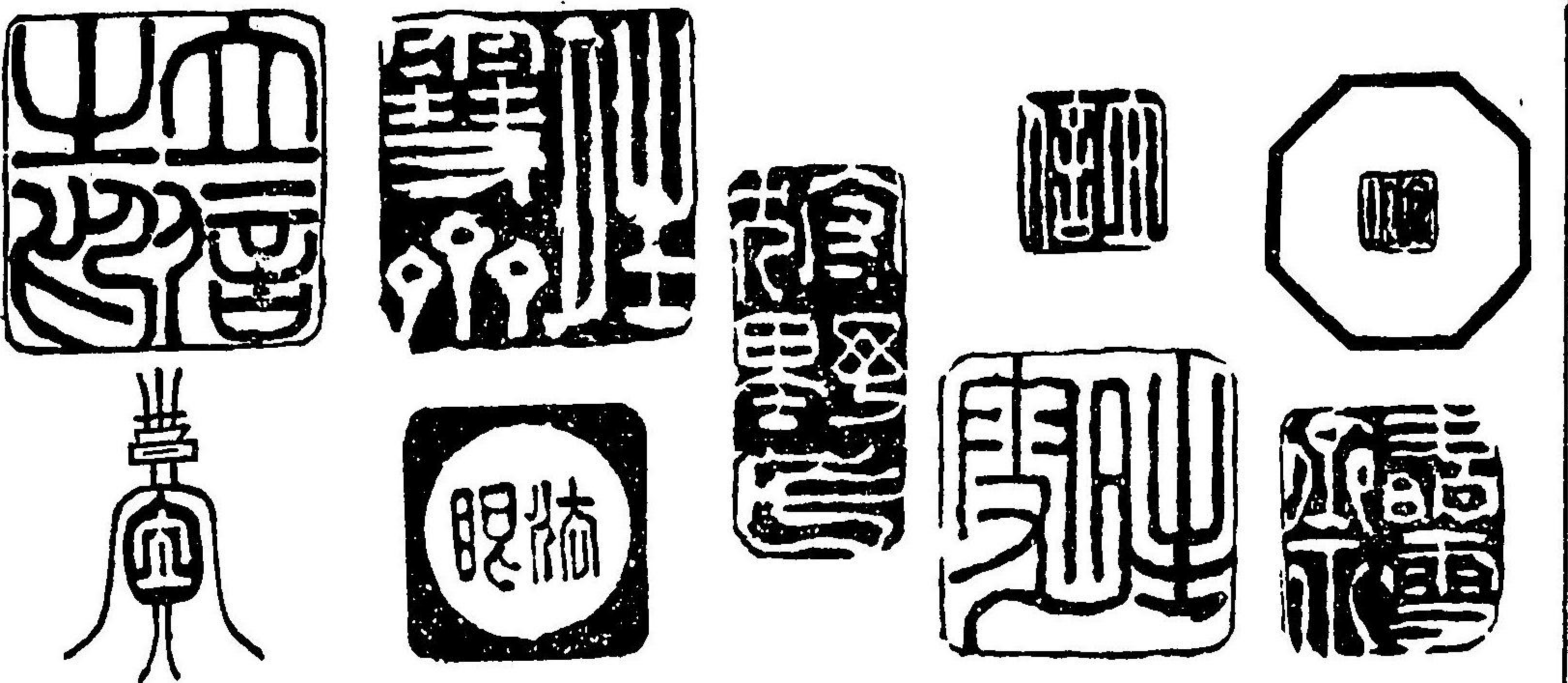
五

狩野永真

伊川ノ五男邦
信ノ家ヲ継グ

名ハ立信永真ハ其号ナリ
又晴雪斎ト号ス徳川幕府
ノ奥画師トナリ法眼ニ叙

ス明治二十三年十月帝室
技藝員ト為リ二十四年一
月二十九日歿ス年七十八



性季飛



藤原

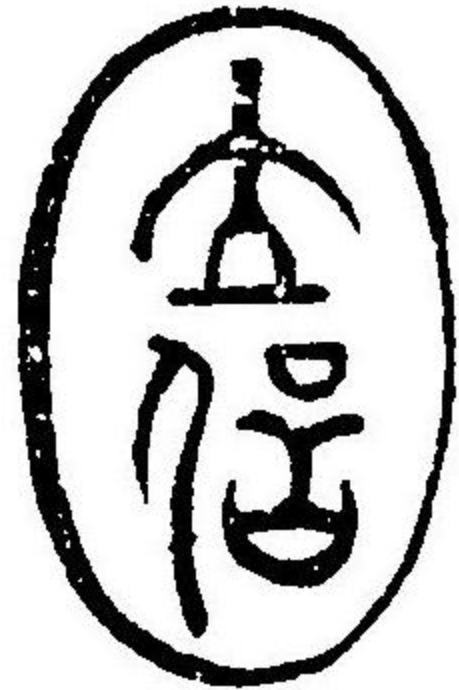
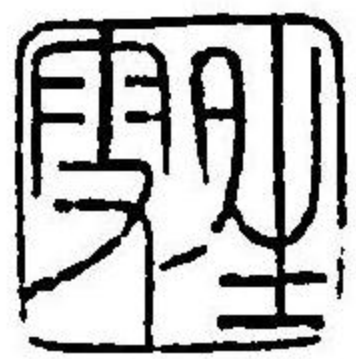


原

原

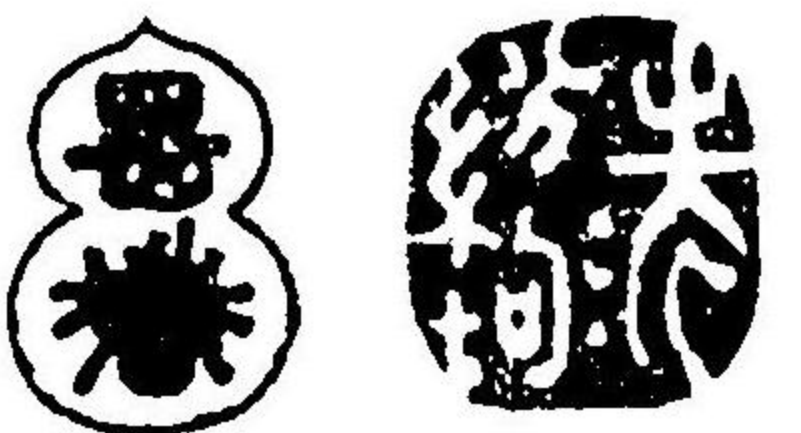
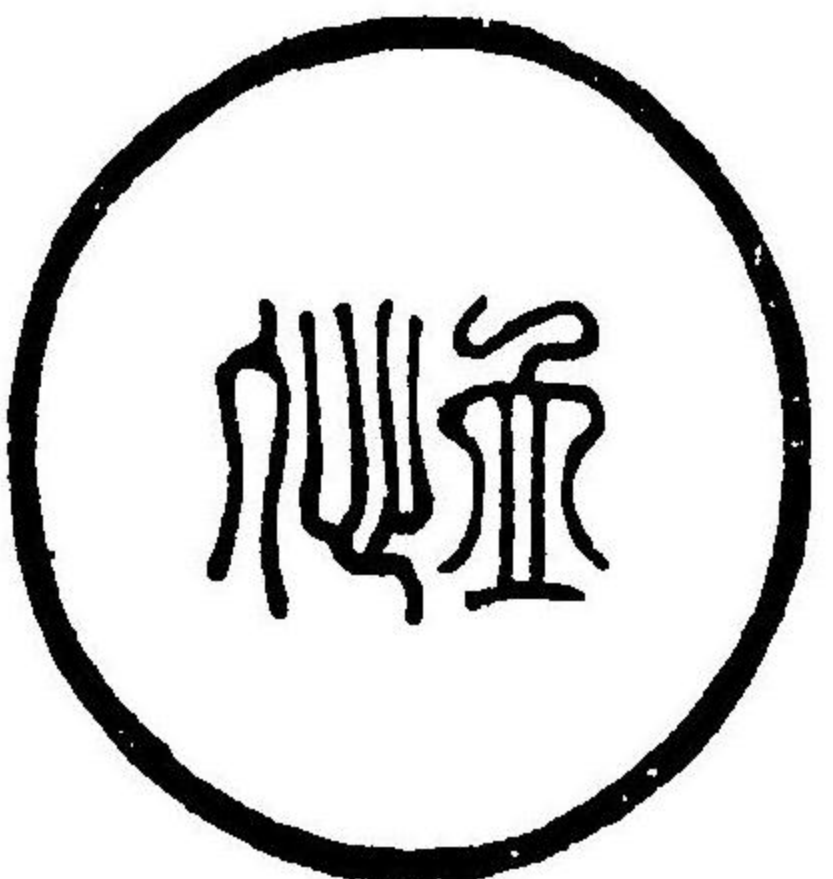
原

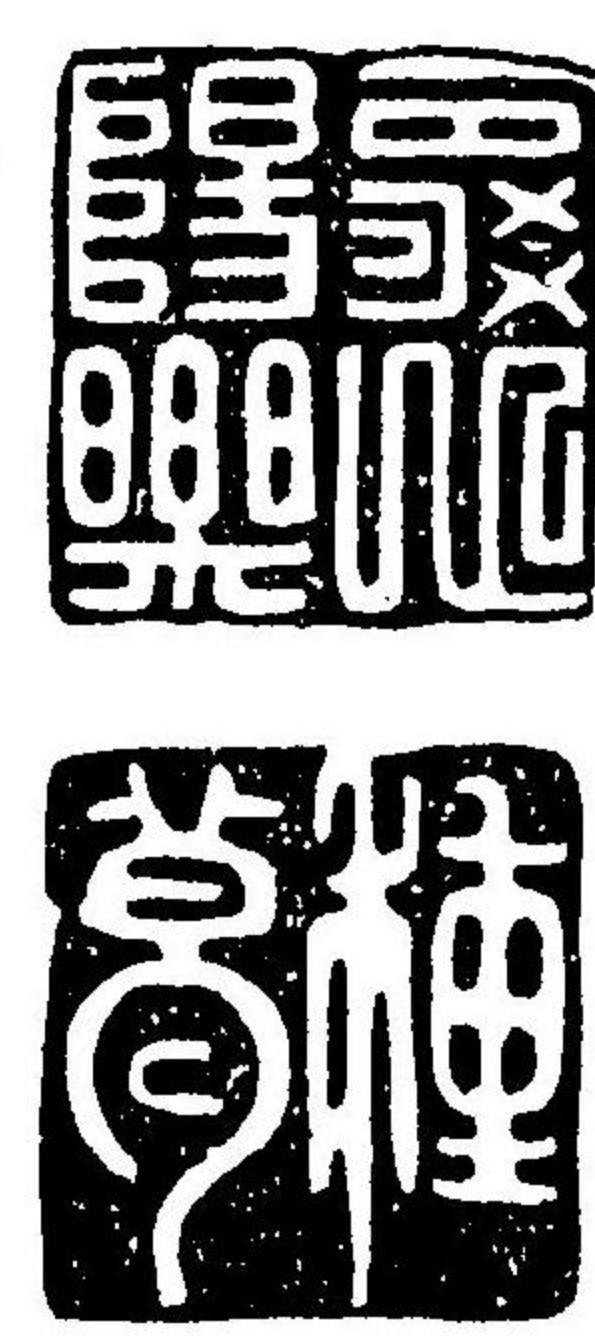
原



山城

山城





狩野永信

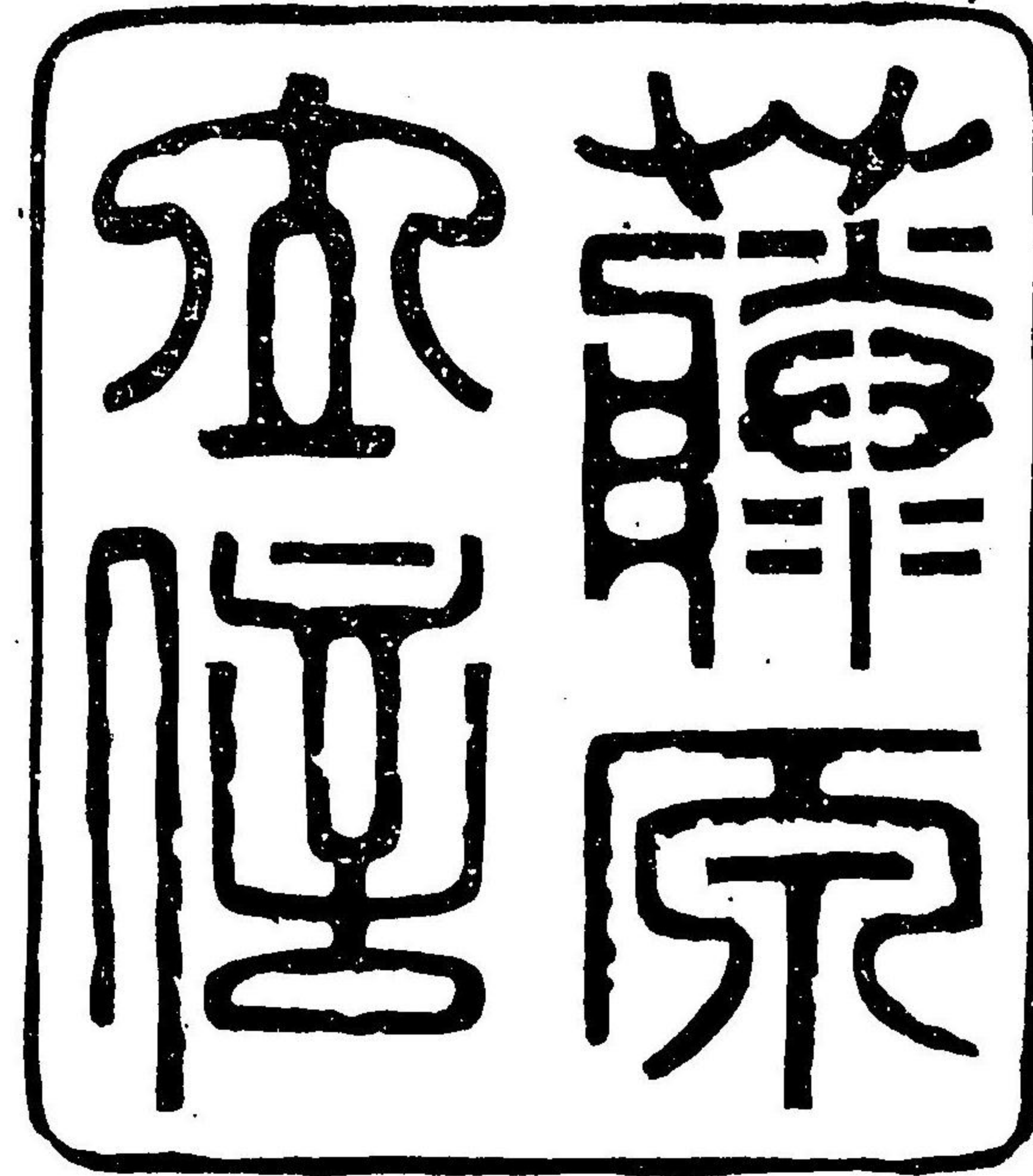
永信藤原立信筆

法眼藤原立信畫

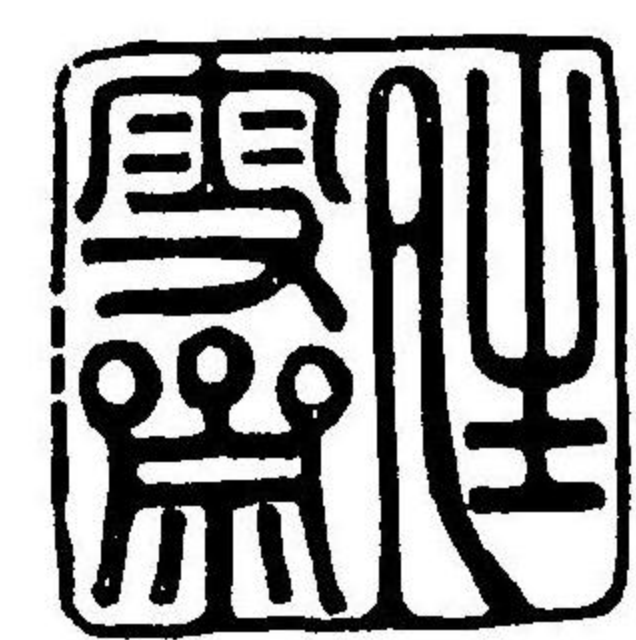


大藏卿永信

時香可法眼筆



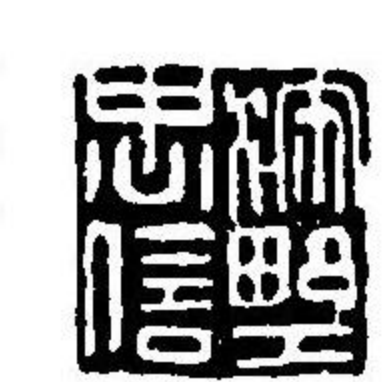
名



狩野祐正

名ハ忠信初力
三郎ト称ス永

惠ノ養子ナリ画ヲ養父ニ
学ビ能ク其祖風ヲ守リテ
神髓ヲ得タリ



忠信筆



出

狩野守信

(補幼名四郎治郎ト称シ探幽

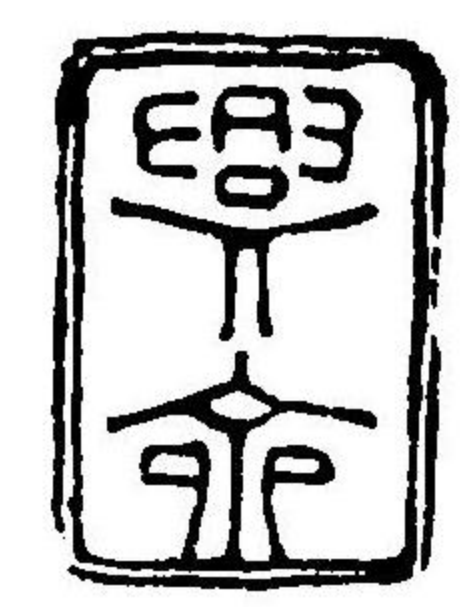
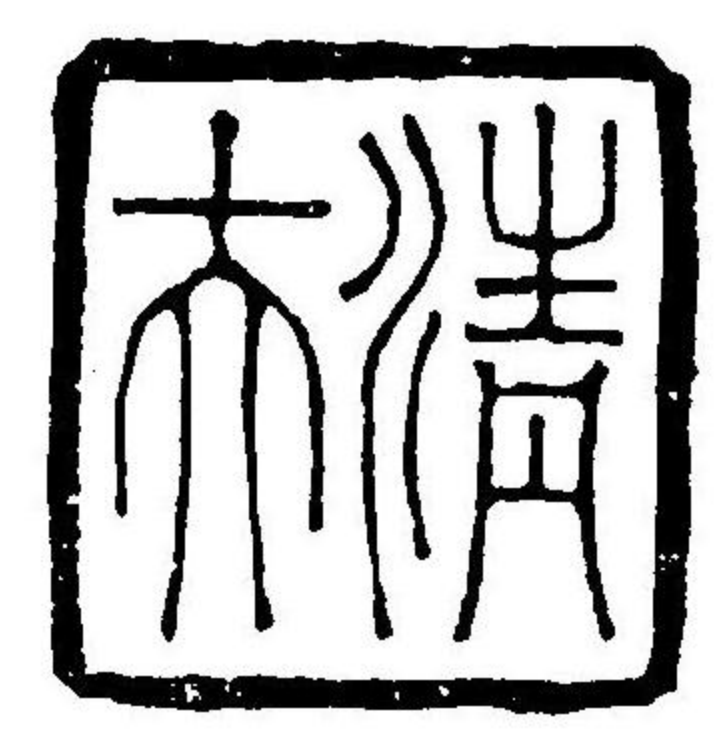
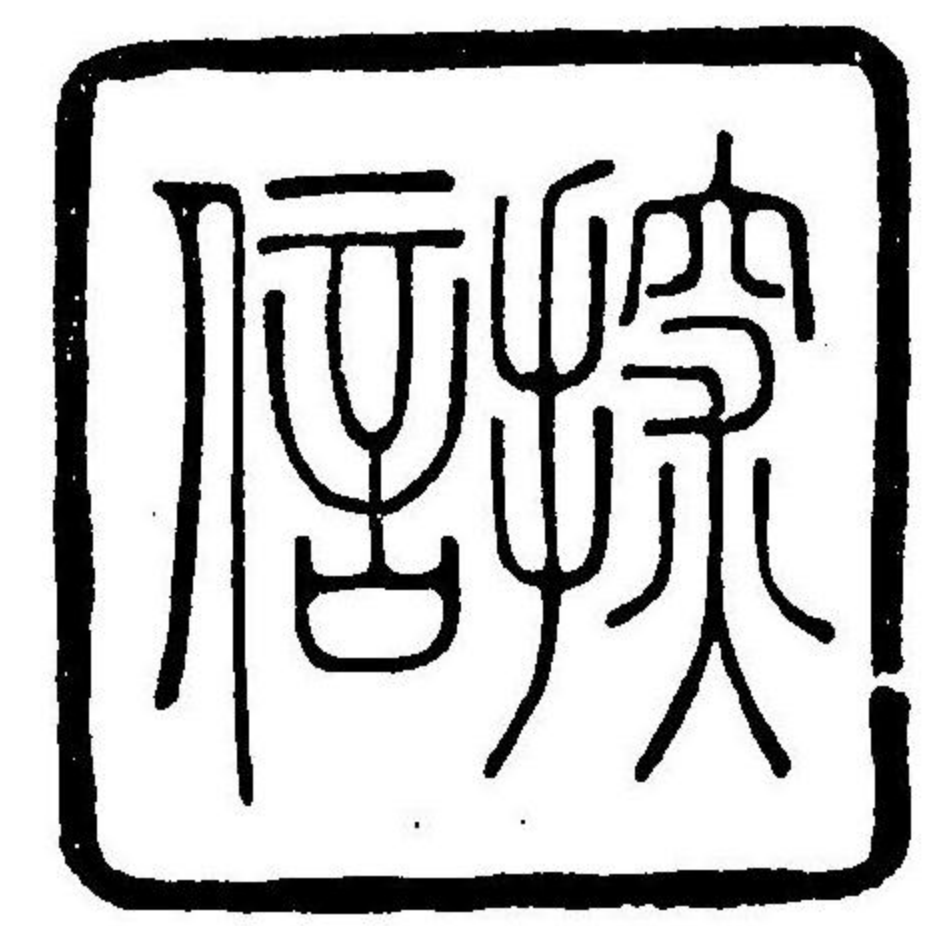
斎又白蓮子ト号ス初宋人
牧溪其他宋元ノ古蹟ヲ慕
ヒ又可翁及ビ雪舟ノ筆意
ヲ学ビ遂ニ一機軸ヲ出ス
時人称シテ画仙トス年甫
ノテ十一徳川家康ニ駿府
ニ謁シ爾来画ヲ以テ屢召
サル寛文二年後水尾上皇
ノ召ニ應ジ悉クモ玉躰ヲ
画カシメ玉フ今猶般舟院
ニ奉藏スル所ノ尊像是レ

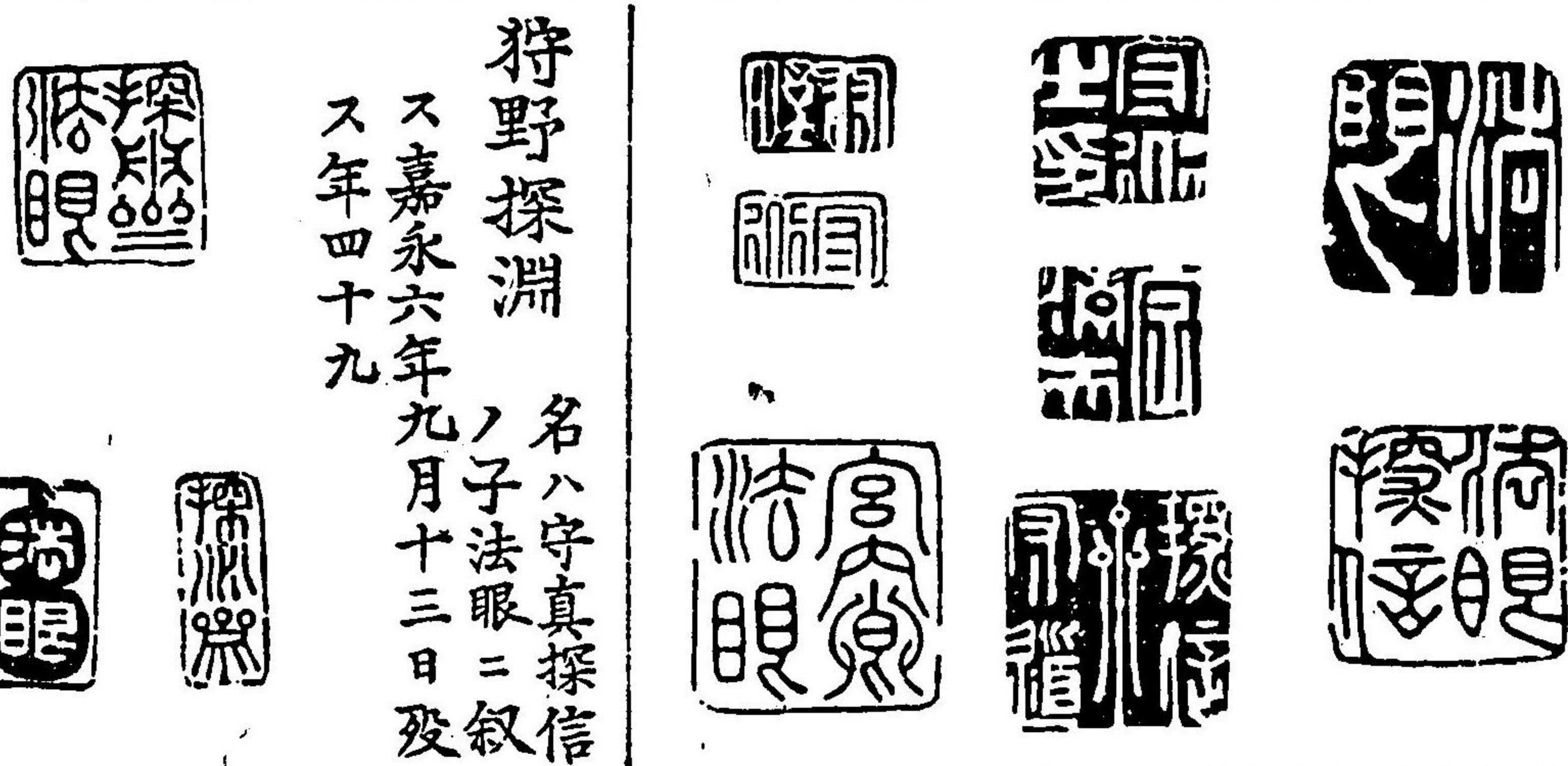
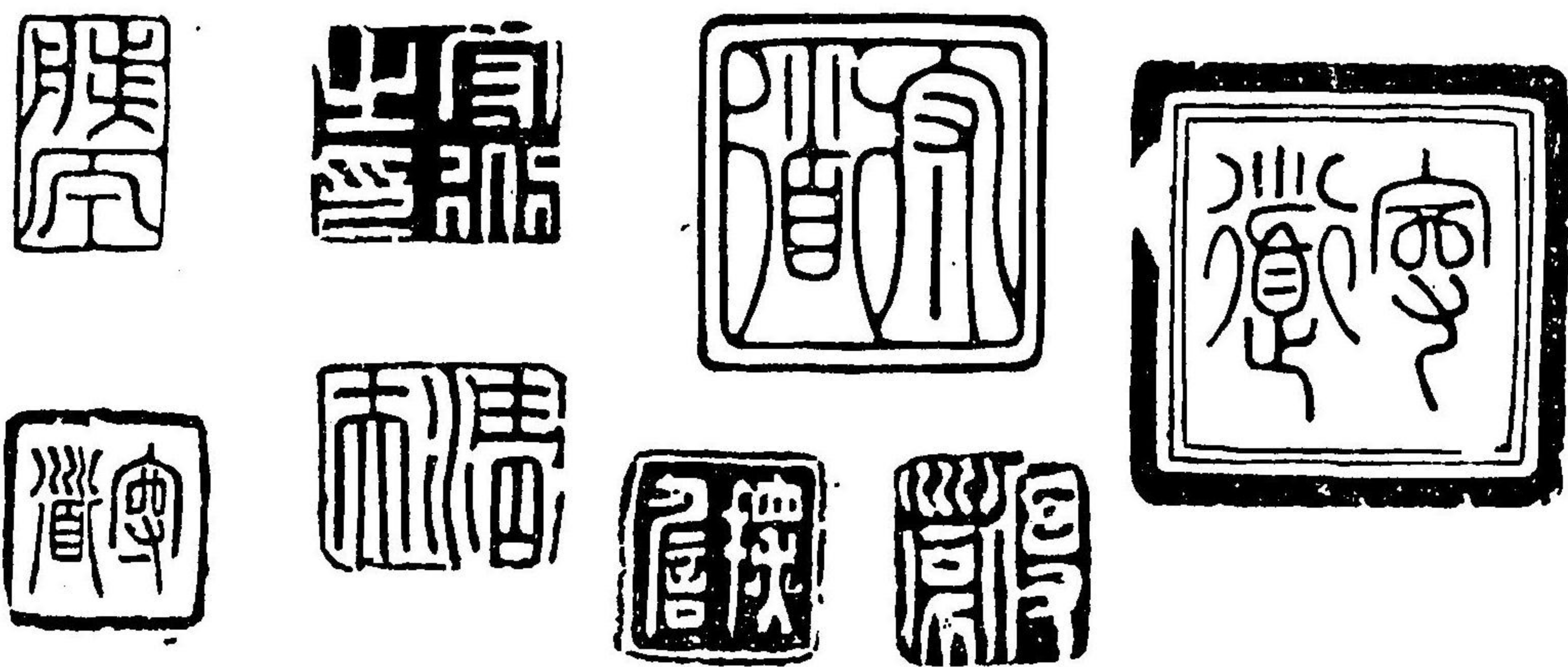
此二顆茶家印譜所載

狩野探信

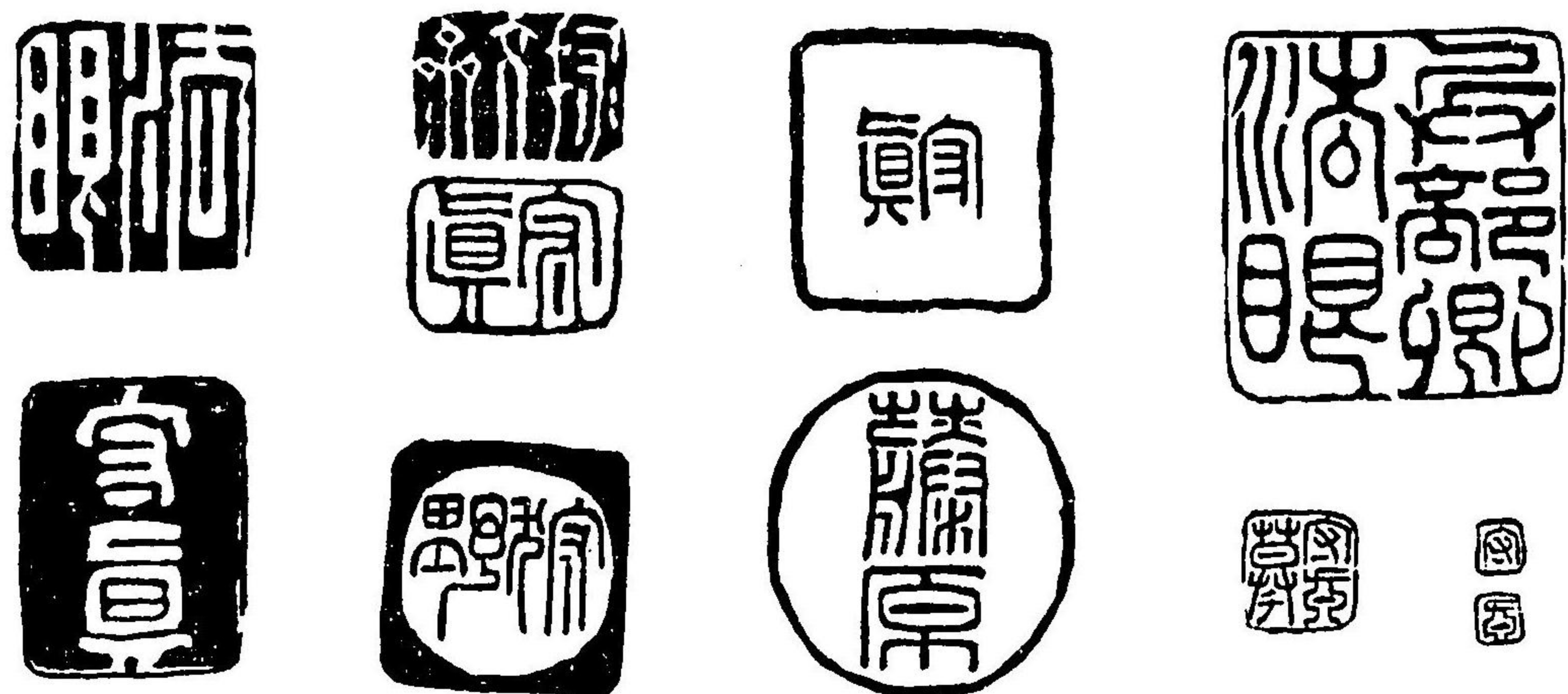
名ハ守道清夫
ト号ス探牧守

邦ノ子法眼ニ叙ス天保六
年歿ス年五十一

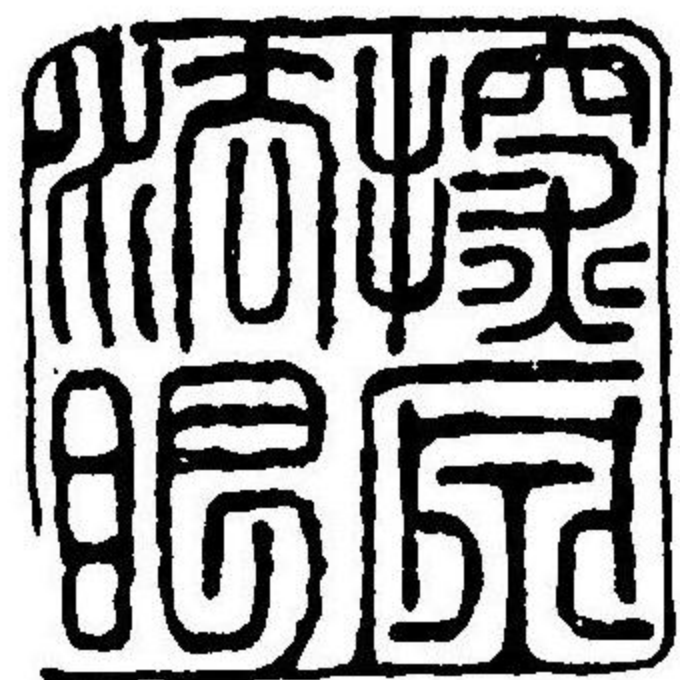




狩野探淵
名八守真探信
ノ子法眼二叙
嘉永六年九月十三日歿
又年四十九



狩野探原
名八守經探淵
ノ長男慶應二
年歿又年三十八

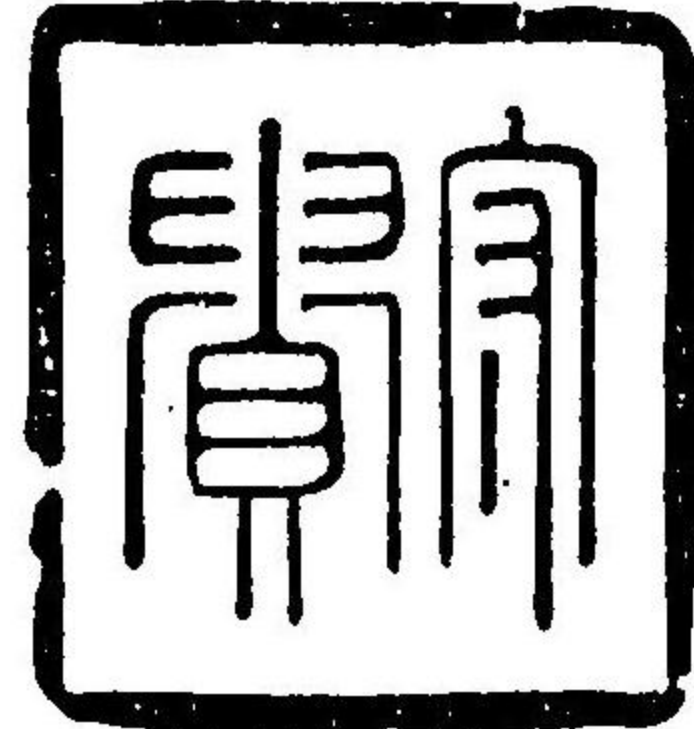
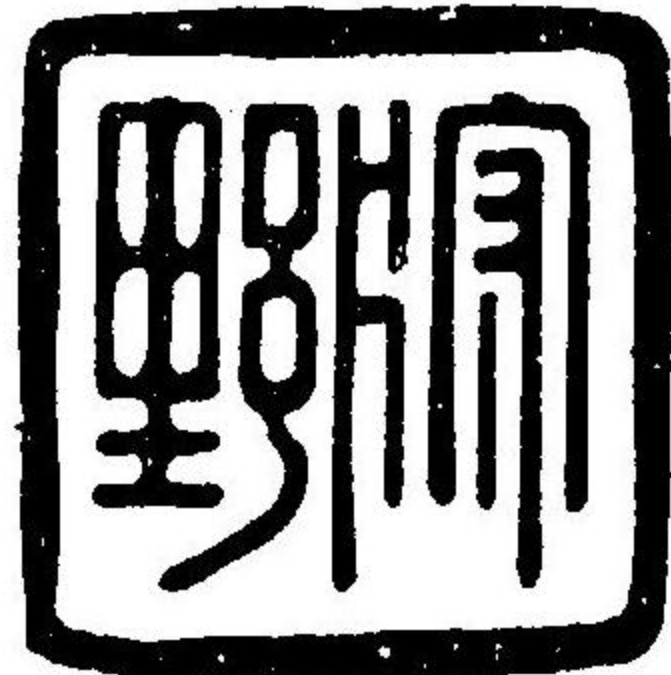


狩野探美

ハ守貴探淵
ノ皇居御
造管ノ時繪画御ヲ命ゼ
ラレシメ
シテ銀印ヲ受 又其審査
員ト為リ全國宝物取調掛
ノ職ヲ奉ス明治二十六年
歿ス年五十四

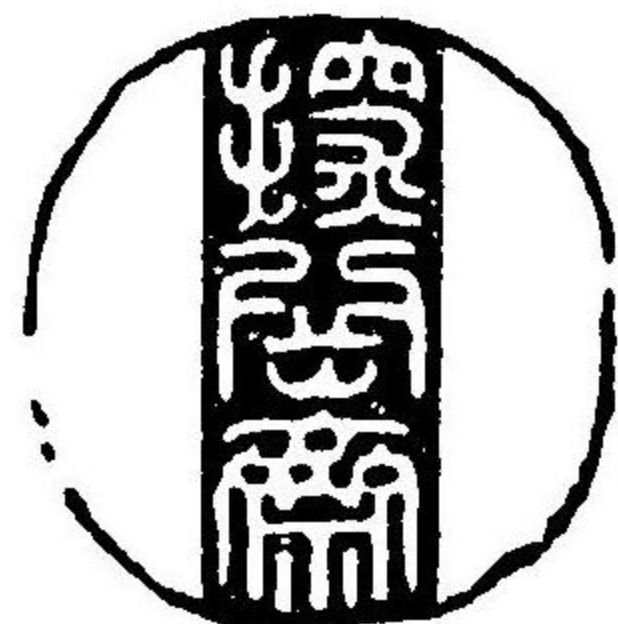
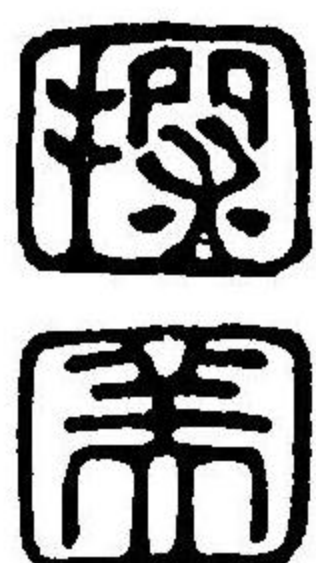


印銀



狩野探岳
六年生ル

名ハ守節探原
ノ子ナリ安政



狩野榮川

印ニ叙ス

補名ハ典信白
玉斎ト号ス法



榮川院

法印ノ子

狩野養川

補名ハ惟信典
信ノ子法印ニ
叙ス文化五年正月九日歿
ス年五十六



養川院法印

藤原惟信筆

狩野伊川

補名ハ榮信玄
賞齋ト号ス養
川ノ子ナリ法印ニ叙ス文
政十一年七月四日歿ス年
五十四



伊川院法印筆

此印本編典信ノ
印ト為ス伊川モ亦
用テ製用セシナル
ニ

狩野晴川

伊川ノ子名ハ
養信初ノ玉川
トイヒ會心齋ト号ス法印
ニ叙ス弘化三年五月十九
日歿ス年五十三

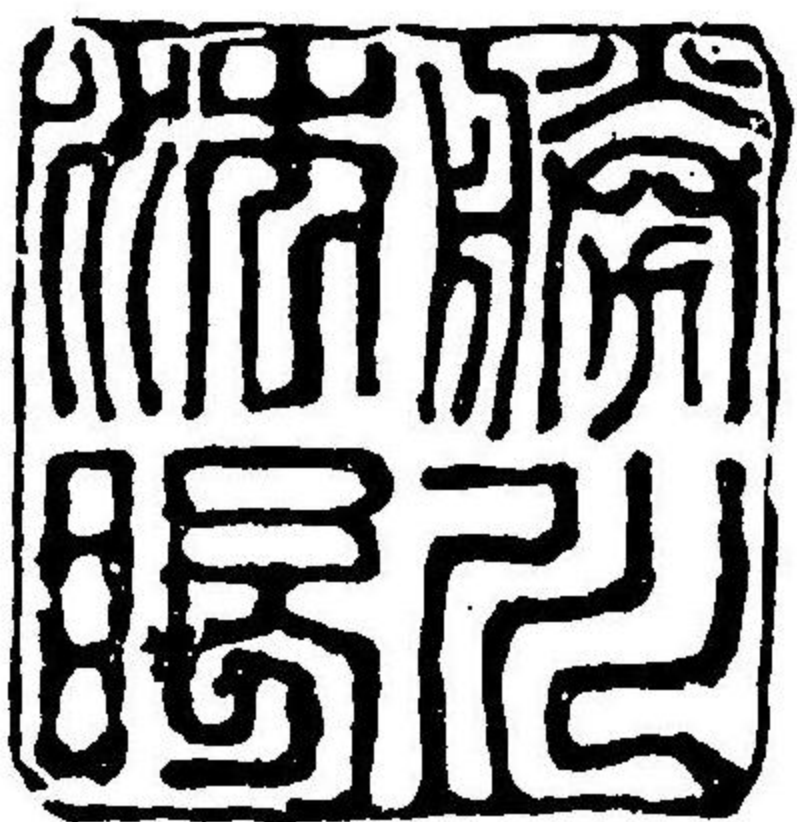
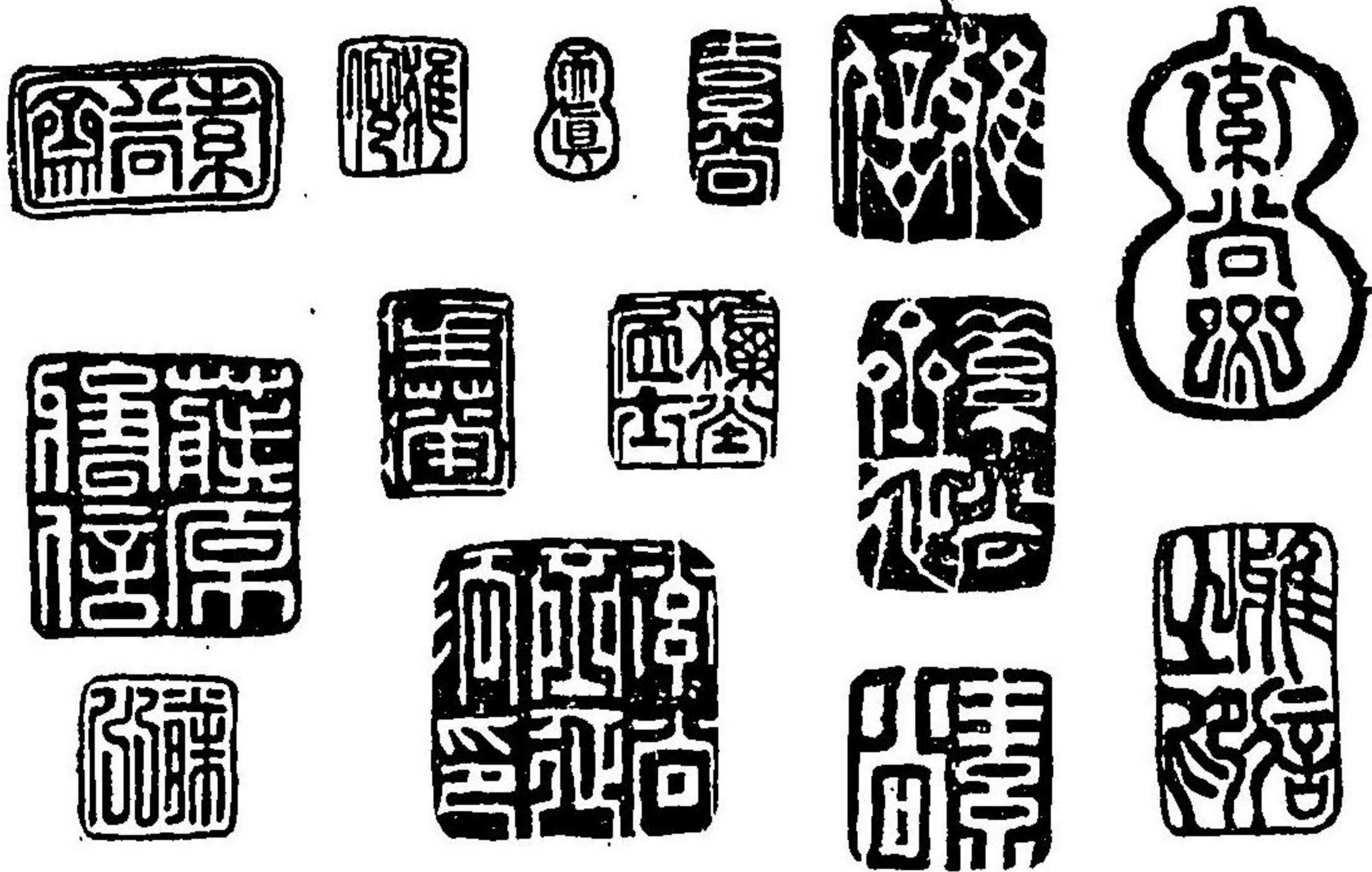
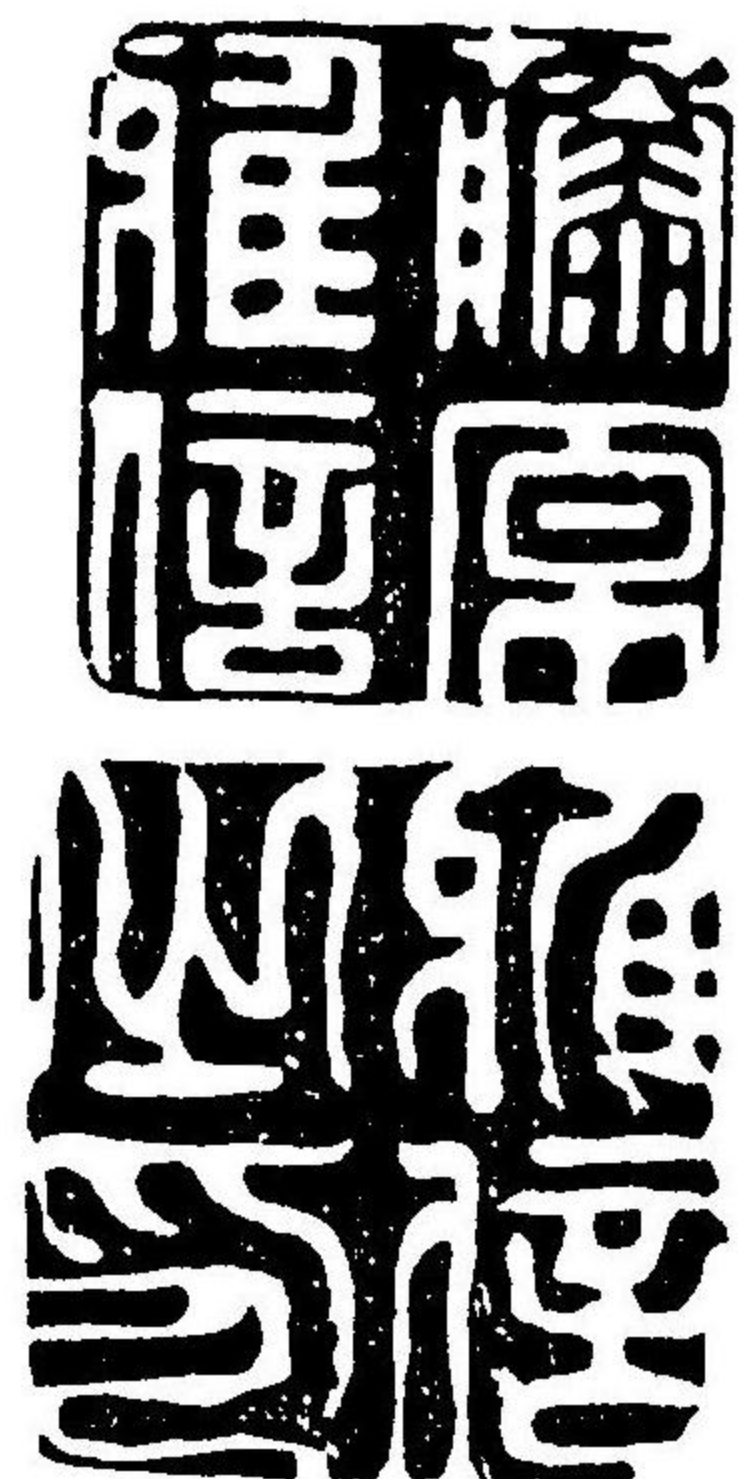


晴川ノ子名ハ
惟信素尚齋尚
古櫛堂等ノ号アリ弘化元
年法眼ニ叙シ万延元年法
印ニ叙ス明治十二年八月
八日歿ス年五十七



狩野勝川

晴川ノ子名ハ
惟信素尚齋尚
古櫛堂等ノ号アリ弘化元
年法眼ニ叙シ万延元年法
印ニ叙ス明治十二年八月
八日歿ス年五十七

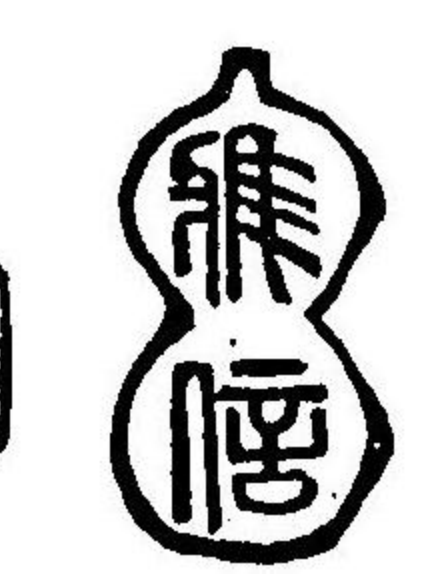


島津齊彬公拜領

狩野
信雅



信雅



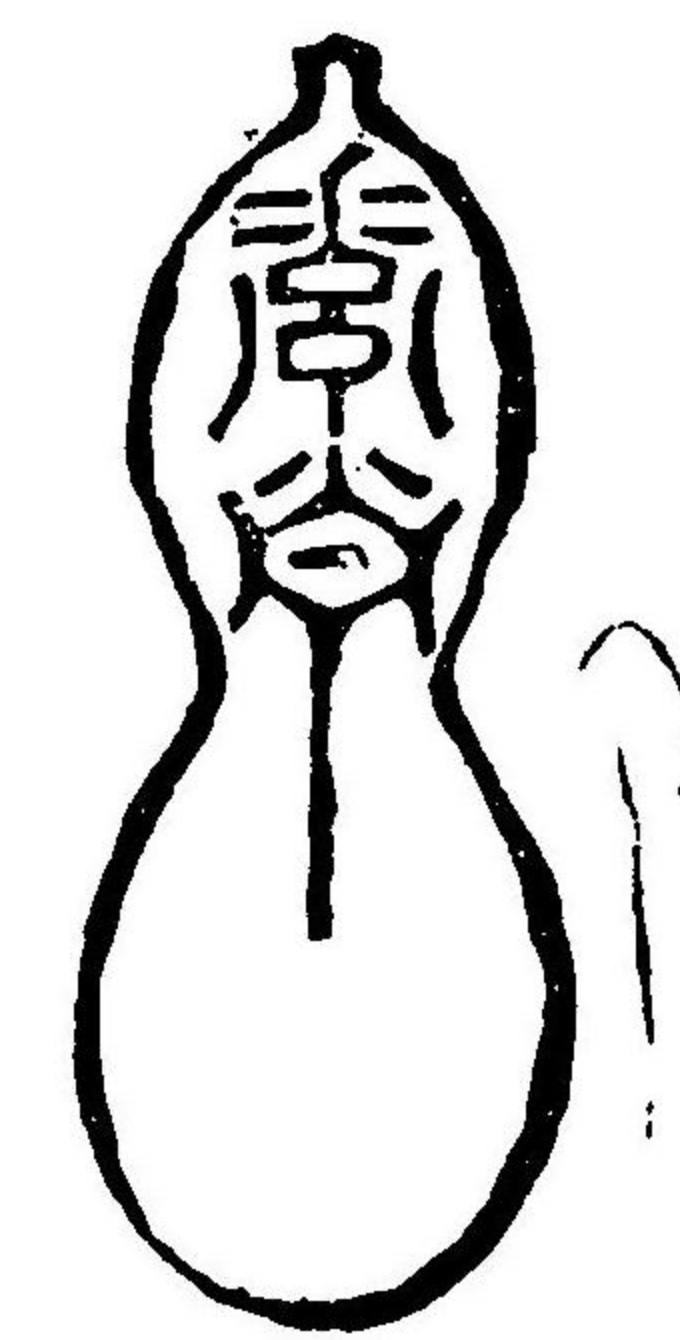
川勝

素尚

信雅



狩野
信雅



信雅

狩野
信雅

狩野
信雅

狩野
信雅

狩野やさ女
英信ノ女高信ノ妹ナリ画ヲ能クス嘗テ徳川家ニ奉公ス將軍家治ノ画ハ蓋シ法ヲ此女ニ得タルモノト云

狩野
信雅

狩野融川

名ハ寛信青梧ノ男ナリ法眼ニ叙ス性豪爽將軍家齊ノ時朝鮮王ニ贈ラントシテ近江景ヲ屏風ニ画カシム老中阿部豊後守其ノ金砂ノ薄キヲ咎ム融川曰ク近景ハ濃クシ遠景ハ薄クス是レ殊ニ意ヲ加フル所ト阿部侯聴カズシテ補筆ヲ命ズ融川勃然トシテ曰ク良工ノ手段俗目ノ知ル所ニ非ズト城ヲ下リ途ニ輿中ニ在テ屠腹シテ死ス時ニ文化十二年三月十九日ナリ年三十八

融川
法眼筆

融川
法眼筆

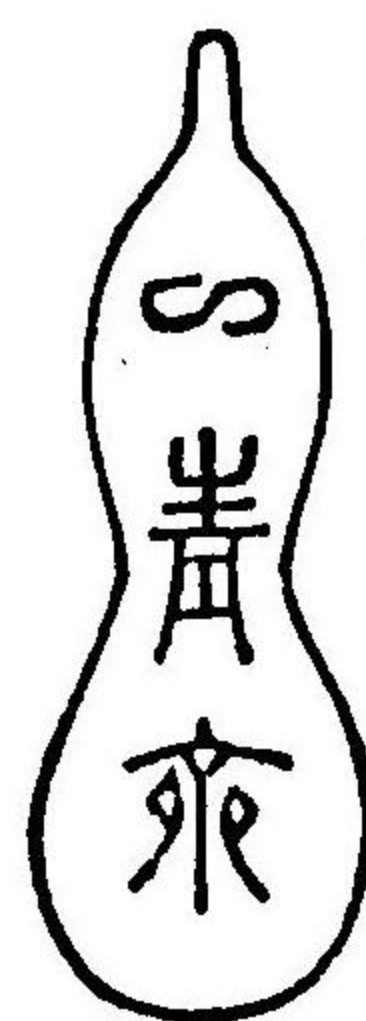
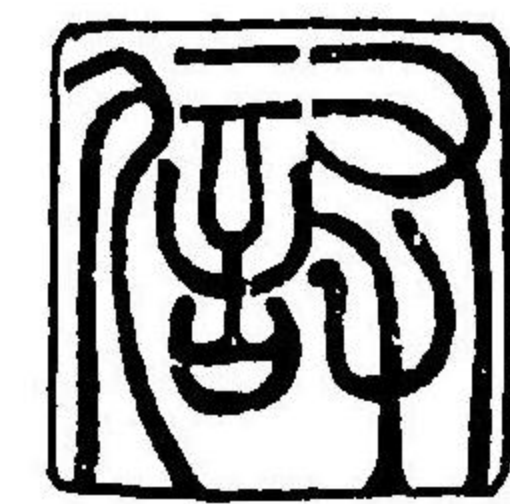
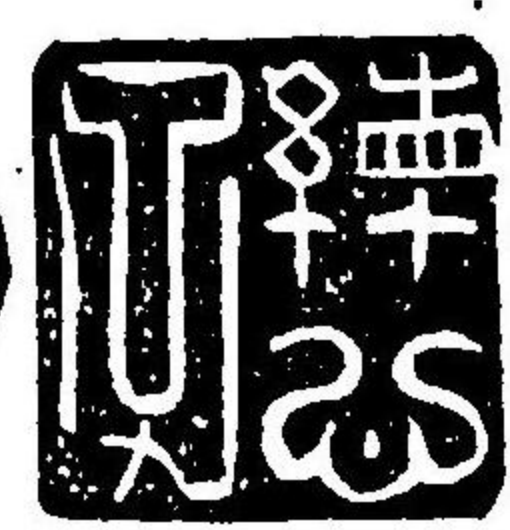
狩野董川

名ハ中信余樂齋ト号ス伊川院法印ノ四子友川助信ノ養子トナル法眼ニ叙ス明治四年五月九日歿ス年六十一

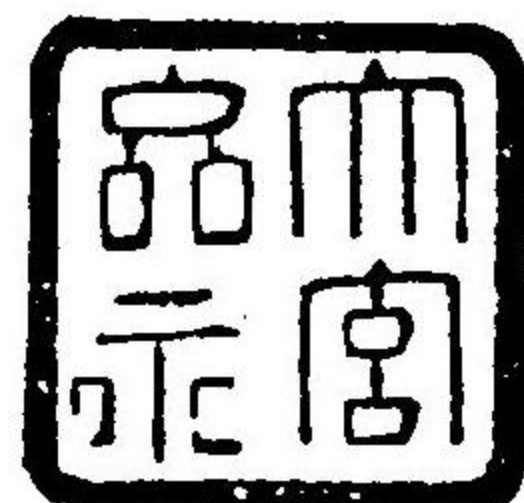
董川
法眼

董川
法眼

狩野春川 名ハ友信一青
斎ト号ス董川
ノ男ナリ東京開成学校助
教諭トナル



狩野彰信 壽石賢信ノ子
大玄斎素川ト
号シ外記ト称ス画法ヲ其
父ニ学ブ文化九年十月歿
ス年六十二

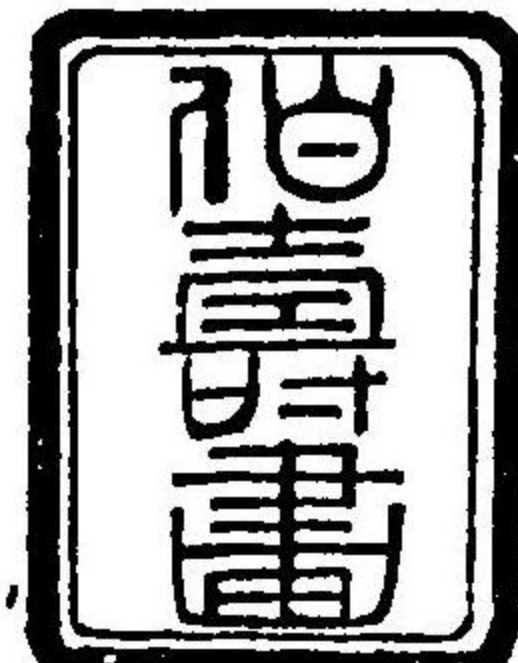
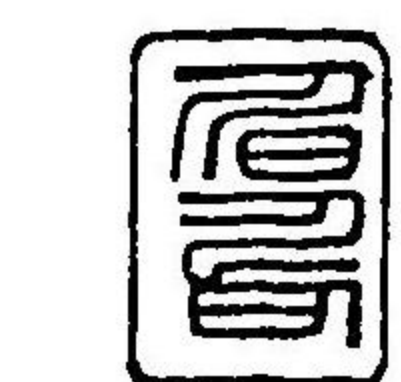
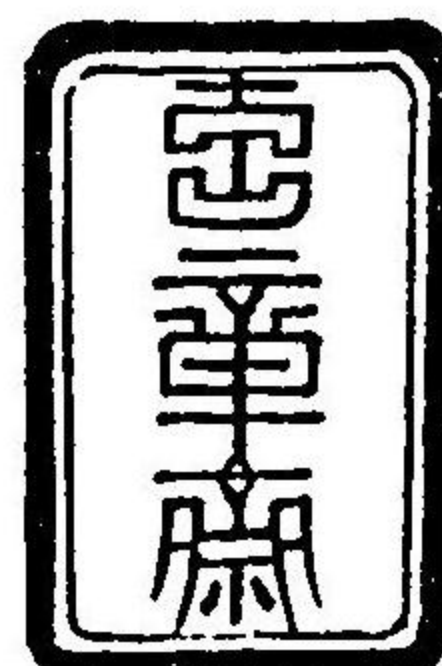


狩野素川 華

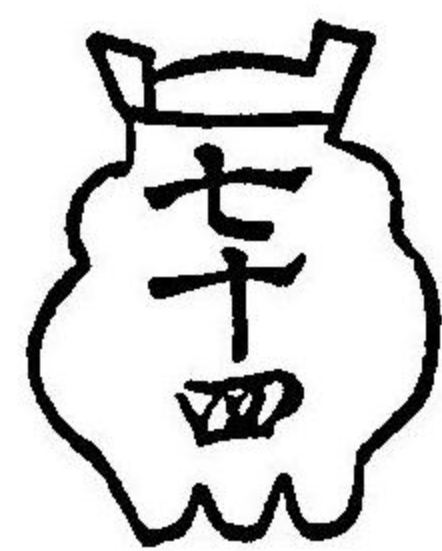
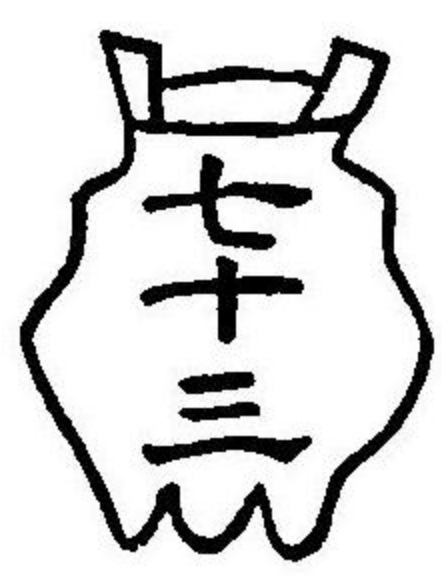
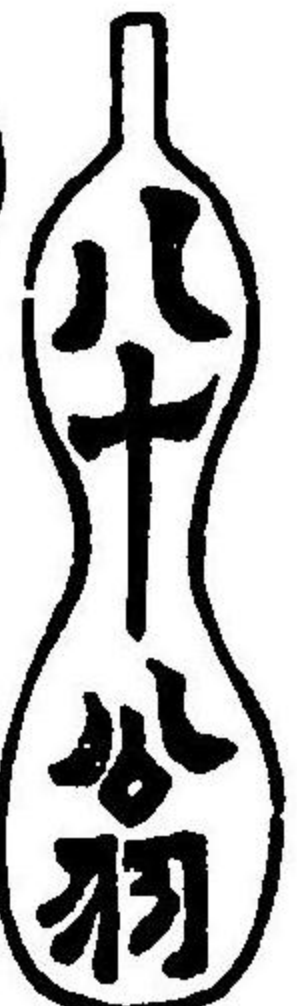
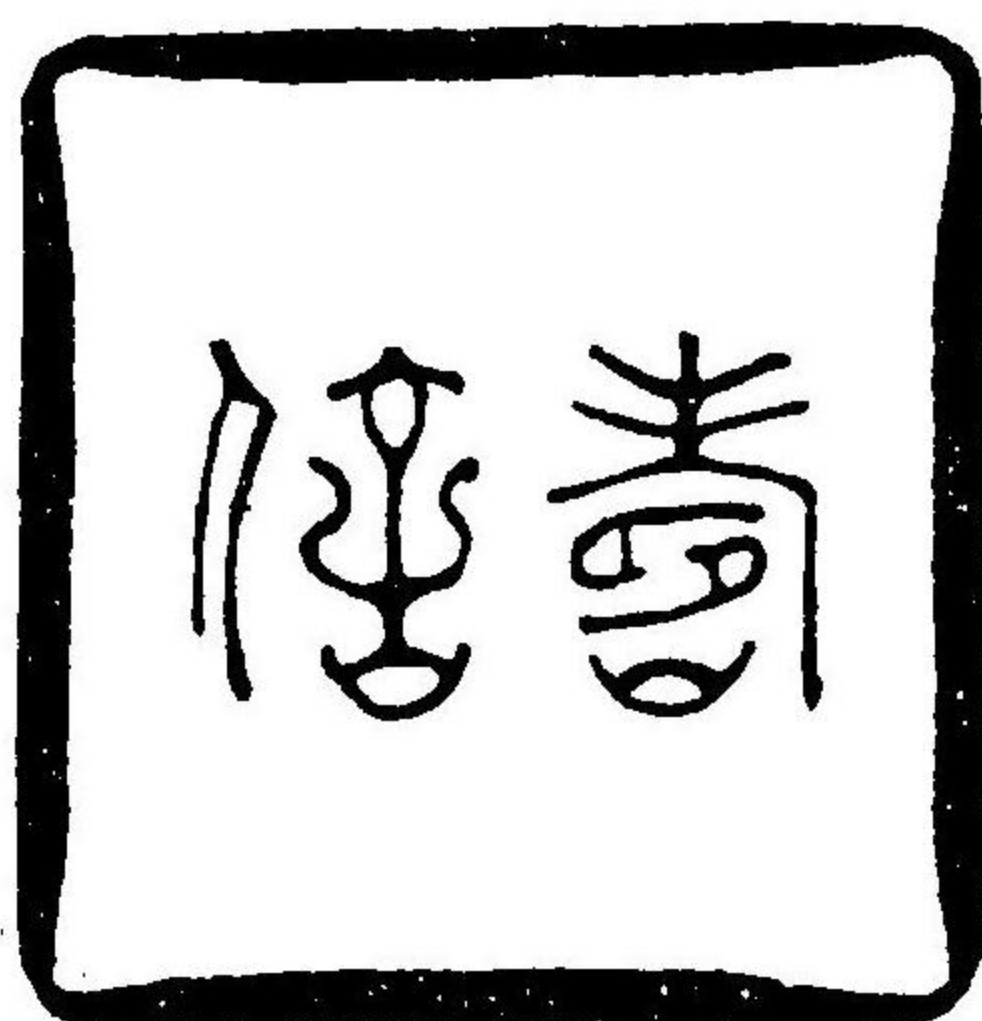
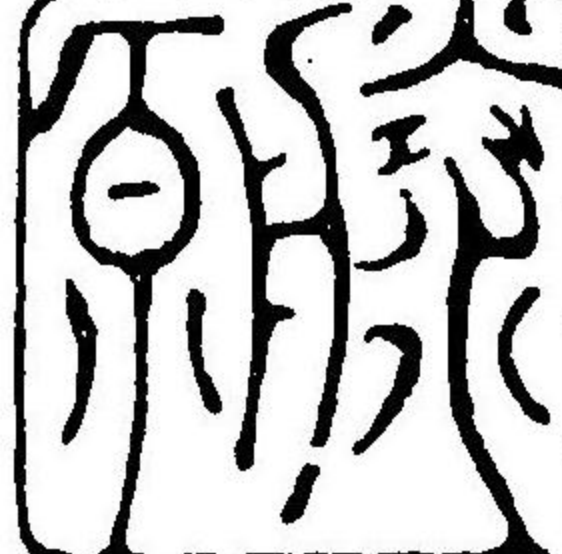
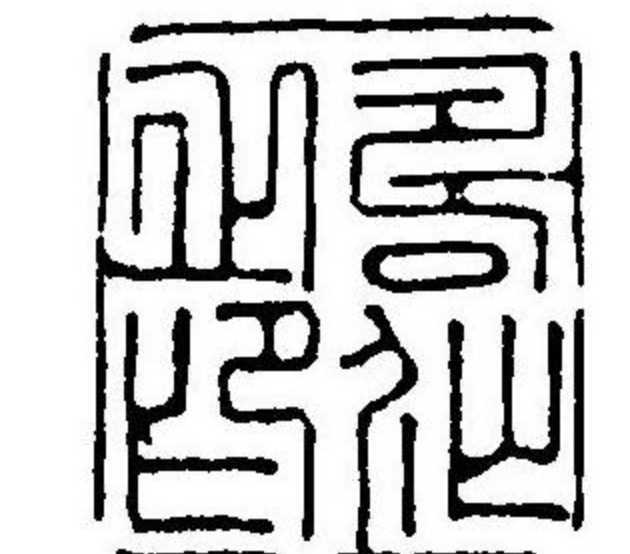
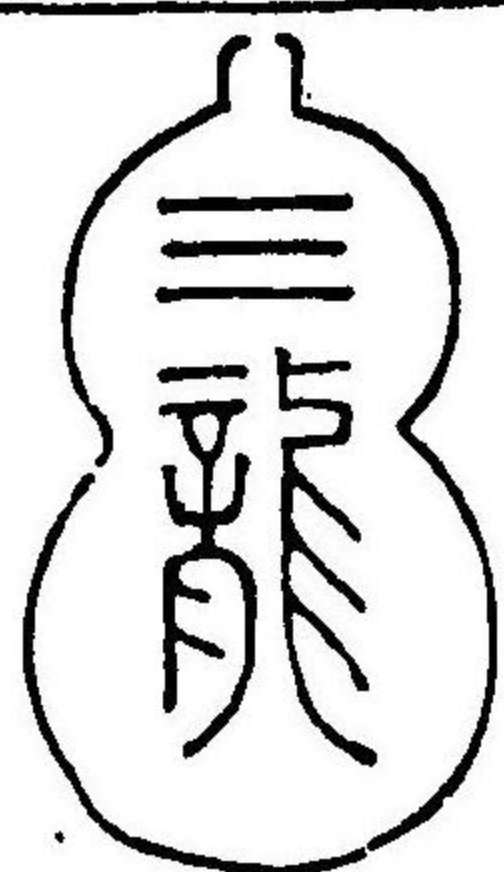
彰信 華

藤原章信 華

狩野行信 玄章斎又伯壽
ト号ス壽石圭
信ノ男ナリ天保四年十二
月三十日歿ス年三十六



狩野壽信 行信ノ子素川
ト号シ又潮音
斎三龍等ノ号アリ明治三
十年十一月歿ス年八十四



狩野素川

藤原高信行年

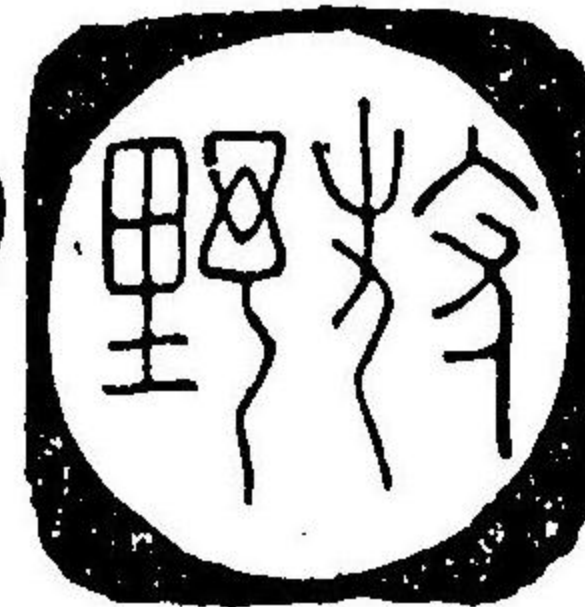
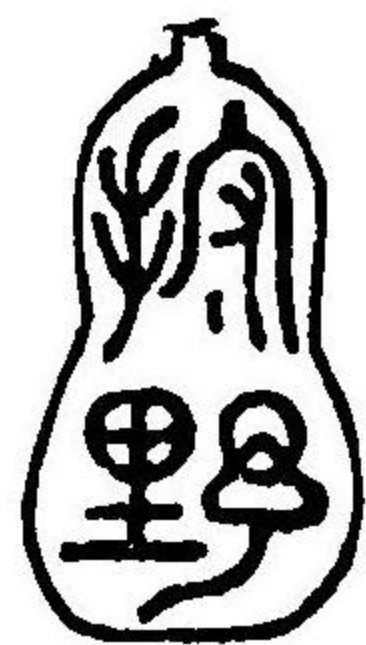
七十有二筆



狩野素養壽子

名ハ幸壽 信ノ長女

慶應元年四月生ル五歳ノ頃ヨリ画ヲ父ニ学ビ能ク祖風ヲ守ル



狩野素養壽

子筆

狩野梅軒

人ナリ

為信ノ子名ハ富信光信ノ門



狩野胤信

梅軒ノ子ナリ



狩野一翁

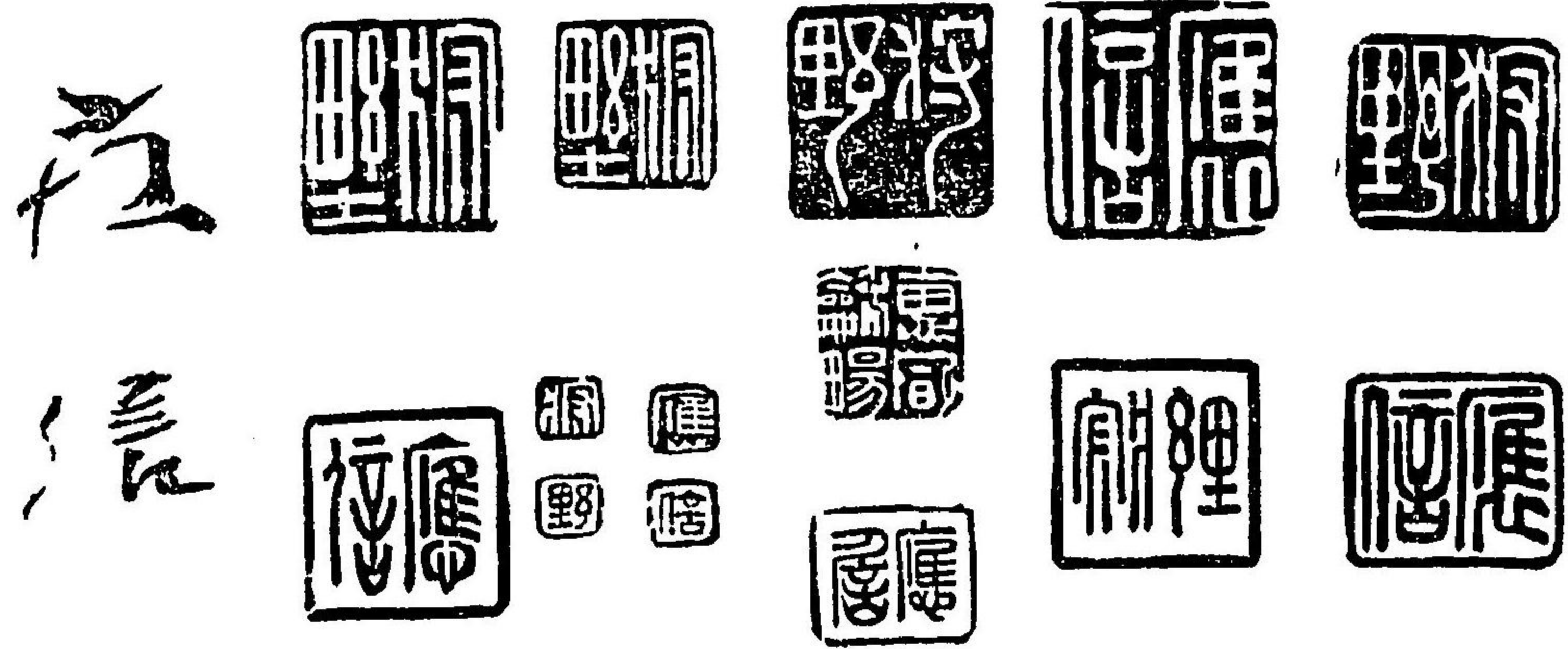
補



狩野應信

玉田永信ノ長子ナリ画法ヲ

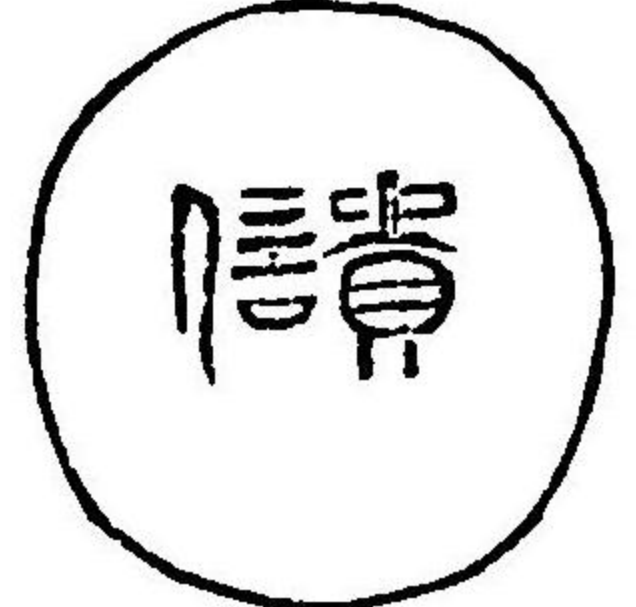
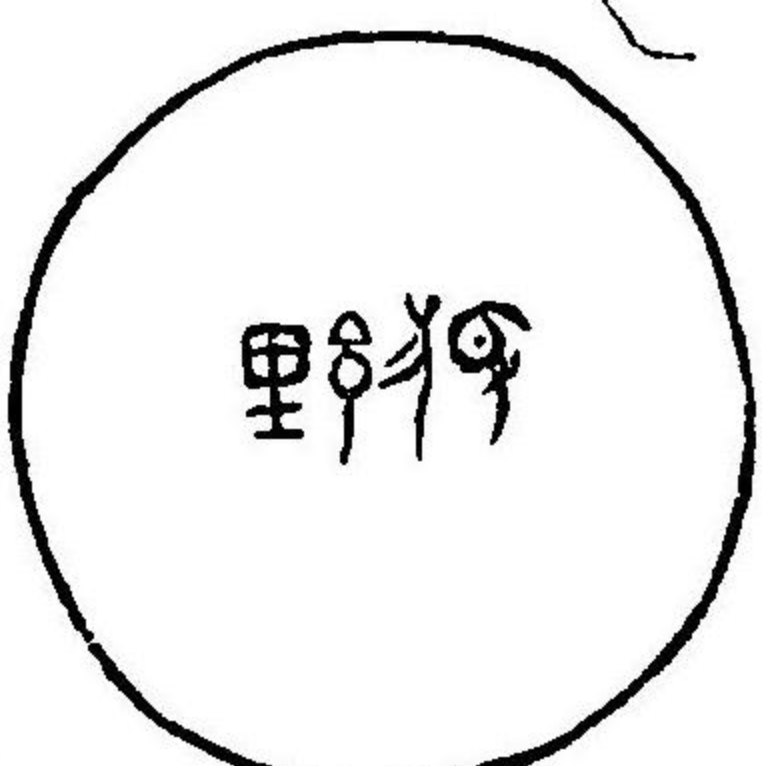
勝川ニ学ブ維新ノ際職ヲ海軍ニ奉ス明治二十八年辞職シテ及專ラ画ヲ業トス



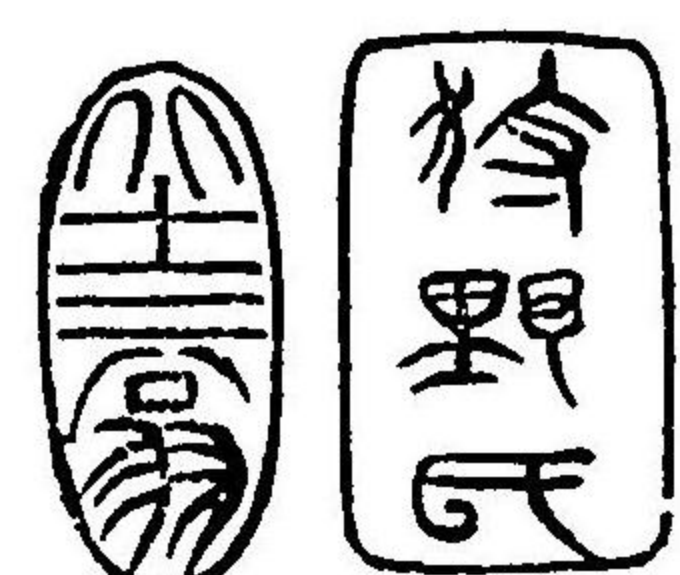
狩野晏川

皆春齋ト号ス 文政六年江戸

ニ生ル寛静良信ノ子ナリ伊川院榮信ニ学ンデ人物ヲ善クス初メ幕府ノ画師トナル



八十二公羽
晏川製衣



川景野柳



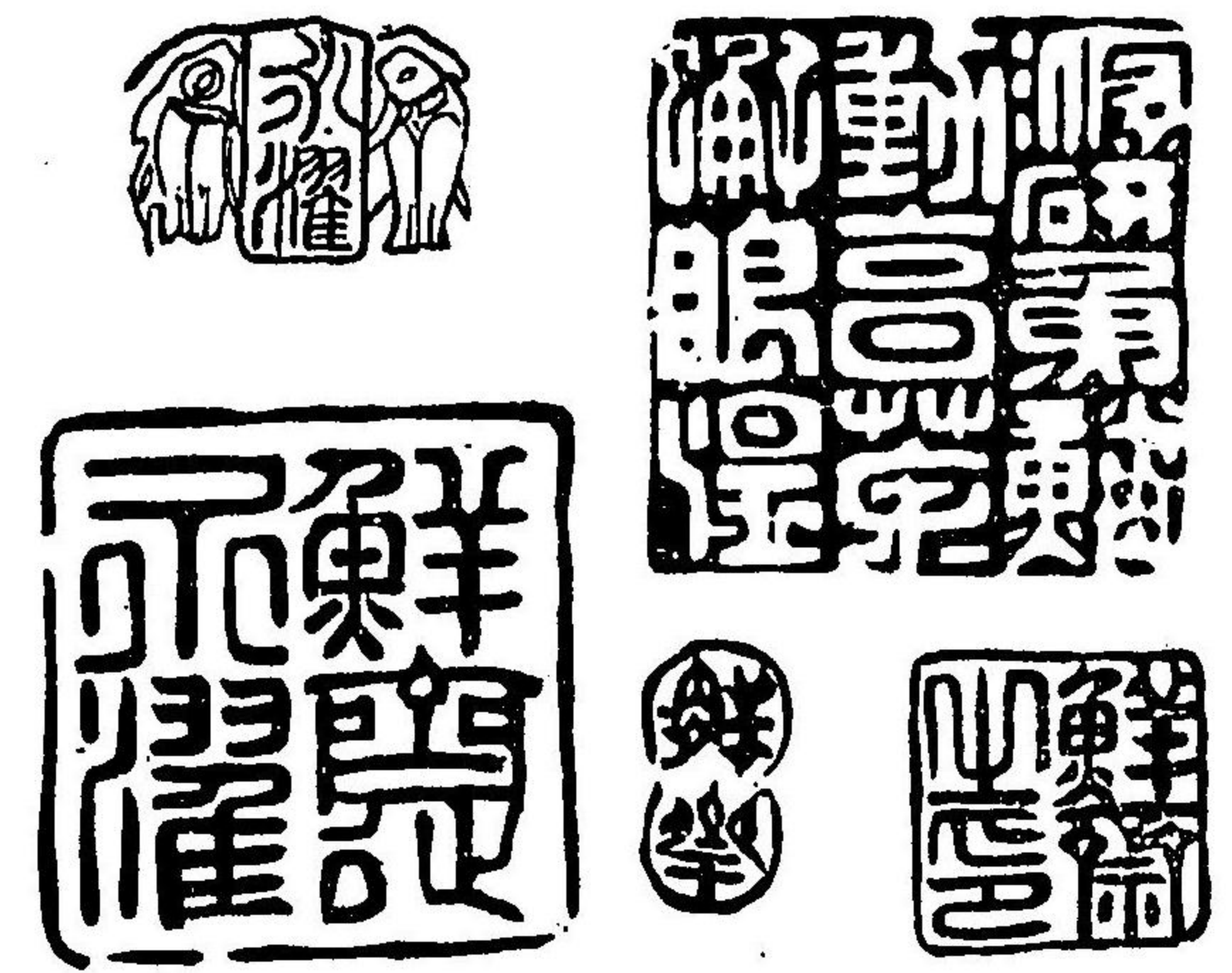
狩野良信

晏川ノ子ナリ





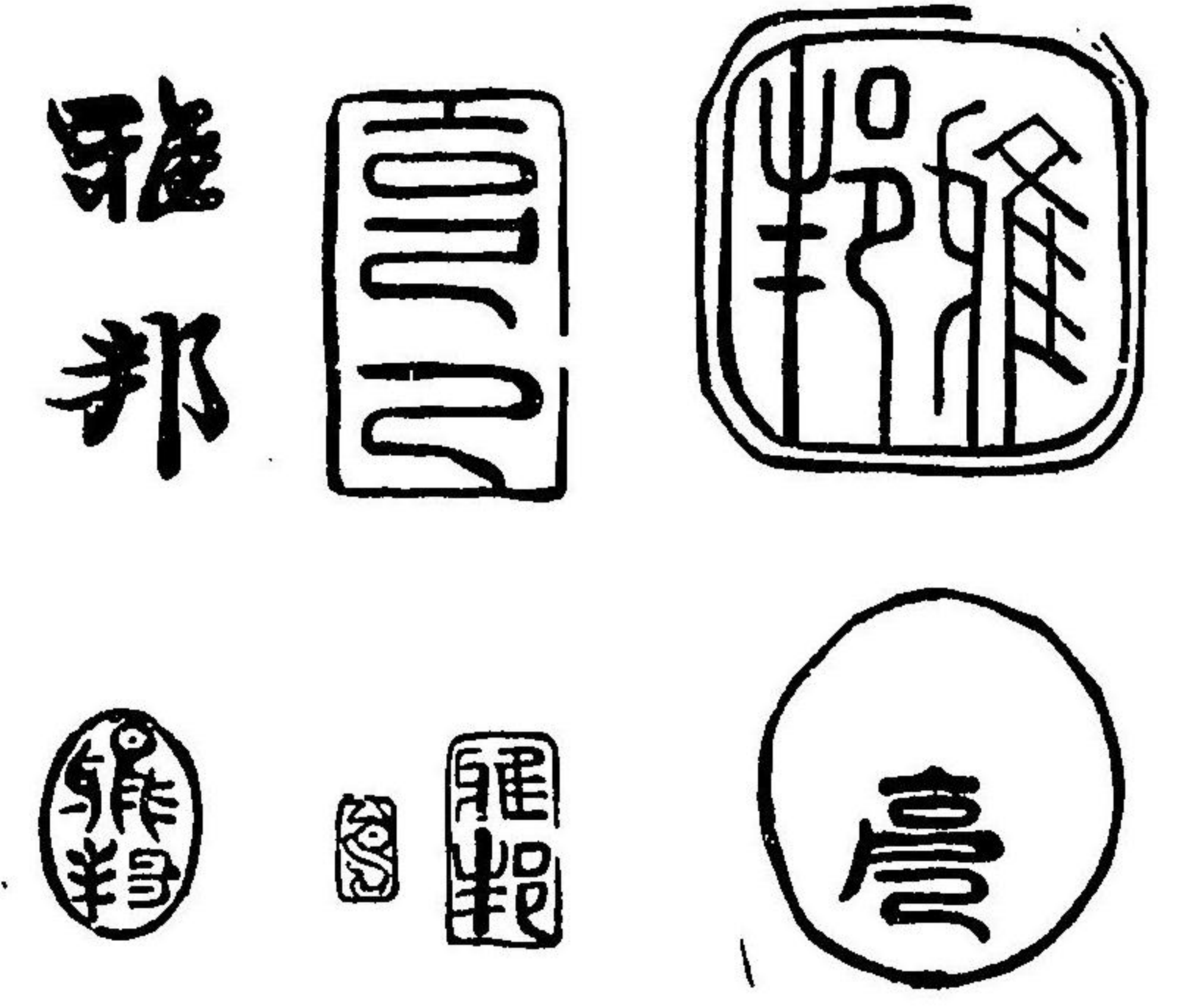
小林永濯 通称秀太郎鮮
 家ノ門人ニシテ密画ニ長
 ジ名當時ニ顯ハル明治二
 十五年歿ス年四十八



橋本雅邦 幼名千太郎後
 長卿ト改メ勝
 園雅ト号ス天保五年江戸
 木挽町狩野邸ニ生ル年甫
 メテ十三勝川院雅信ノ門
 ニ入ル狩野芳崖亦同門タ
 リ二人主持スル所相一致
 シ交誼兄弟ノ如シト云ニ
 十三ニシテ狩野家ノ塾頭
 トナル當時狩野家ノ塾頭
 タルモノハ其地位聲望師
 ニ次キ儼然タル一家ノ画



伯ナリシカ雅邦青年此地
 位ヲ得タルハ人以テ異教
 ト為ス二十六ニシテ師家
 ニ在テ別ニ一家ヲ構ヘ初
 ノテ獨立ノ身トナル維新
 ノ後海軍兵学校ノ製畫掛
 ト為リ後帝室技藝員東京
 美術学校教授ト為ル画名
 噴々今代画家ノ泰斗ト仰
 カル



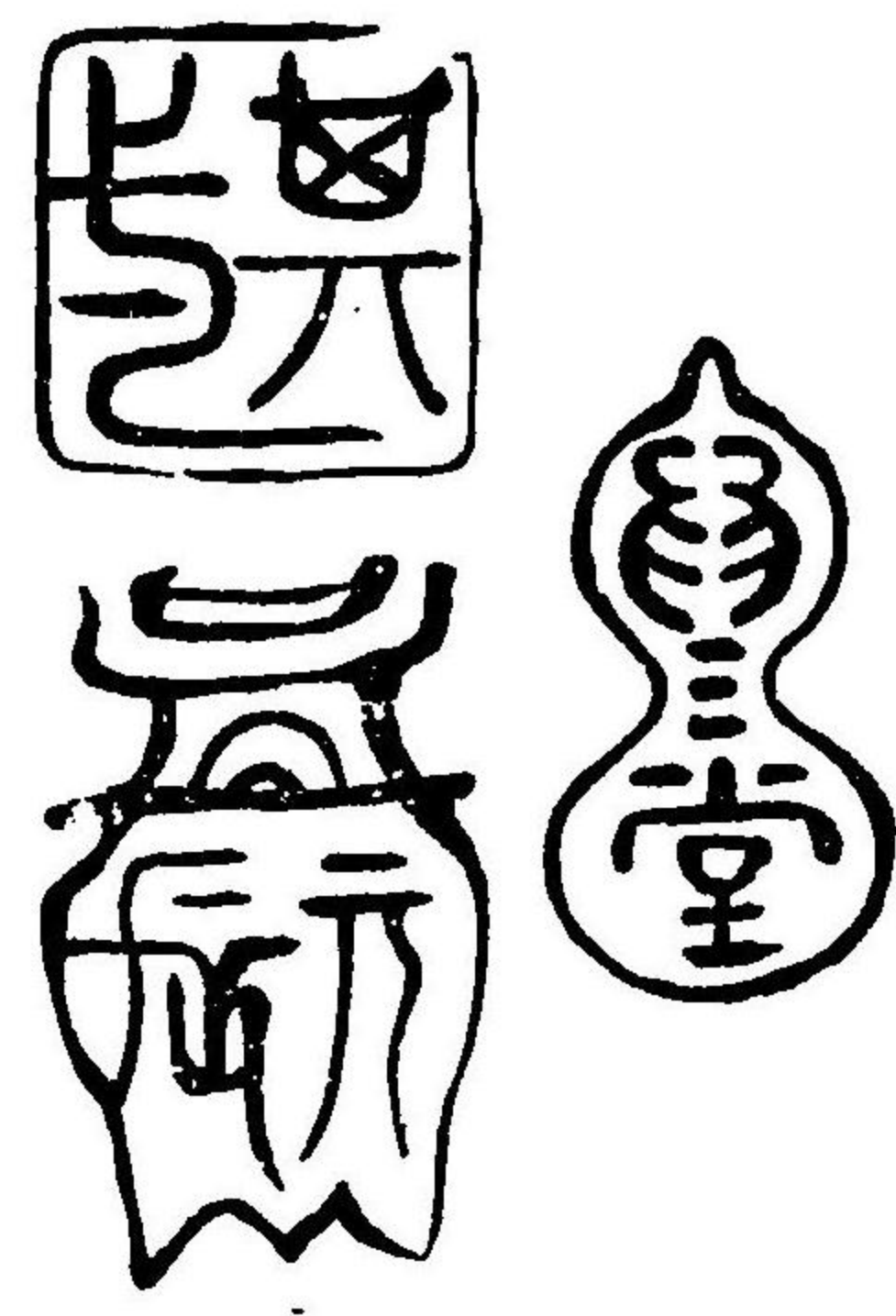
建部綾足 岡部真淵ノ門
 人ニシテ國歌
 ラヨクス画ヲ長崎ノ熊斐
 ニマナビテ名ヲ鳴ラス号
 ラ涼岱トイヒ寒葉斎ト称
 ス國風ノ部見合スベシ



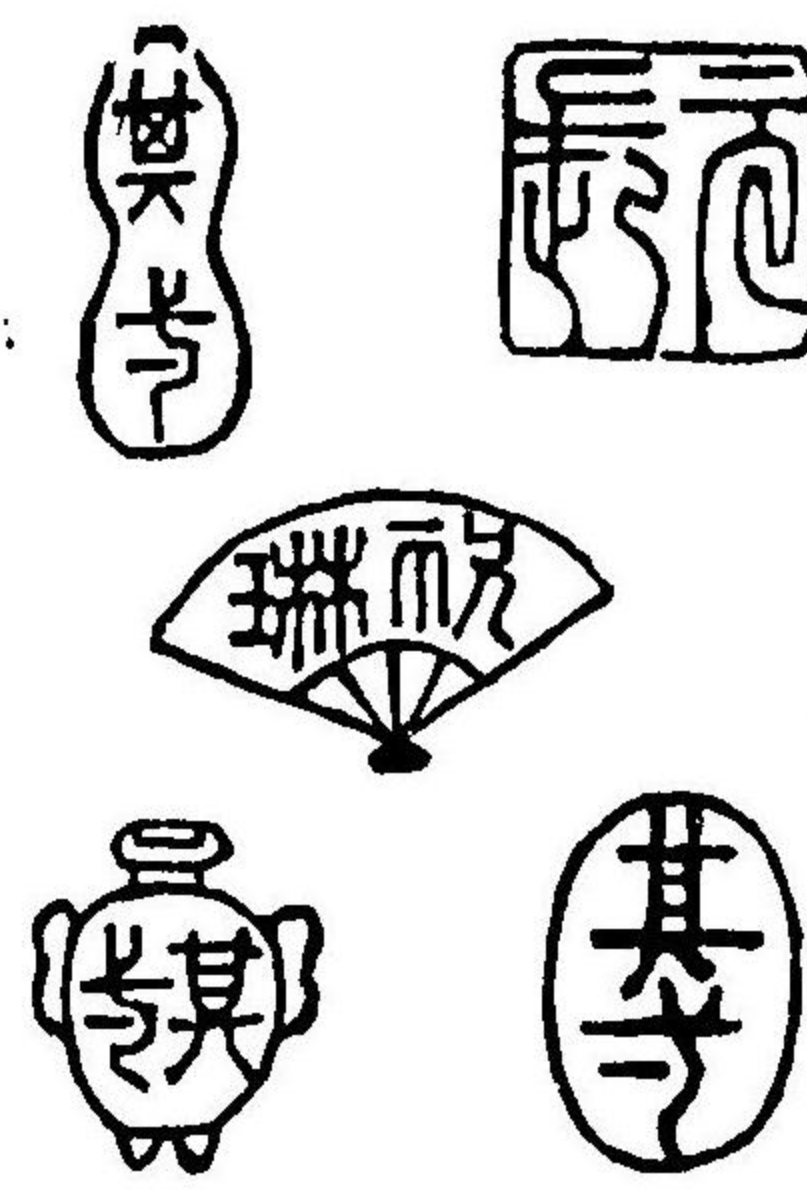
立原杏所 名ハ任字ハ遠
 卿杏所ハ其号
 又玉璋舎東軒香案小史ノ
 号アリ水戸ノ人画ヲ好ミ
 初ノ月徳ニ学ビ後谷文晁
 及應挙ノ風ヲ慕ヒ又明清ノ
 遺跡ヲ研究シ一家ノ風ヲ
 出ス書モ亦巧ミナリ天保
 十一年五月二十日歿ス年
 五十六



鈴木其一 近江ノ人江戸
 ニ出テ、紫深
 ヲ創始ス名ハ元長為三郎
 ト称ス其一ハ其号ナリ繪
 ヲ又著々トモ号ス画ヲ抱
 一ニ学ビテ其技殆ント相
 劣ラズ抱一死後世人其筆
 ヲ貴ブ安政五年九月十日
 歿ス年六十三



香案小史
 立原任



高久 初名愿後忠震
ト改ハ字ハ善

岩瀬鷗所 鳴一字ハ百里江戸築地ニ
住セシヲ以テ蟾州ト号ス
罪ヲ徳川幕府ニ得テ墨水
ニ摺スルニ及ビ鷗所ト号
ス詩画ヲ能クス文久元年
七月歿ス年四十四



高久 鷗所



藤本鐵石 名ハ真金通称
津之助都門賣
茶翁ノ号アリ備前ニ生レ
京都ニ住ス詩歌ヲ能クシ
講学ノ餘暇画ヲ学ビテ妙
手ニ至ル性慷慨尊攘ノ義
ヲ唱ヘ文久三年八月大和
天ノ川ニ戦死ス年四十七
追賞シテ正四位ヲ贈ラル



藤田 信 字ハ子立通称
小四郎先憂斎
雲溪ト号ス水戸ノ人東湖
ノ四男ナリ明敏篤爽ニシ

テ詩文ヲ能クシ書画ニ通
ズ尊攘ノ説ヲ唱ヘ兵ヲ筑
波山ニ率グ屢幕軍ヲ苦マ
シム元治元年十月二十三
日越前敦賀ニ刑死ス年二
十四明治二十四年十二月
從四位ヲ贈ラル



先憂斎

雲溪

岩崎鷗雨 名ハ雍字ハ元
熙殘夢老人ト
号ス近江大津ノ人画ヲ滿
上春琴ニ學ビ頗ル妙ヲ得
タリ元治二年五月歿ス年
六十二



日根對山 泉州日根郡ノ人京都ニ住ス名ハ長字ハ少年錦林子ト号ス文人画ニ長シ當時中西耕石ト並稱セラル慶應元年歿ス年五十



木下逸雲 名ハ相宰字ハ公宰物々子養竹山人ト号ス如螺山人ハ其別号ナリ画ヲ巧ニシ當時鐵翁杏雨五岳ト並稱セラレ九州ノ四大ト目セラレ慶應中江戸ニ到リ帰路海上颶風ニ遇ヒ船覆リテ歿ス年六十八

僧 鐵翁 名ハ祖門字ハ鐵翁蓮舟ト号ス又蓮舟軒ハ其別号ナリ肥前長崎大黒町春徳寺ニ住ス最モ山水ヲ能クシ又四君子ニ妙ナリ明治五年寂ス年八十二



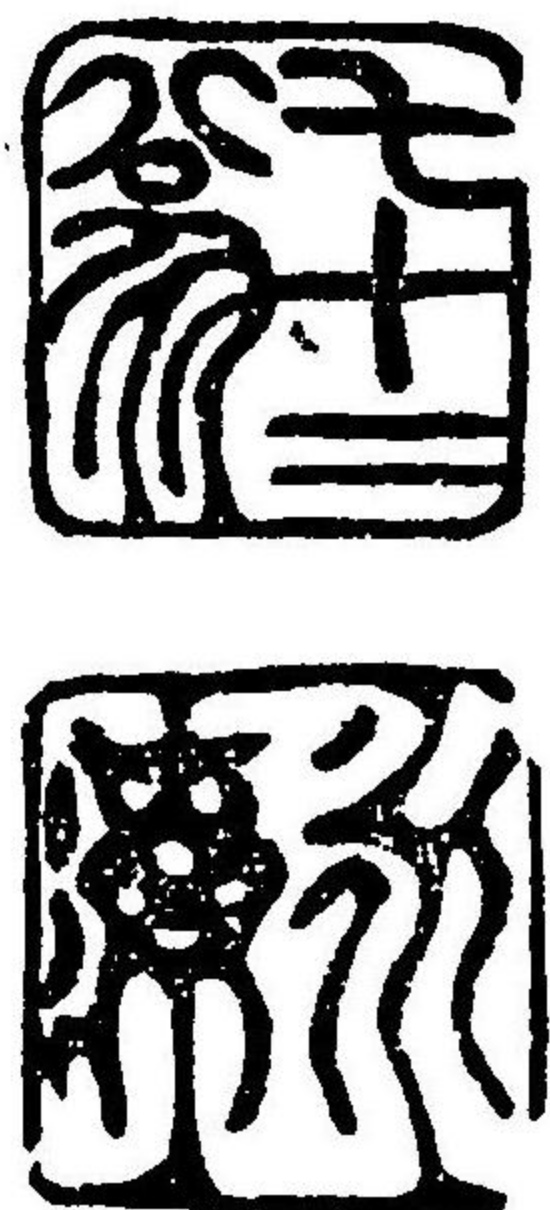
佐竹永海 會津ノ人江戸ニ住ス永海ヲ以テ通稱ト為シ九成堂愛雪周村等ノ号アリ谷文晁ノ門ニ入りテ巧妙ニ達ス後画ヲ以テ井伊侯ニ仕フ明治七年歿ス年七十二



鈴木鷺湖 名ハ雄字ハ雄飛通稱漸造鷺湖及び我古山人ハ其号ナリ画ヲ谷文晁ニ学ビ山水花鳥人物ヲ能クス後画風ヲ一变シ自家ノ風格ヲ出シ大ニ世ニ稱譽セラレ明治三年四月歿ス年四十餘



山本琴谷 名ハ謙石見津和野龜井侯ノ繪師ナリ渡邊華山ニ学ビテ妙手ニ至リ最モ人物ヲ能クシ椿山ノ花卉半香ノ山水ト並稱セラレ明治年歿ス



春木南溟 補江戸ノ人通稱卯之助明治十年十二月十二日歿ス年八十四



南 溟

六 四 隻 南 溟

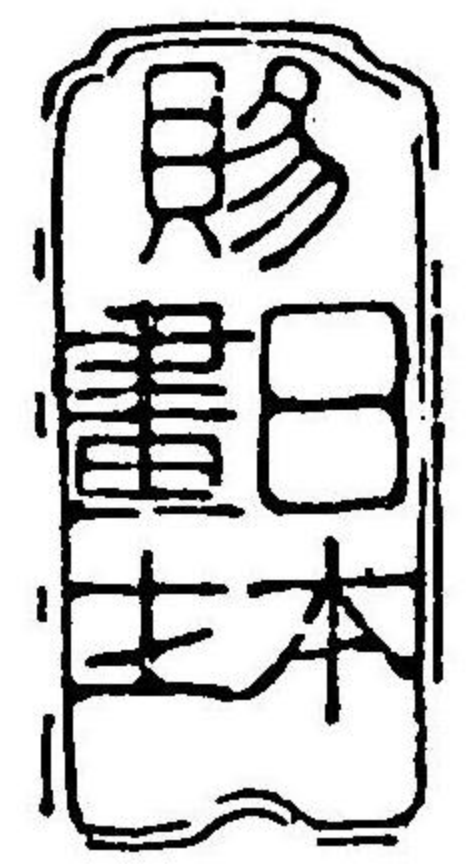
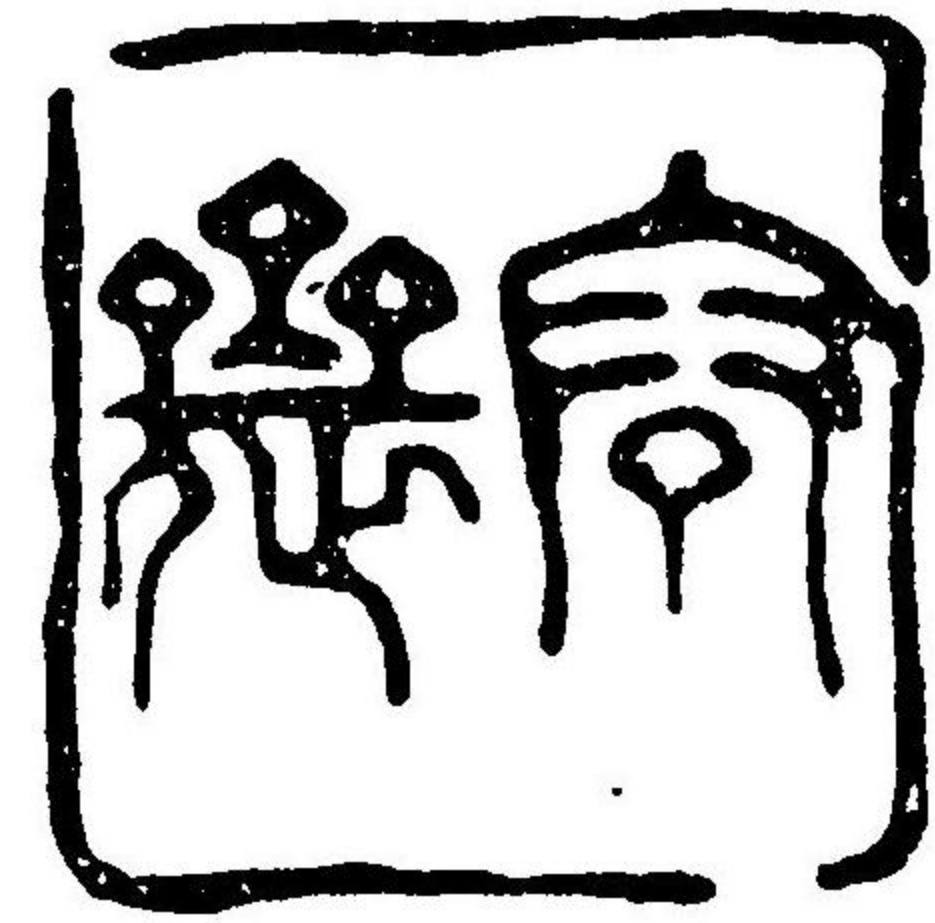


菊池容齋

名ハ武保量平
ト称ス容齋ハ

其号ナリ徳川幕府ノ臣幼
ヨリ画ヲ好ミ高田四象ノ
門ニ入りテ狩野派ノ画ヲ
学ブ然レドモ単ニ一派ニ
拘泥セズ應挙文晁等ノ雅
趣ヲ慕ヒ又古土佐ノ画法
ヲ究ノ更ニ新意ヲ出ス明
治八年聖上其画ヲ嘉シシ玉

日本画史ノ称号ヲ賜ヒ
十年八十八歳ニシテ画ヲ
米國博覧會ニ出シテ賞牌
ヲ彼國ニ受ケ同年内國博
覧會ノ名誉勲章賞牌ヲ賜
フ著ス所前賢故實アリ明
治十一年六月十六日歿ス
年九十一



容 齋

武 保 量 平

名 之 考 保

量 平

菊池 天 氣 夜 須



中西耕石

名ハ壽字ハ龜
年筑前ノ人ナ

リ画ヲ小田海儂ニ学ヒ俊
自カラ一家ヲナス山水ニ
妙ヲ得日根對山ト並称セ
ラル明治十六年歿ス年七
十二

耕石



池田雲樵

名ハ政敬字ハ
公維半仙ト号

ス率雲樵夫ハ其別号ナリ
初ノ画ヲ以テ津藩ニ仕ヘ
後京都ニ住ス京都画学校
ノ建ツヤ擢デラレテ其教



諭トナル画ハ南宗ヲ学ビ
當時其派ノ失躰ニ傾クヲ
慨シ勉メテ平淡老實ノ筆
ヲ弄シ專ラ懇到ヲ旨トス
明治十九年歿ス年六十二





渡邊小華

名ハ諧字ハ詔
脚通称舜治華

山ノ第二子ナリ画ヲ父及
椿山ニ学ビ筆力劲健人ト
為リ温厚近世画伯中稀ニ
見ル所山水花鳥ハ最モ其
得意トスル所ニシテ花卉
蟲魚俱ニ巧妙ノ技倆アリ
明治二十年十二月歿ス年
五十四

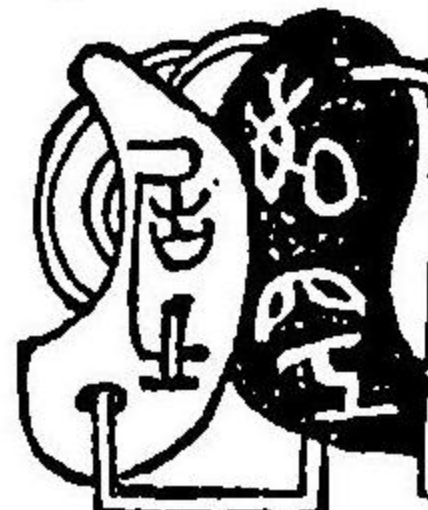
小華



小華



小華



河鍋曉齋

藤堂凌雲

名ハ良驥字ハ
千里東京ノ人

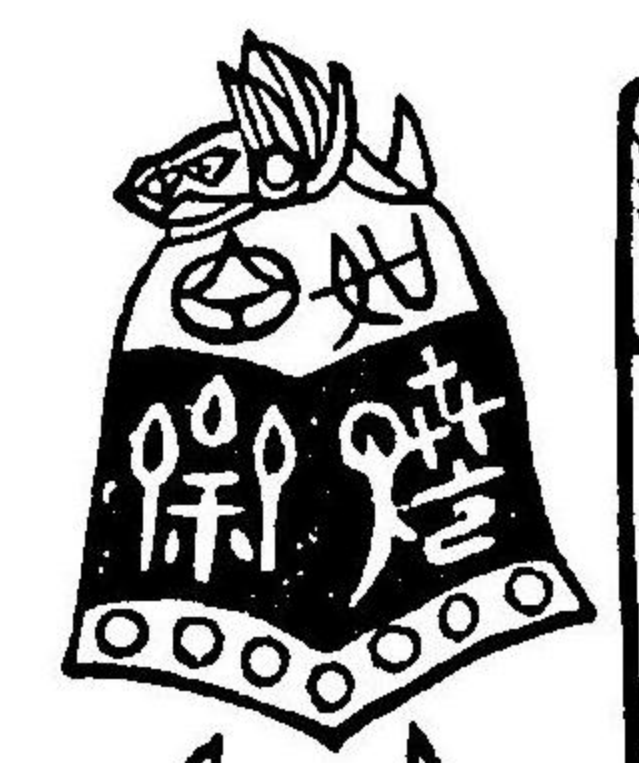
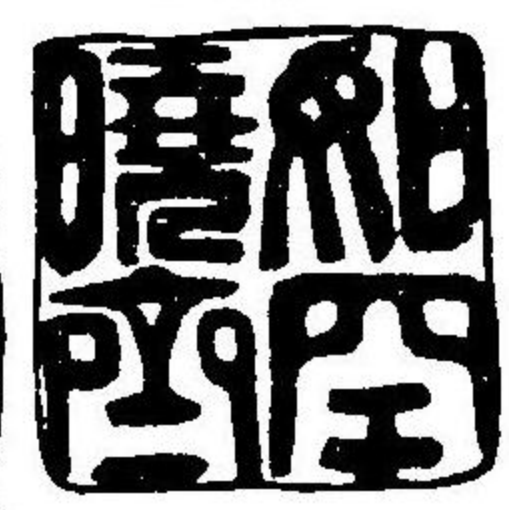
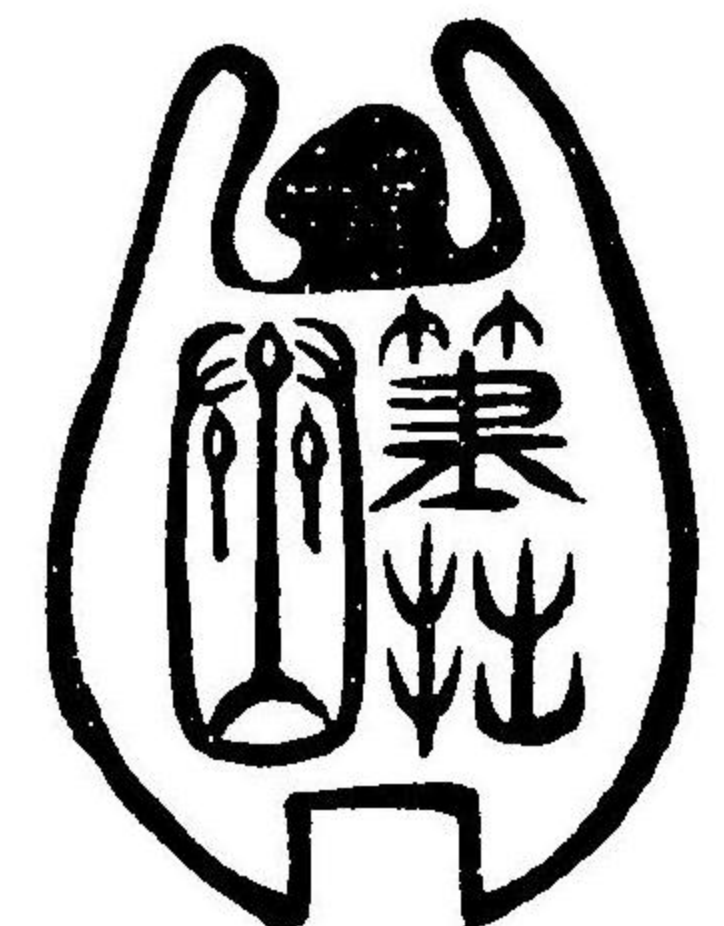
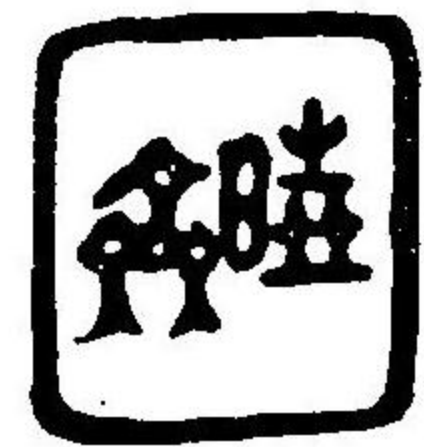
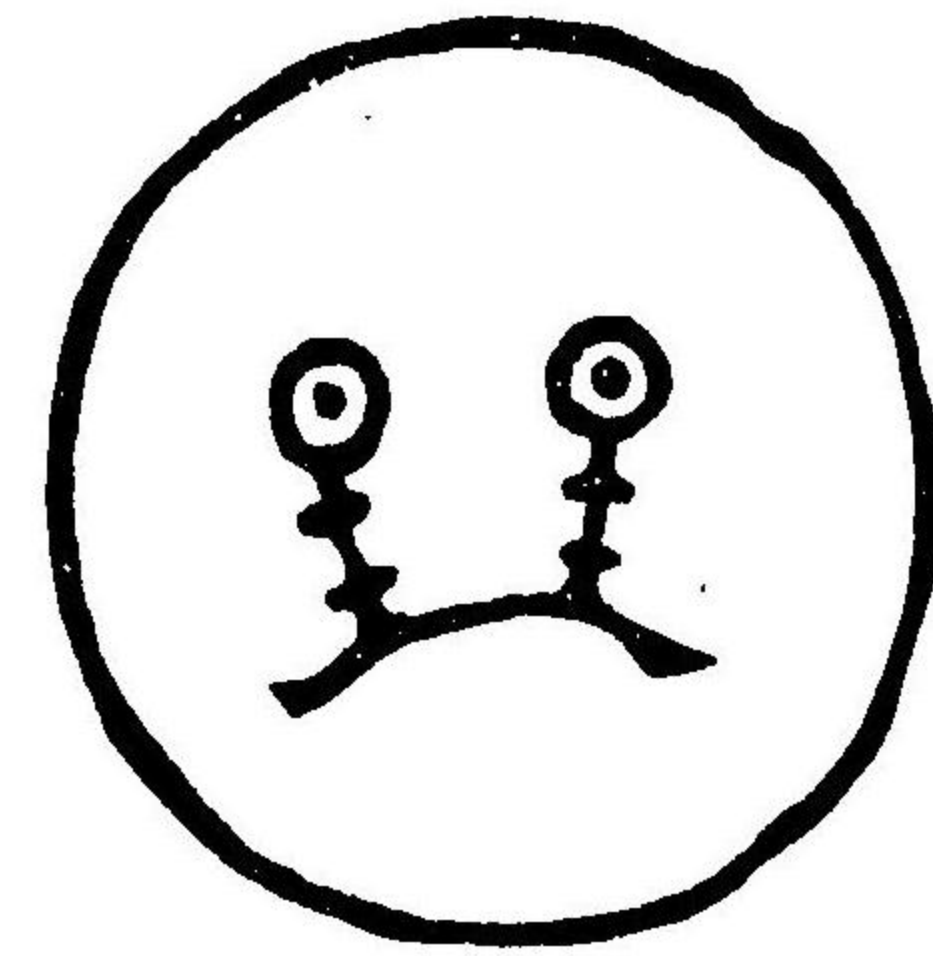
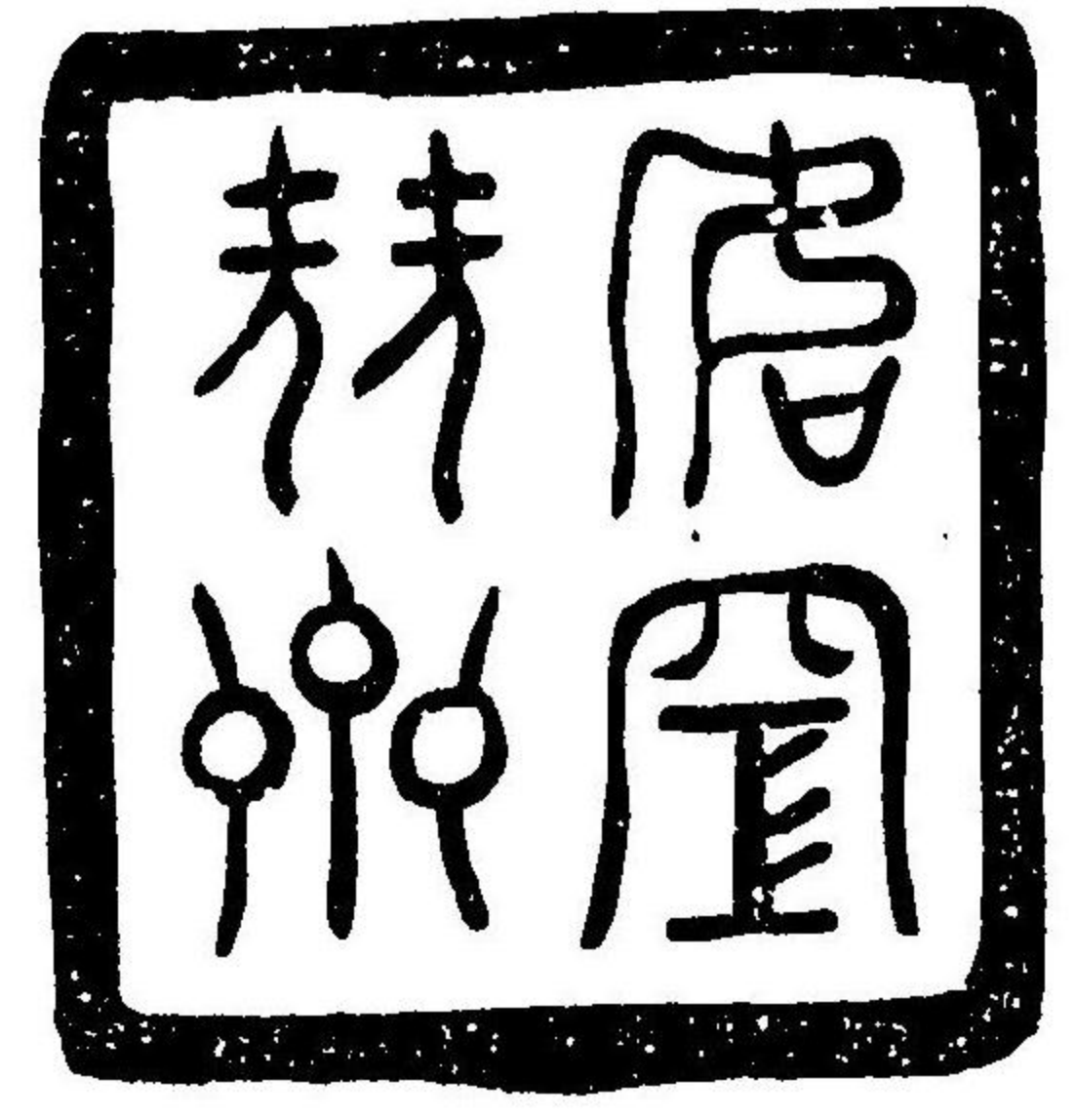
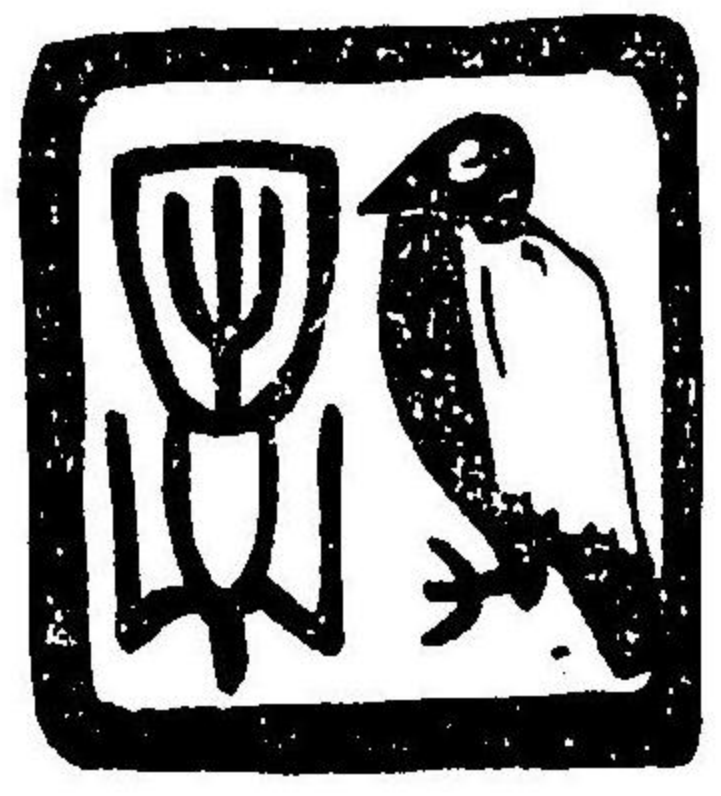
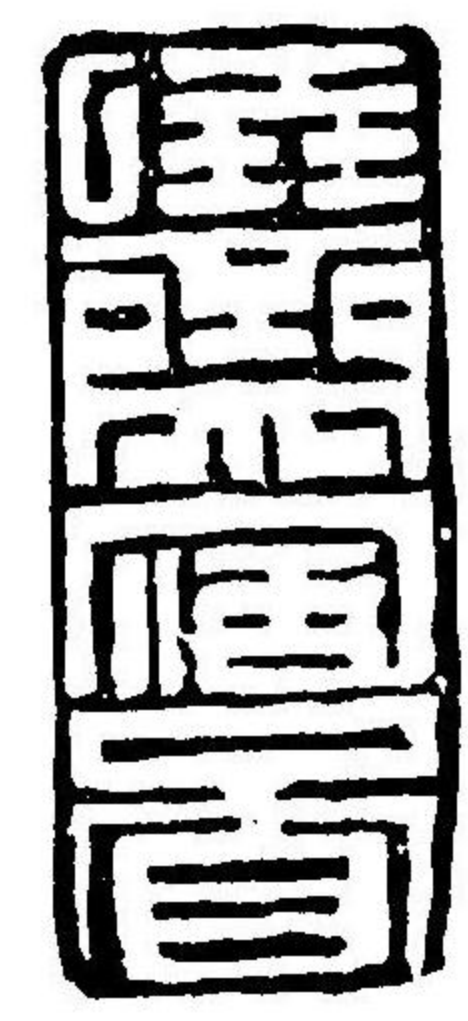
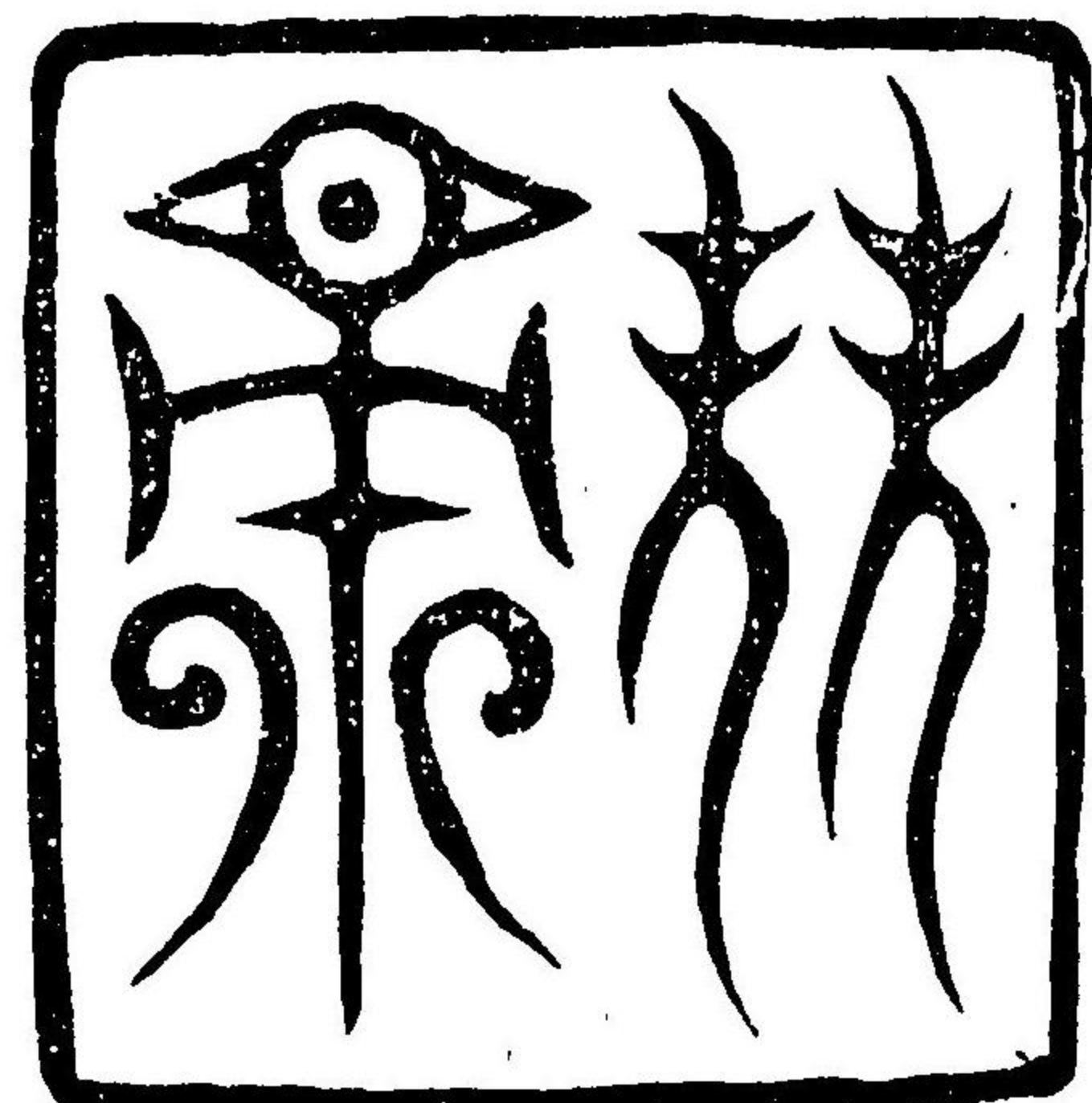
ナリ画ヲ山本逸雲ニ学ビ
テ花鳥ヲ能クシ頗ル名手
ノ称アリ明治二十年歿ス

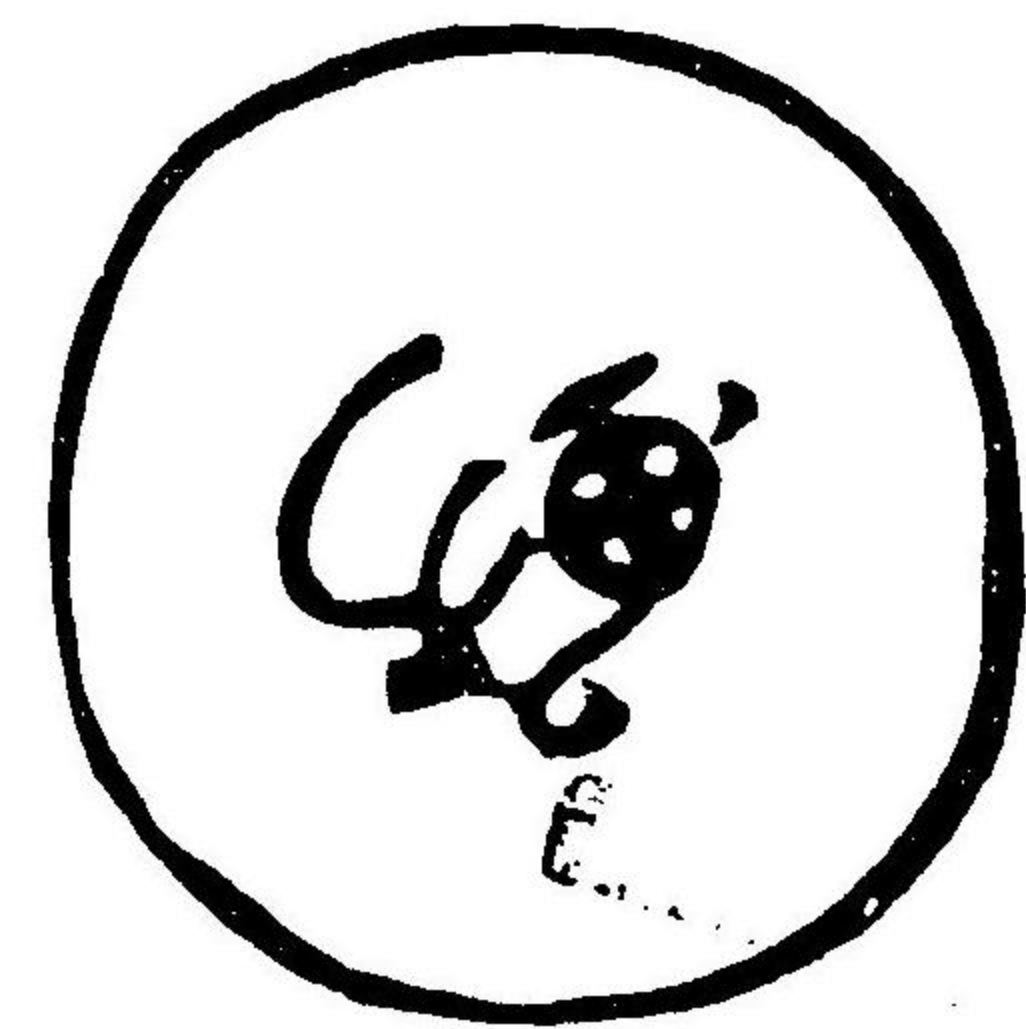
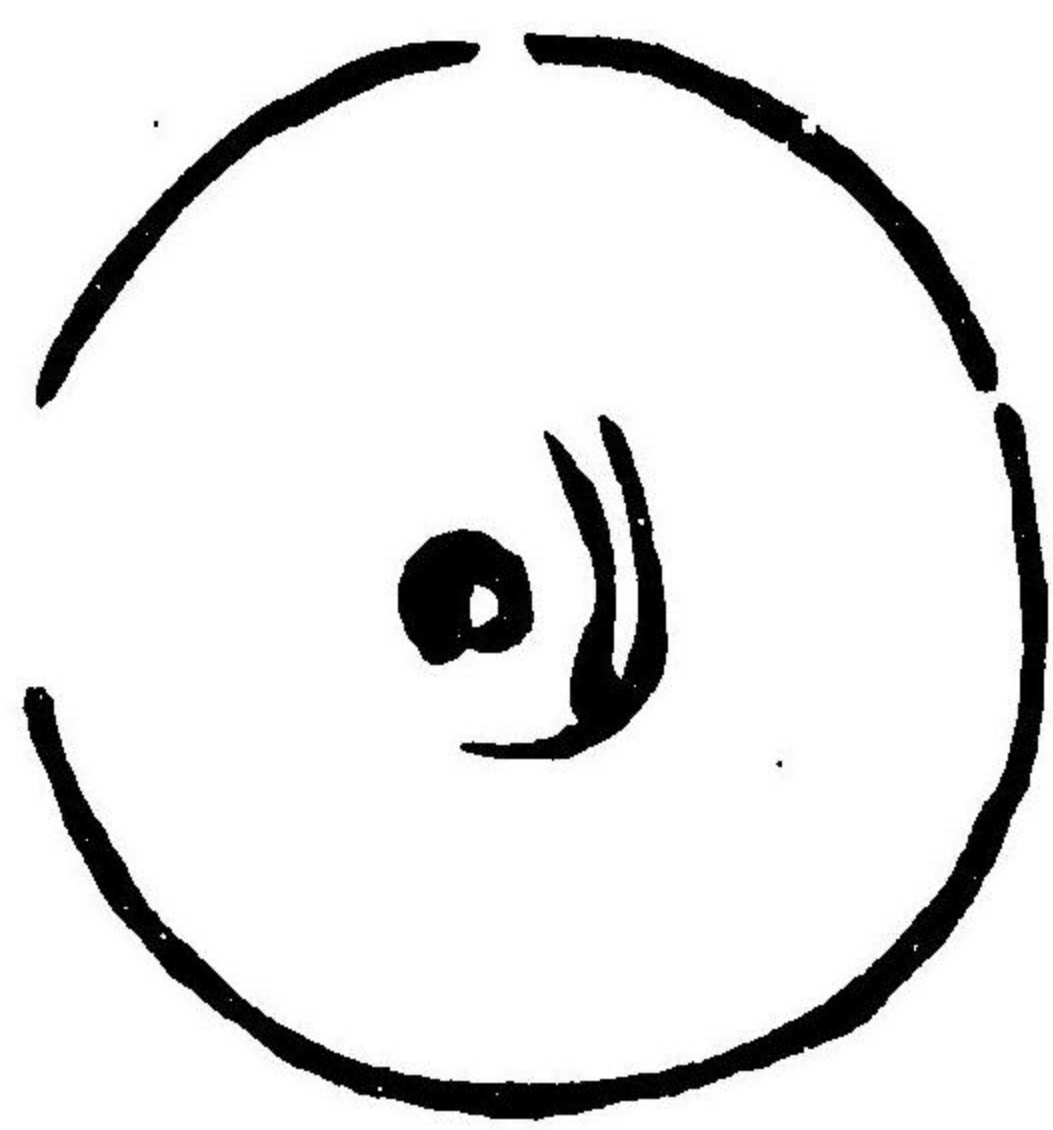
凌雲

河鍋曉齋

下総古河ノ人
名ハ洞郁曉齋

ト号ス如空齋狂齋程々齋
米汁翁等ハ皆其別号ナリ
幼ヨリ画ヲ好ミ狩野洞白
歌川國芳等ニ学ビ技倆大
ニ進ミ其作ル所活動ニ富
ミ超凡ノ聞エアリ最モ狂
画ヲ能クス其生涯亦奇巧
多ク自ラ曉齋画談ヲ著シ
テ其経歴ヲ画ケリ明治二
十三年五月歿ス年五十九

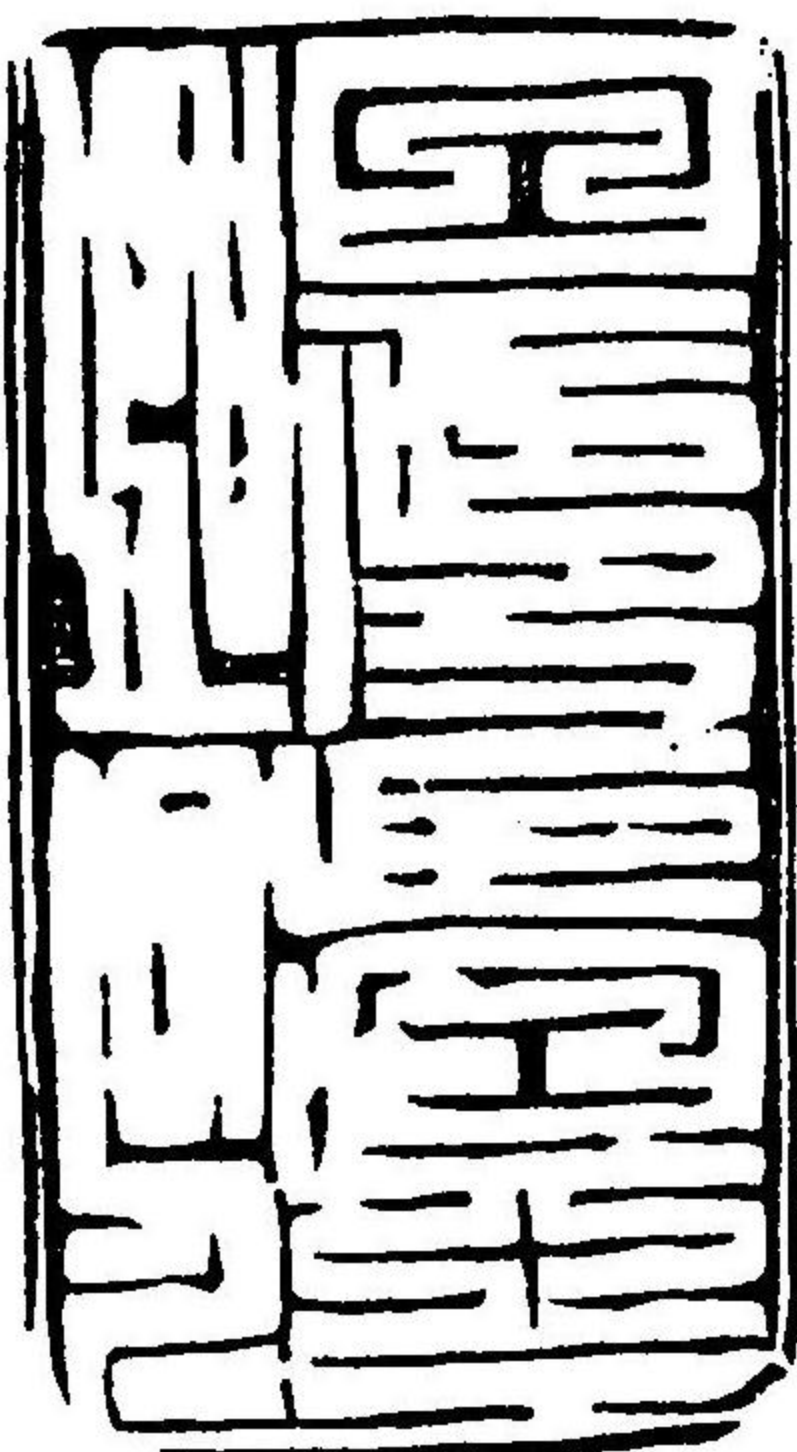




柴田是真

通称順藏枕流
亭ト号ス文化

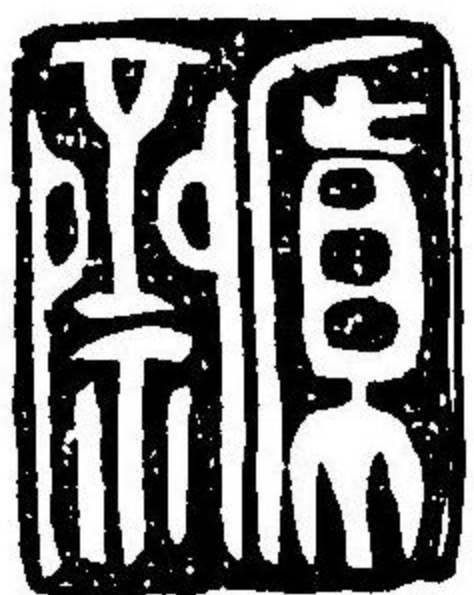
四年江戸ニ生ル時繪ヲ以テ本業ト為スト雖モ画ニ巧ニシテ山水花鳥人物等極メテ妙ナリ初メ鈴木南嶺ニ学ビ入京都ニ出デハ岡本豊彦ノ門ニ入ル明治二十三年帝室技藝員トナリ是年歿ス



森 寛齋

旧長門藩士ナリ京都ニ来住

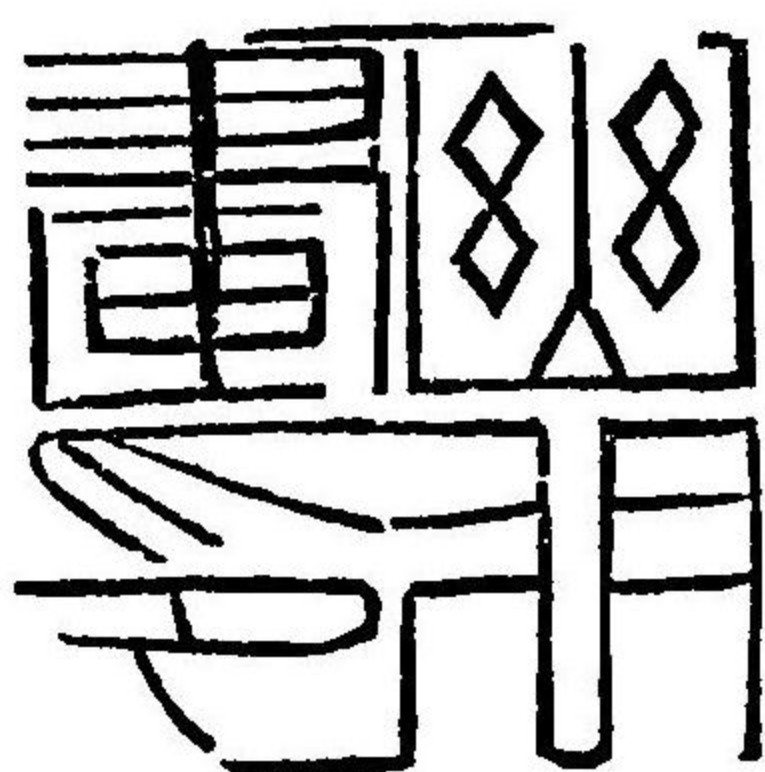
シ画ヲ徹山ニ学ビ其ノ義子トナル維新ノ際國事ニ奔走シテ功アリ画ハ最モ花卉ニ巧ミニシテ技倆卓絶名大ニ頭ハレ帝室技藝員ト為ル明治二十七年歿ス年八十餘



野口幽谷

名ハ續通称巳之吉幽谷又和

樂堂ト号ス天保二年江戸ニ生ル幼ヨリ画ヲ好ミ初メ椿椿山ニ学ビ後渡邊華山ニ学ブ最モ花鳥ヲ能クシ妙手ニ至リ帝室技藝員ト為ル明治 年歿ス



瀧 和亭



名ハ謙字ハ子直和亭又蘭田

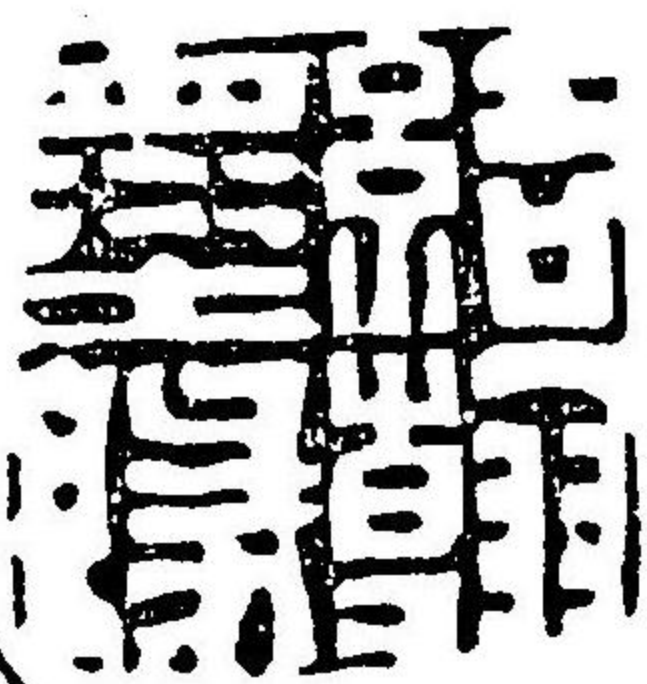
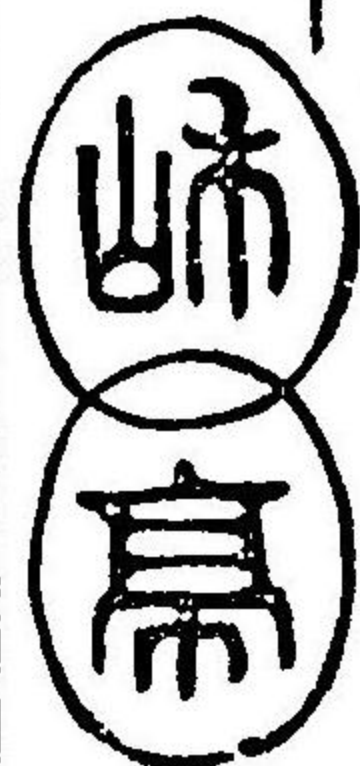
ト号ス其画室ヲ咲香館ト曰ッ東京ノ人初大岡雲峰ノ門ニ入り後長崎ニ遊ビ沙門鏡翁ニ学ビ妙手ニ至リ南画ノ泰斗ト称セラル山水人物皆精巧ヲ極メ殊ニ花鳥ニ妙ナリ後ニ帝室技藝員ト為ル明治卅 年歿ス

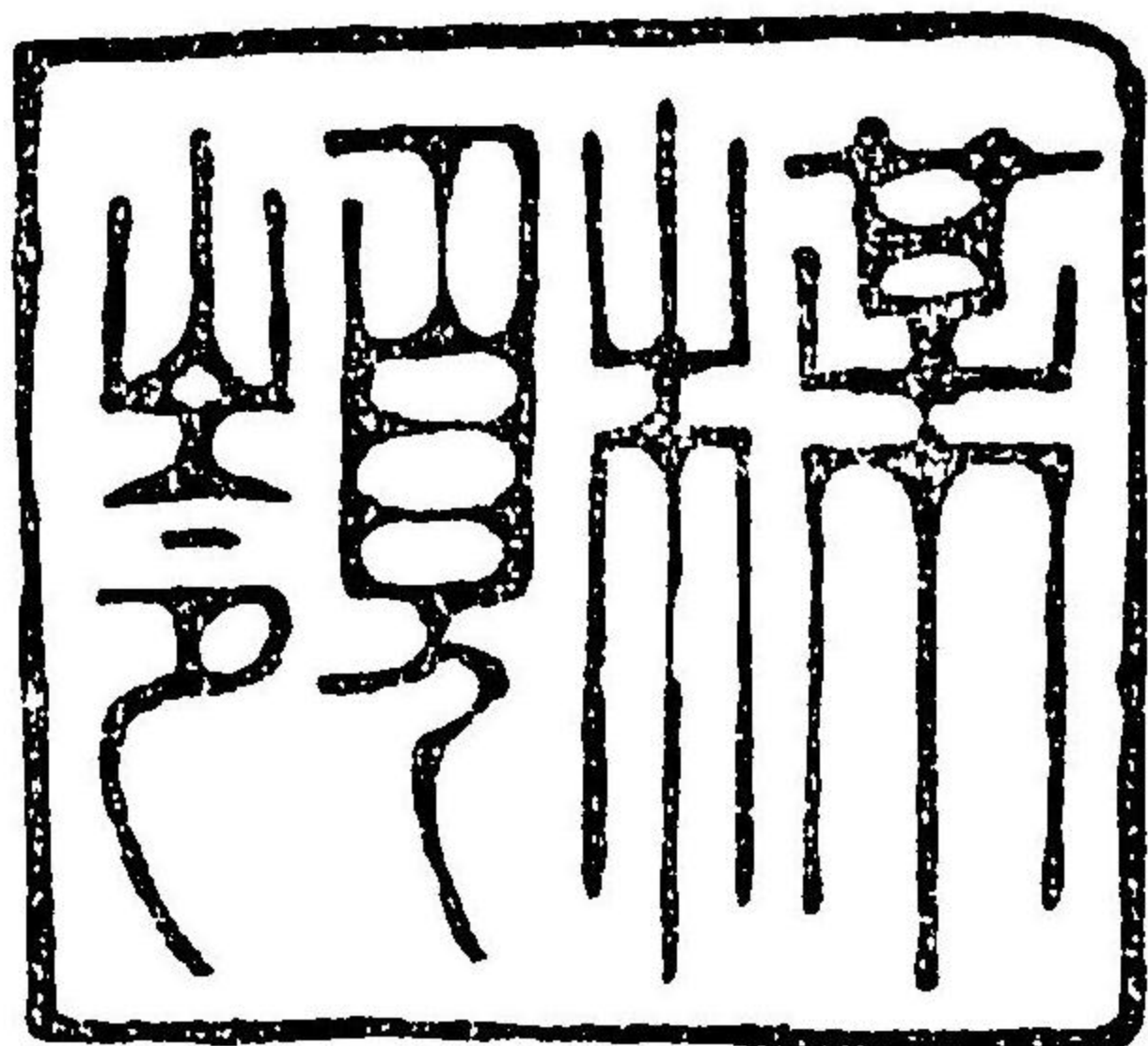


幸野梅嶺

和化元年京都ニ生ル塩川文

麟及ビ中島来章ニ学ビ四條派ヲ善クス著ス所百鳥画譜梅嶺画譜菊百種等アリ帝室技藝員ト為ル明治 年歿ス

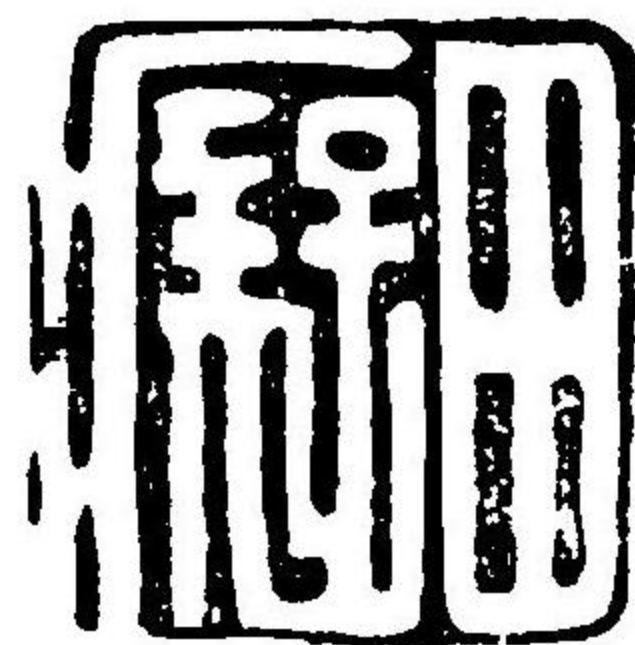
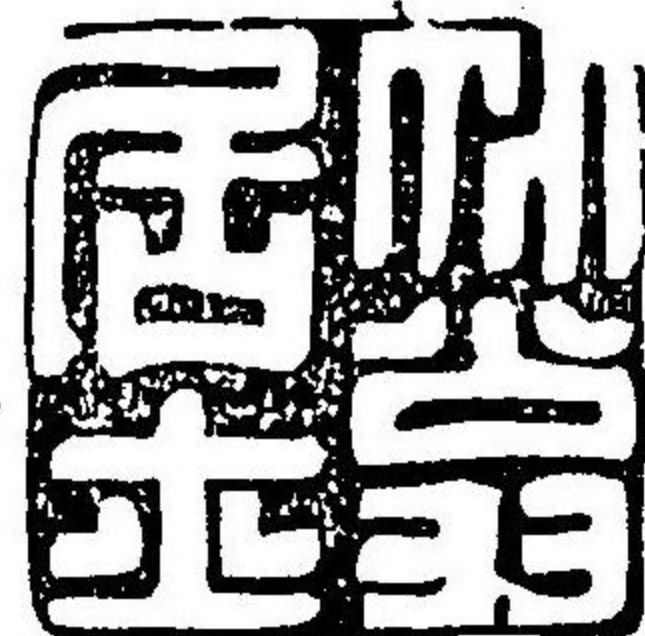




棟 額 仙 史

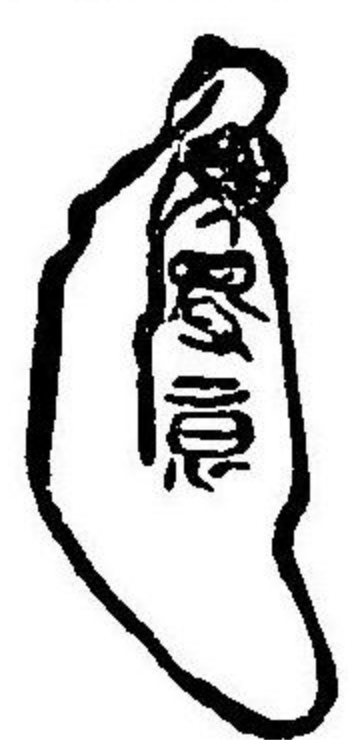
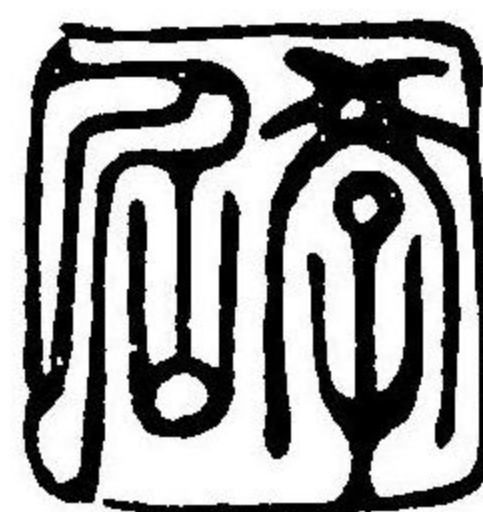
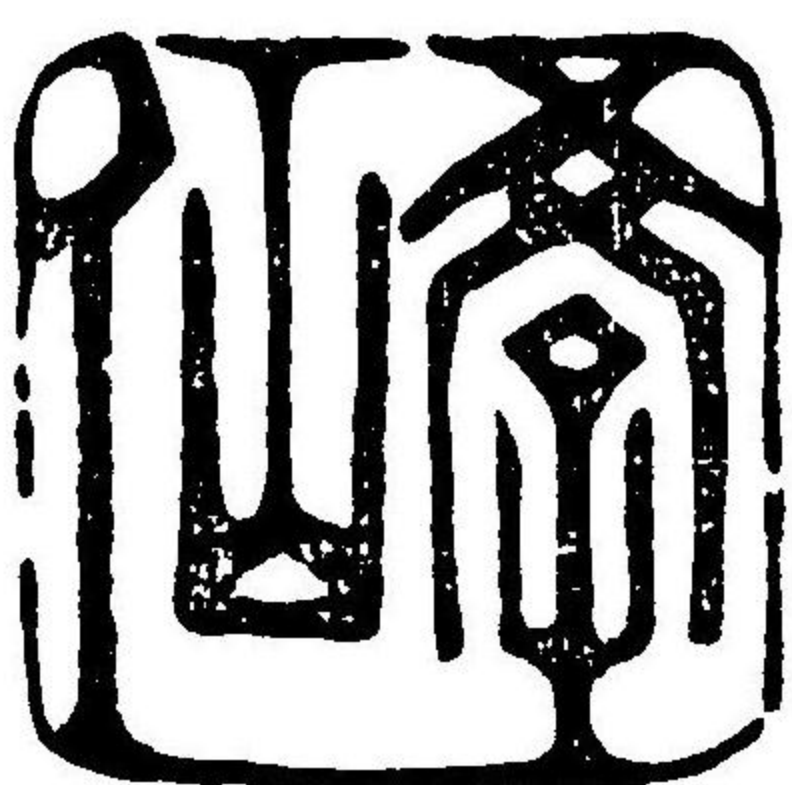
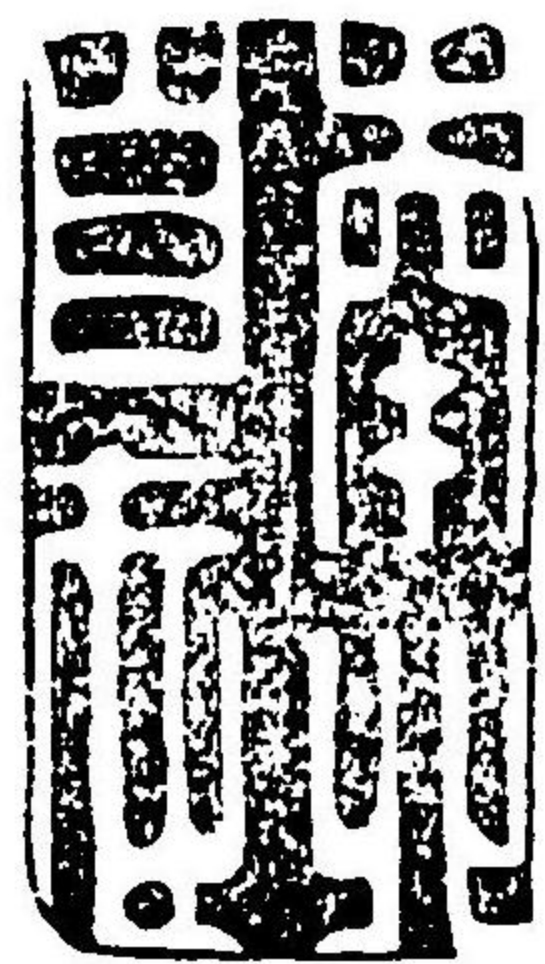


田野村直入 名ハ小虎竹田ノ義子ナリ文
化十四年ニ生レ京都ニ住
シ山水ヲ能クス



大庭學仙

本姓ヲ三好ト
曰フ文政三年
周防ニ生ル画ヲ小田海儂
ニ学ビ辰南北兩派ヲ合シ
テ自ラ一ノ新意ヲ出ス最
モ山水花鳥ニ妙ナリ



重

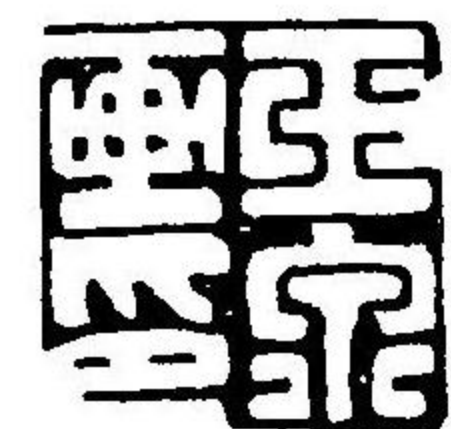
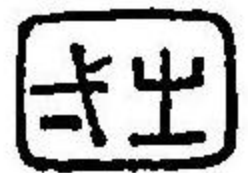
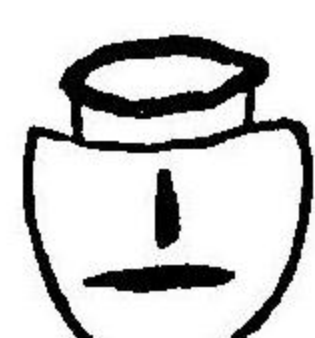
春塘

單香ト号ス京
都ノ人ナリ天
保四年ニ生ル画ヲ川北春
谷ニ学ビテ南宗派ヲ能クス



望月玉泉

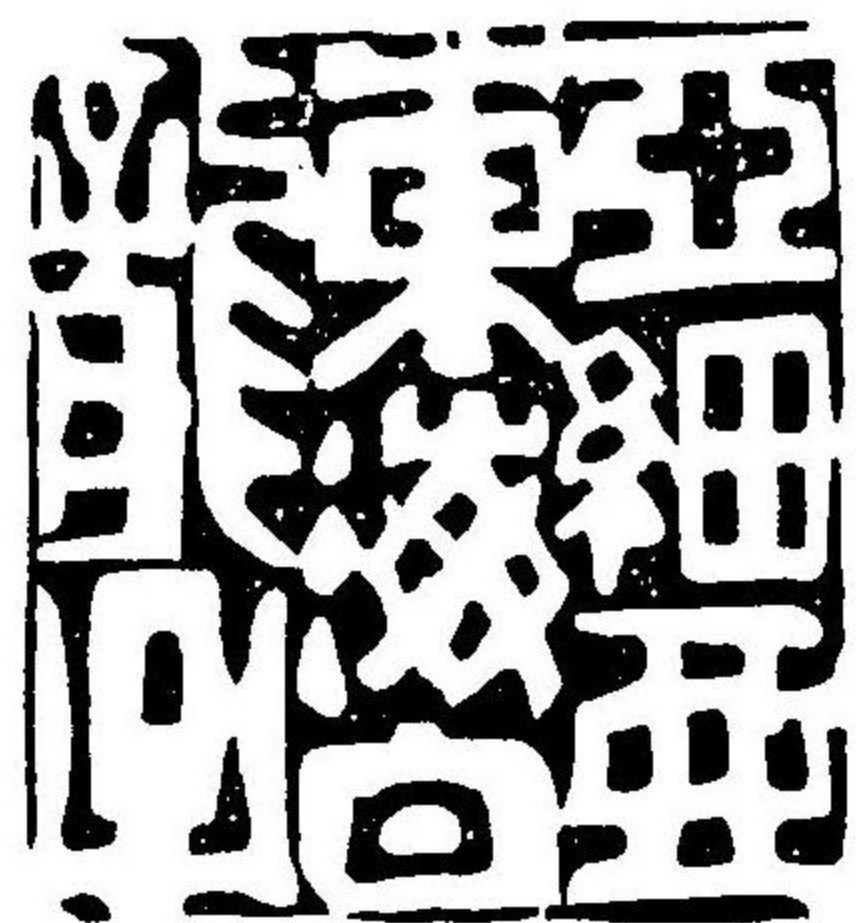
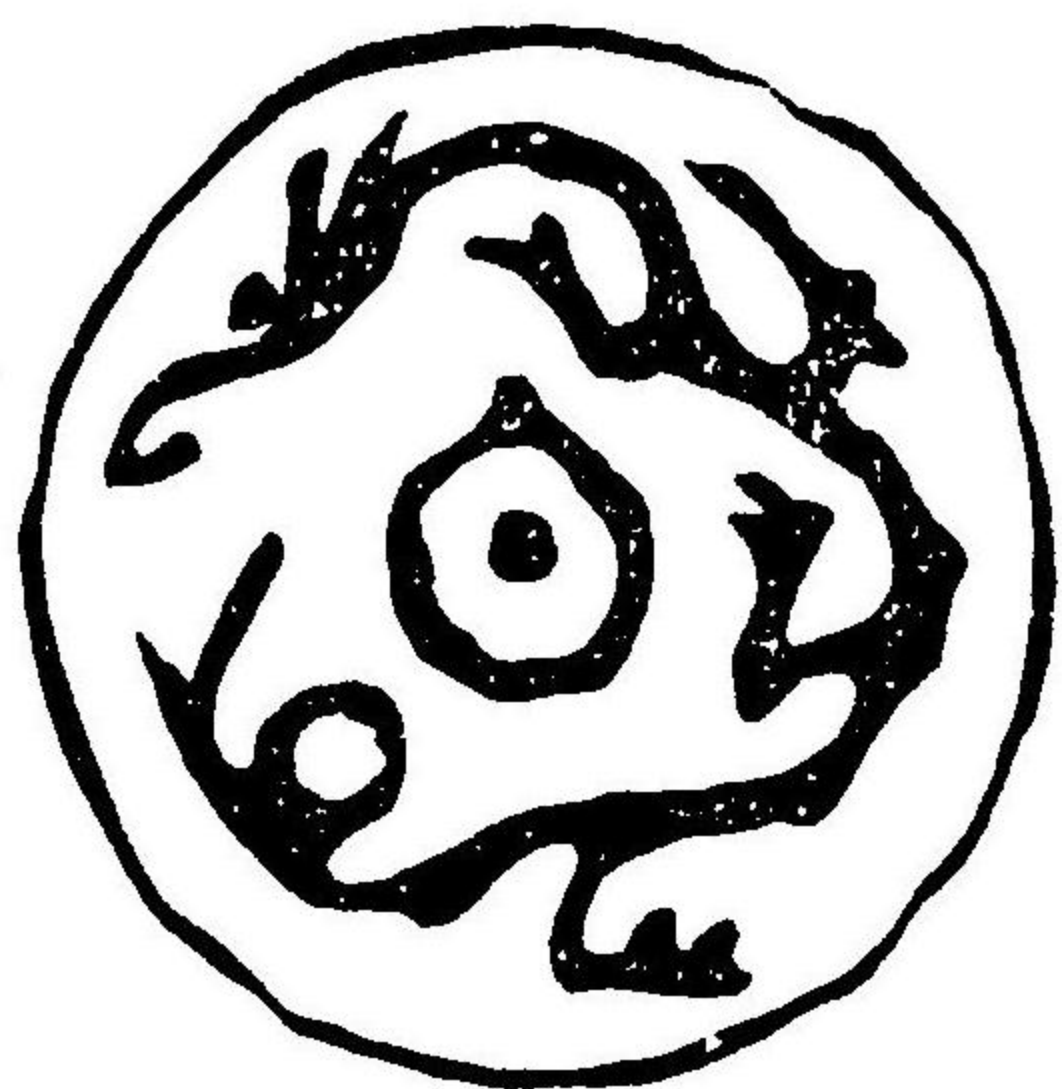
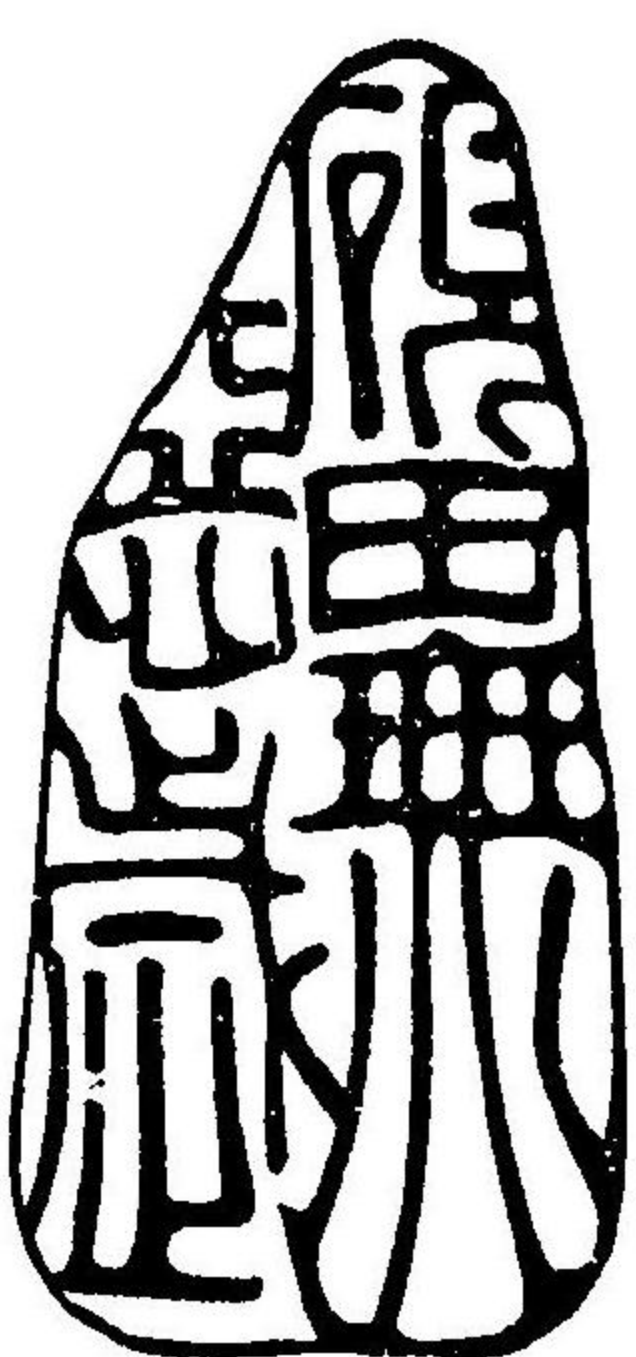
京都ノ人父ノ
名ヲ襲ギテ玉
泉ト称ス画ヲ父ニ学ビ尚
ホ自カラ得ル所アリ天保
五年ニ生ル



菅原白龍

名ヲ元道ト云
ヒ日橋居士又
和樂斎ト号ス天保四年羽
前置賜郡ニ生ル画ヲ熊坂
適山ニ学ビテ自カラ一家
ヲナス山水梅竹ニ妙ナリ

白龍



形内如法馬
物事味

龍
龍

義子ナリ天保六年其藩邸
ニ生ル初ノ鳥取藩ノ画家

沖一峨ニ師事シ土佐狩野
ノ画法ヲ学ビ家ニ在テハ

父ノ教授ヲ受ケ文晁派ノ
画法元明以下ノ典型ヲ習

得シ其技大ニ進ム明治十
五年以来屢共進會展覽會

ニ出品シテ銀牌又ハ銅牌ヲ
受ク十七年東宮御所ノ御

襖ニ管仲隨馬ノ畵ヲ描キ
卅一年北白川宮殿下ノ相

州葉山御別荘ノ御襖ニ四
季耕作畵ノ揮毫ヲ命ゼラル

佐竹永湖

旧彦根藩ノ画
家佐竹永海ノ

跡見花蹊

ハ其別号ナリ

木花又西成ト号ス天保十
一年四月撰津西成郡木津

村ニ生ル跡見重敬ノ第二
女ナリ詩文ヲ能クシ書画

ニ妙屢宮禁ニ召サレテ揮
毫シ又自カラ女学校ヲ起

シテ措紳上流ノ女子ヲ教
授ス

跡見花蹊

名ハ瀧野花蹊

ハ其別号ナリ

龍
龍

龍
龍

龍
龍

龍
龍

龍
龍

龍
龍

龍
龍

龍
龍

龍
龍

龍
龍

龍
龍

龍
龍

龍
龍

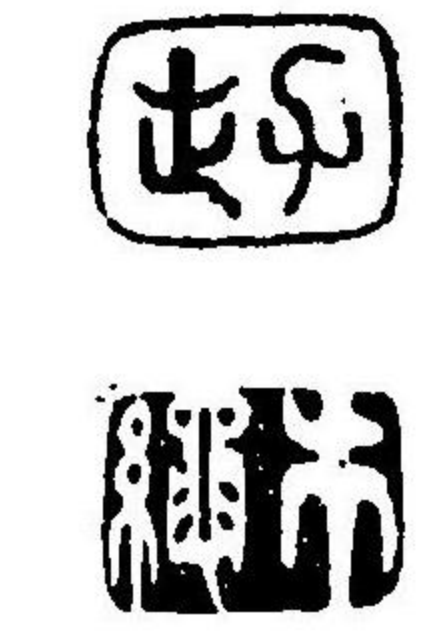
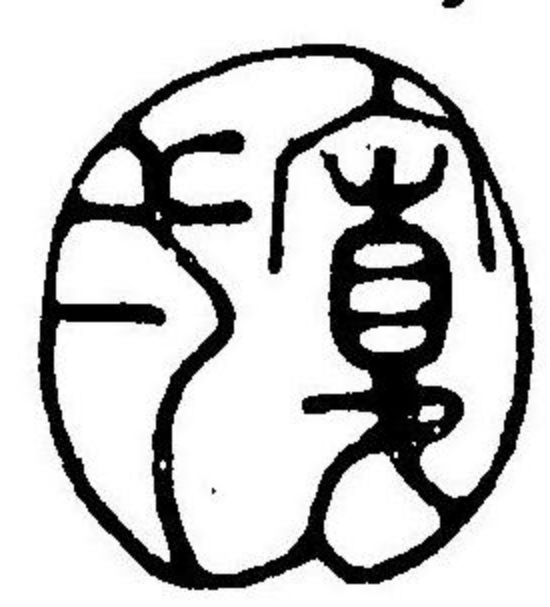
龍
龍

龍
龍

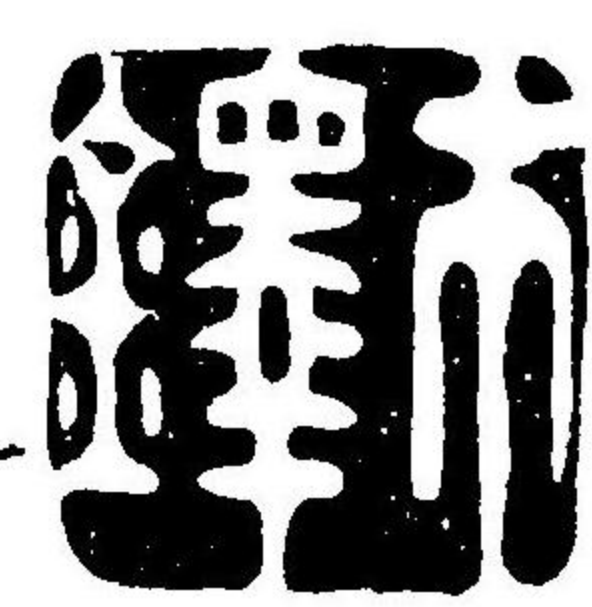
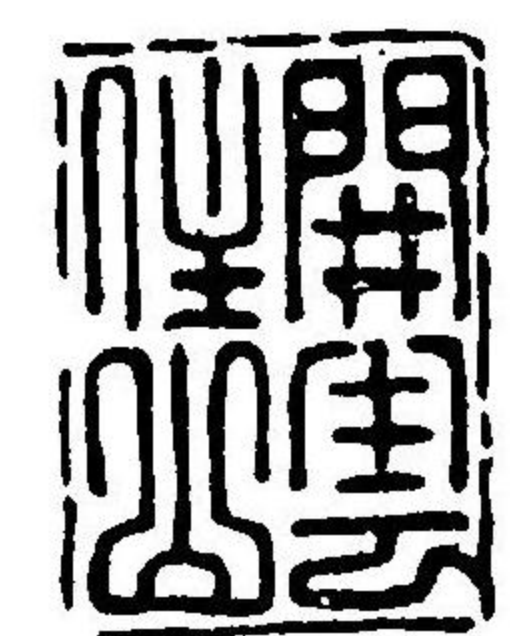
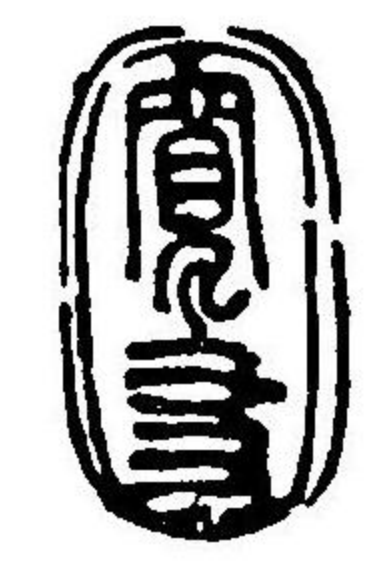
龍
龍

龍
龍

荒木寛一 名ハ繩梅隱齋
ト号ス文政十
年ニ生ル画ハ南宗派ヲ能
クス

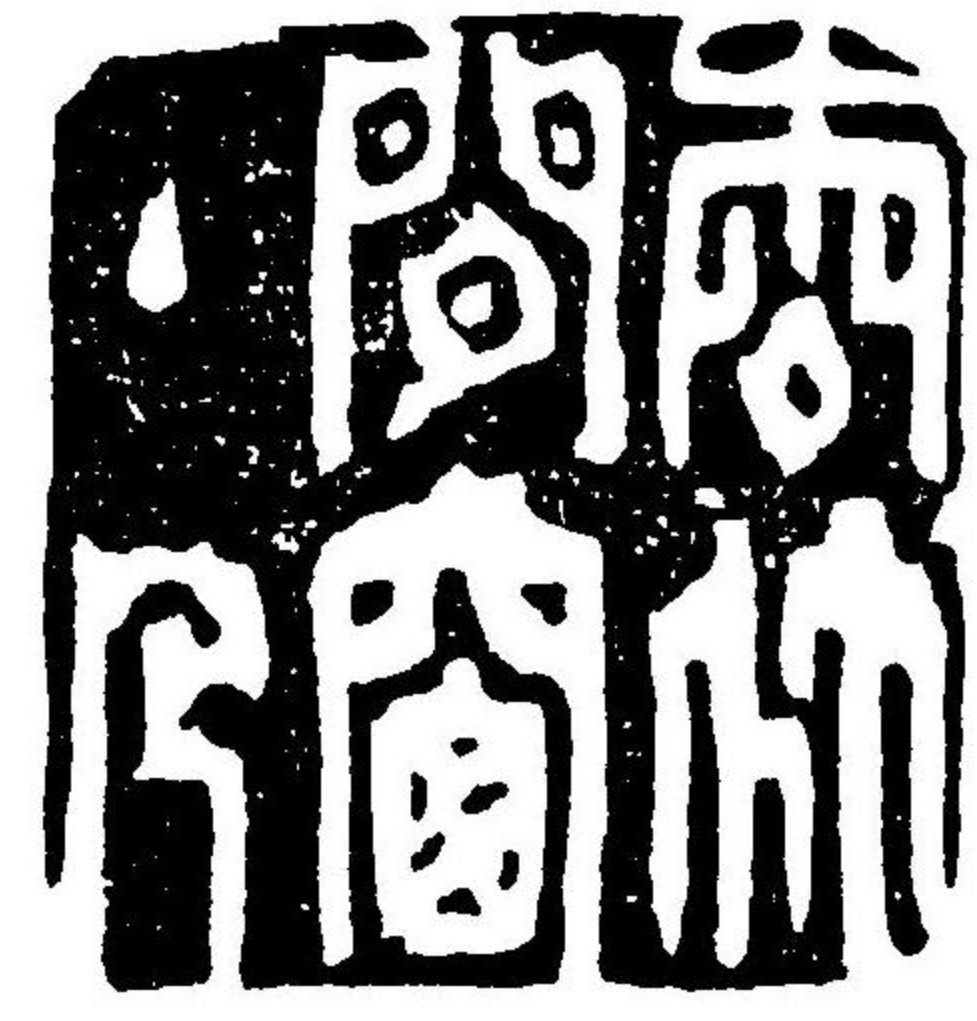


荒木寛友 名ハ鐸寛一ノ
後ナリ幼ヨリ
画ヲ好ミ南北ヲ折衷シ一
家ノ風格ヲ出ス山水花鳥
最モ得意トスル處ニシテ
人物之ニ次グ



熊谷直彦

別号篤雅文政
十一年十二月
安藝廣島ニ生ル少ニシテ
四條派ノ画家岡本茂翁ノ
門ニ入ル後諸國ヲ歴遊シ
自得スル所多シ明治十五
年以來屢内外博覧會ニ出
品シテ銅牌又ハ賞状ヲ受
ク十七年東京御殿ノ御杉
戸ニ花葵ニ狗兎ノ畵及ビ
竹ニ雞子ノ畵ヲ描ク又日
本美術協會日本繪画共進
會等ニ審査委員トナル



荒木寛友

名ハ吉達菴ト
号ス天保二年
生ル繪所預狩野素川ノ門
系荒木寛快ヲ師トシ遂ニ
其嗣子トナル諸家ノ画法
ニ參シ南北派ヲ折衷シ合
派ヲ起ス二十年皇居御杉
戸ニ畵ク同年東京工藝品
共進會廿三年美術協會ニ
十五年同展覧會ニ二十七
十八兩年同會並ニ銀牌ヲ
受ク三十四年同會ヨリ亦
二等銀牌ヲ受ク其他内外
博覧會ニ出品シテ皆賞ア
リ現ニ華族女學校教授從
六位ニシテ帝室技藝員ヲ

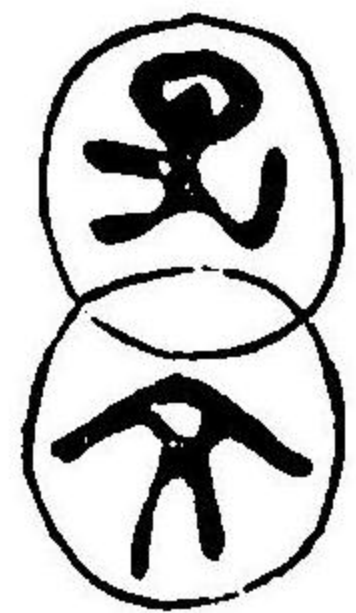
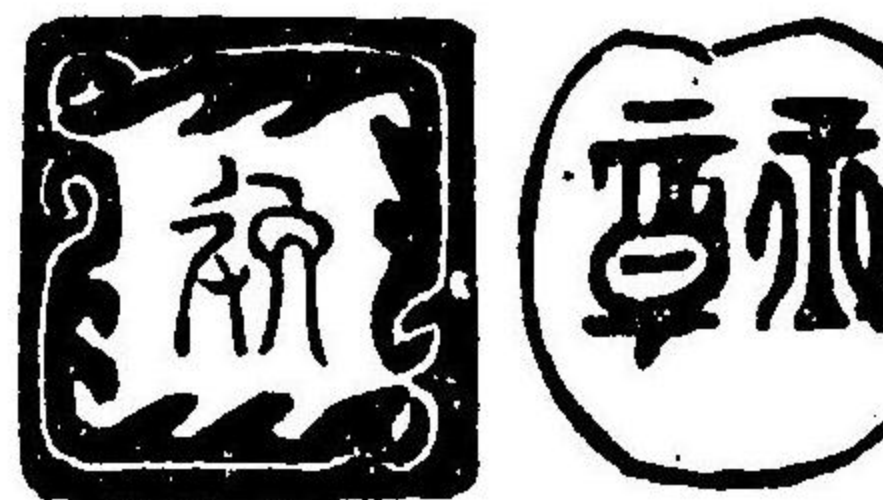




川端玉章

別号ハ敬亭天
保十三年京都

高倉瓦町ニ生ル中島来章
ニ就キテ岡山派ノ画法ヲ
学ブ明治十七年東宮御殿
御客室ノ御襖ヲ画キ二十
一年皇居ノ御杉戸ヲ画ク
繪画共進會等ヨリ銀銅章
牌ヲ受クルコト數回三十
三年美術展覽會ヨリ金牌
ヲ受領ス現ニ正六位東京
美術学校教授タリ



玉章



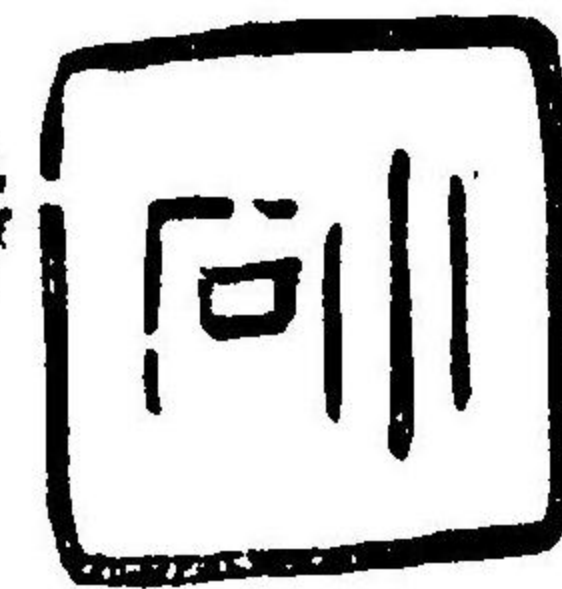
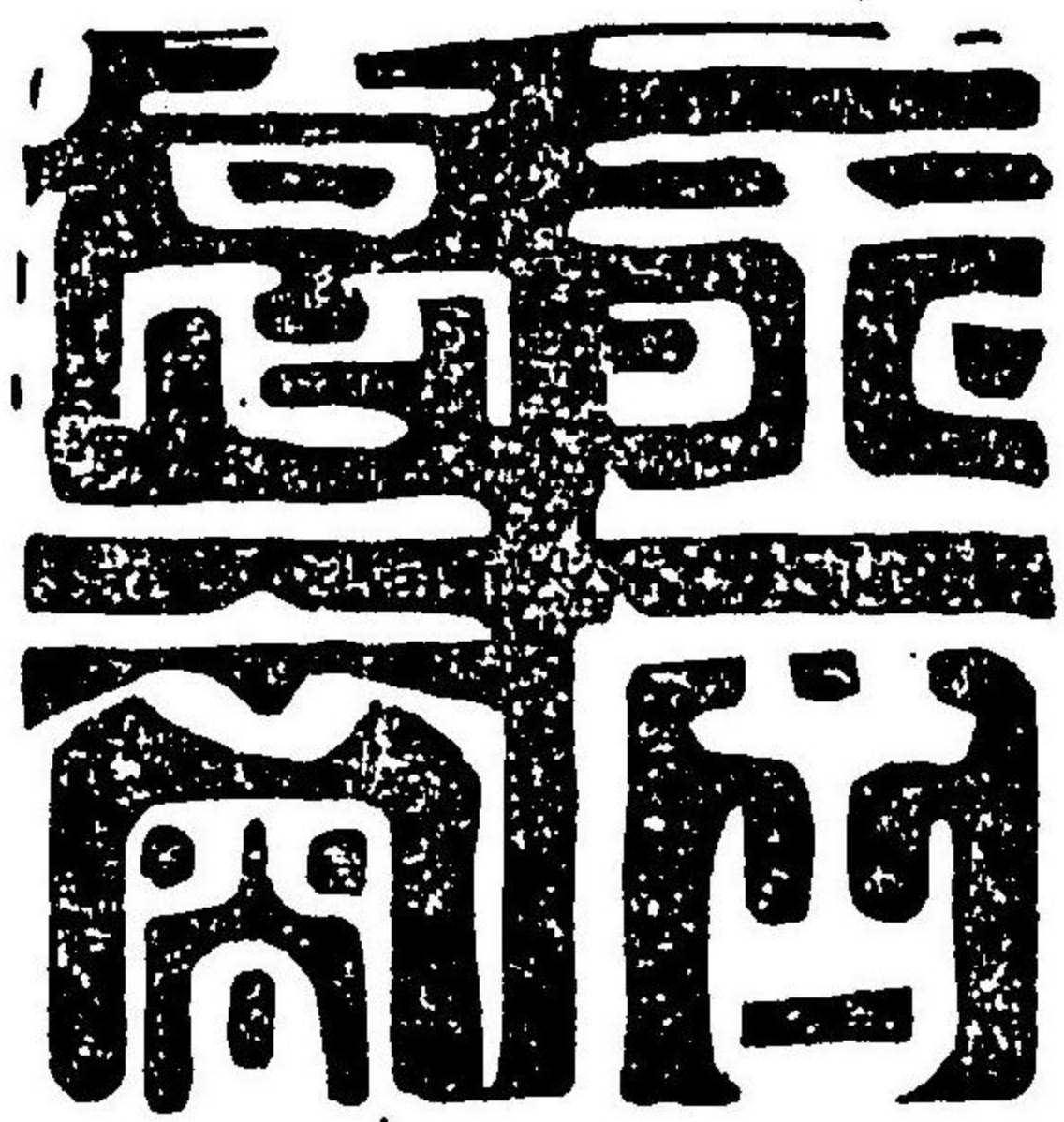
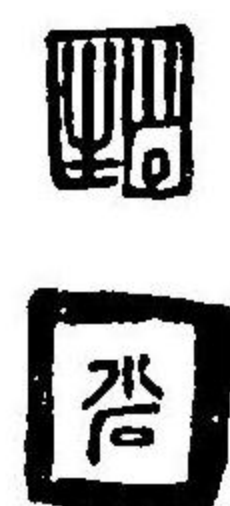
巨勢小石

金起ト号ス金
親ノ子ナリ天

保十四年京都ニ生ル中西
耕石及岸連山ニ学ビ大ニ
名手ノ稱アリ東京美術学
校教授ニ任ゼラレ後職ヲ
辞シテ再ビ京都ニ住ス



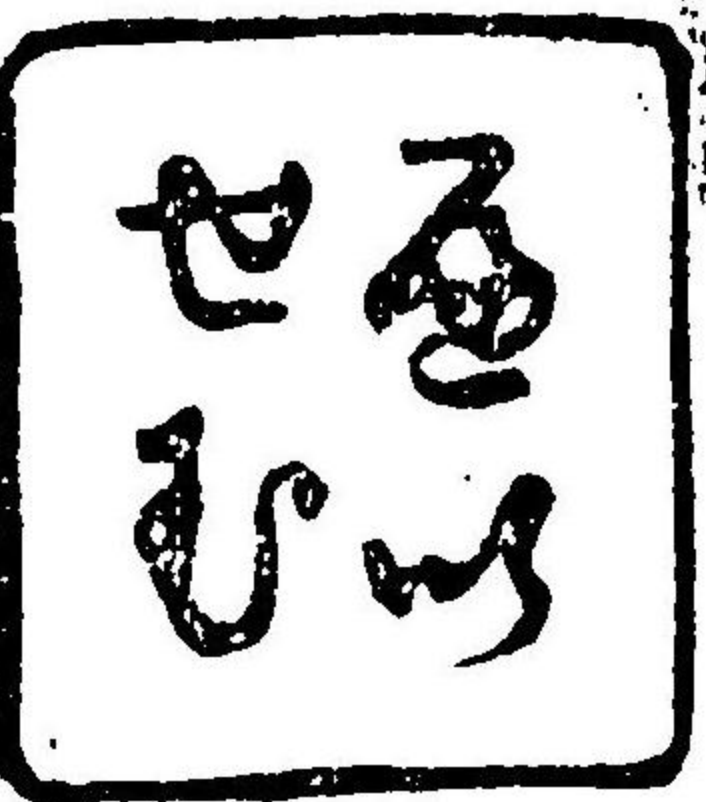
小石



久保田米僊

名ハ寛米僊ハ
其号ナリ又歌

俳ニハ錦鱗子ト称ス京都
ノ人嘉永五年二月生ル画
ヲ鈴木百年ニ学ビテ得ル
所アリ東京ニ移リテ門戸
ヲ開ク平生歴遊ヲ好ミ足
跡海内ニ遍ク又海外ノ社



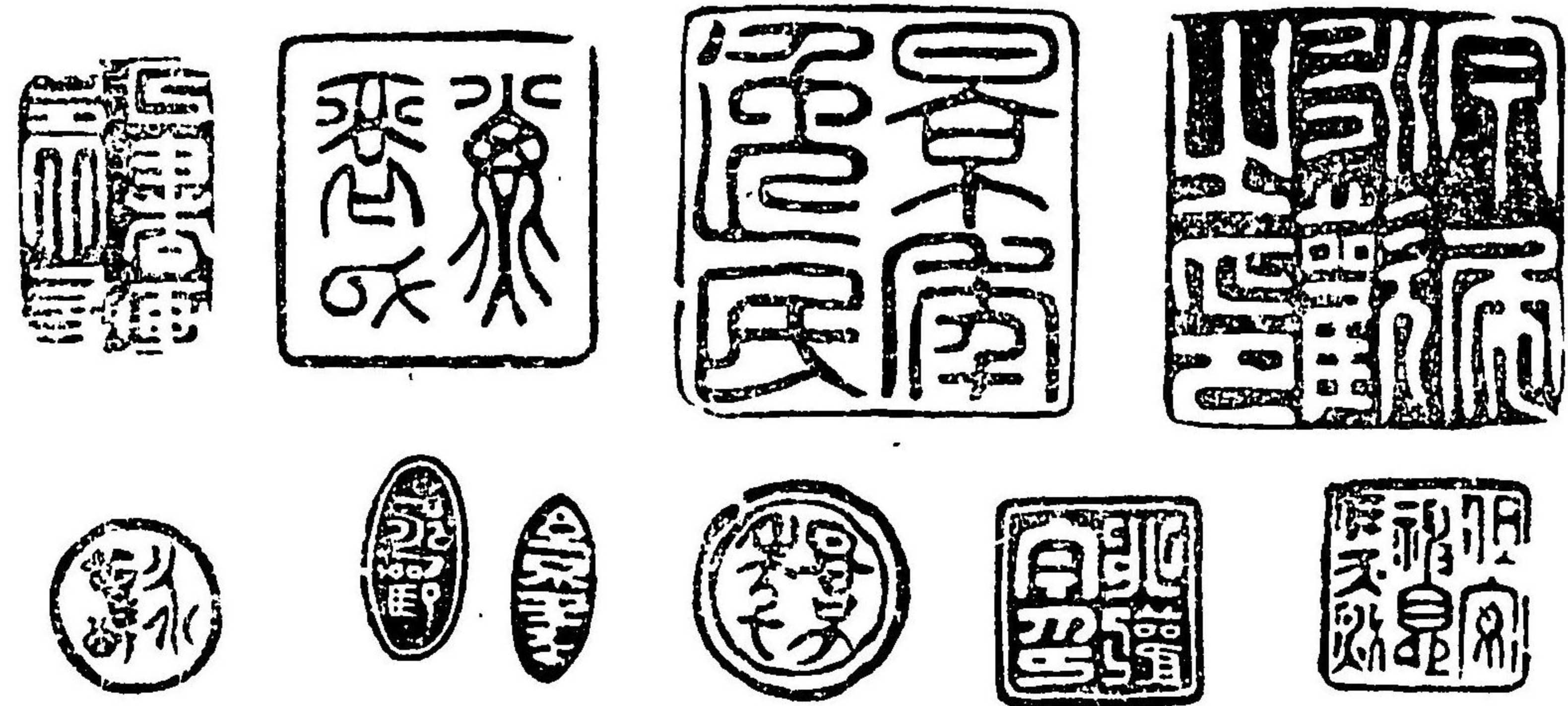
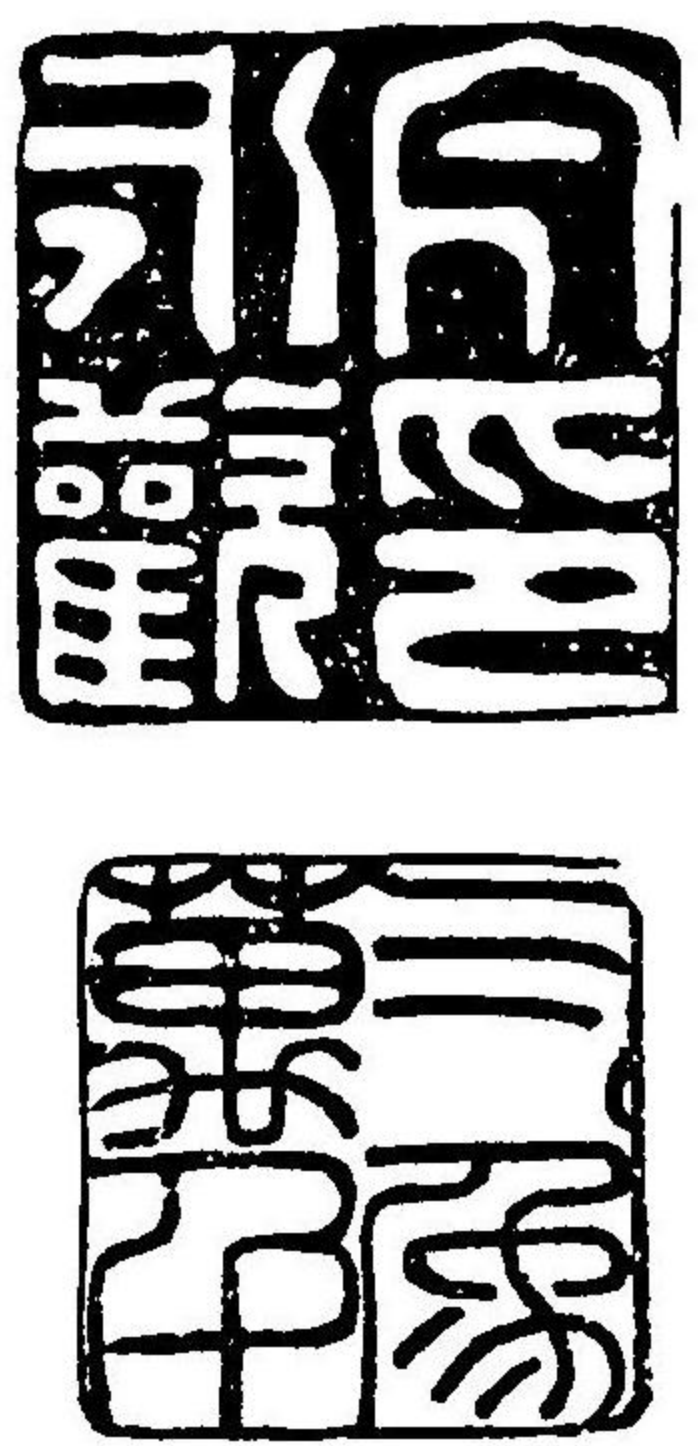
遊ヲ為シ米佛支那朝鮮滿
州ニ游ビ明治二十七八年
ノ役ニハ從軍シテ戦地ニ
入り戦況ヲ画報セリ屢画
ヲ博覽會美術諸會ニ出シ
テ銀銅牌等ヲ受ク又金牌
ヲ仙國萬國博覽會ニ得一
等銅賞ヲ米國費府博覽會
ニ受ク

今尾景年 三養ト号ス弘
化二年京都ニ
生ル鈴木百年ニ學ビテ一
家ヲナス



松本楓湖 名ハ敬忠幼名
藤吉郎安雅堂

又洋峨ト号ス天保十四年
九月常陸河内郡小野村ニ
生ル幼ヨリ画ヲ好ミ江戸
ニ出テ、沖一峨ノ門ニ游
ビ後佐竹永海ニ就テ技ヲ
修ム維新前勤王佐幕兩派
屹峙天下騷然タルニ際シ
勤王論ヲ唱ヘ京摂ノ間ニ
来往ス年二十七江戸ニト
居シ更ニ菊池容斎ノ門ニ
入り遂ニ名手ノ域ニ至ル



志師 遺圖

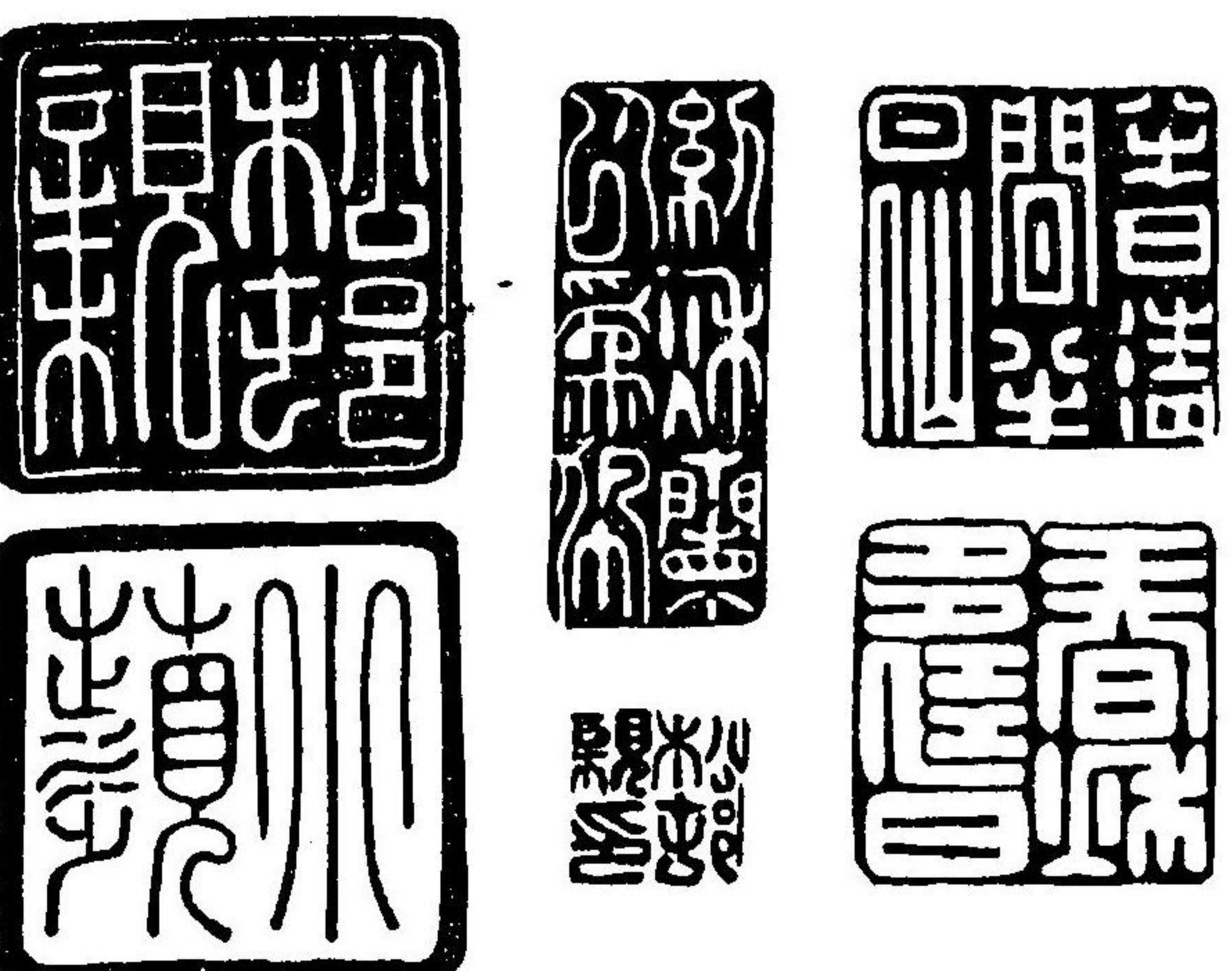
敬忠 之



野口小嶺 名ハ親字ハ清
婉小嶺ハ其号

ナリ弘化四年正月大坂ニ
生ル文久中京都ニ移居シ
日根對山ニ師事ス明治四
年東京ニ移居シ六年官命
ニヨリ皇后宮御寢殿ノ御

用トナルベキ花卉八面ヲ
描ク屢博覽美術諸會ニ出
品シテ銀銅牌ヲ受ク三十
四年五月美術會ヘ秋草画
ヲ出シ一等金牌賞ヲ受領
ス

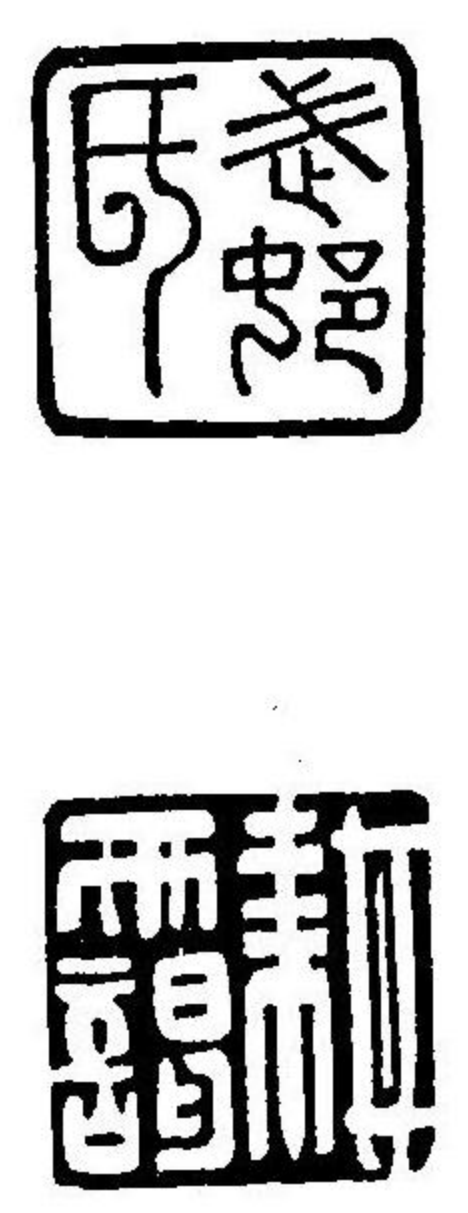


武村耕靄 女史名ハ千佐
又貞子ト云フ

嘉永五年十一月江戸芝口
仙臺藩邸内ニ生ル繪技ニ
長ズル天稟ニ出デ山本葉
谷春木南溟ニ就テ學ビ又
西洋画ヲ川上冬崖ニ學ブ
高等女學校教授ニ任ジ從
七位ニ叙ス著ス所依樣帖
女子画帖等アリ

耕靄

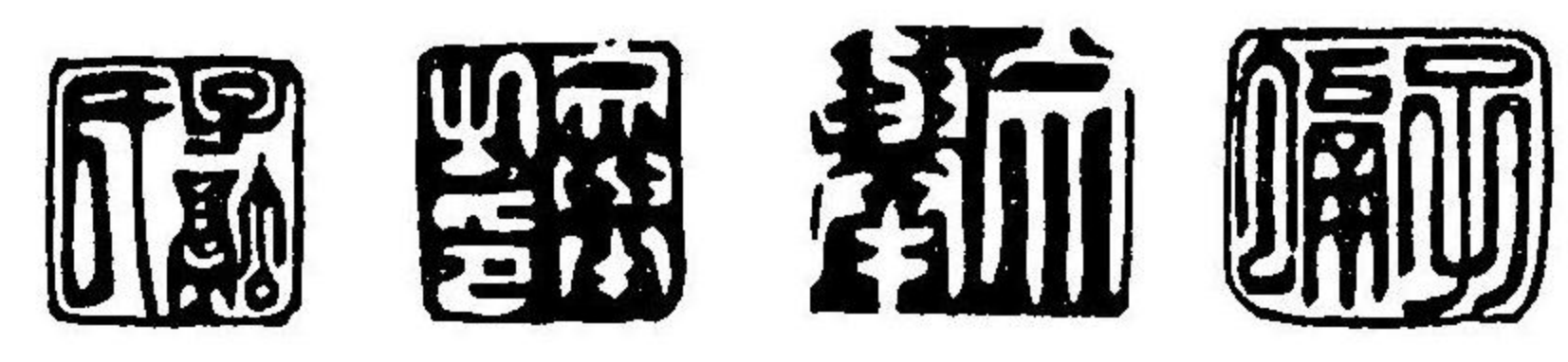
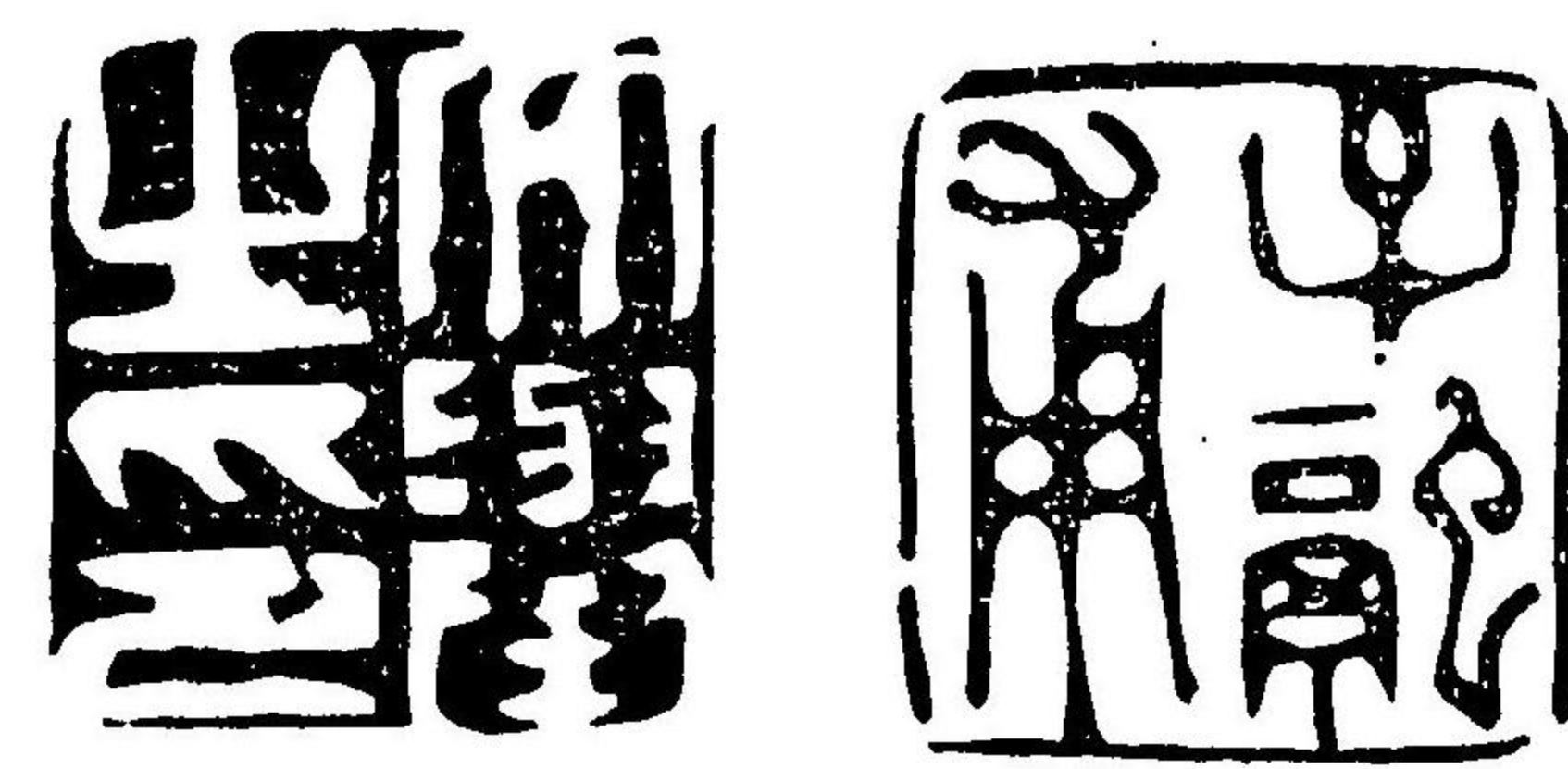
女史



野村文舉

名ハ文舉字ハ子融石泉ト号

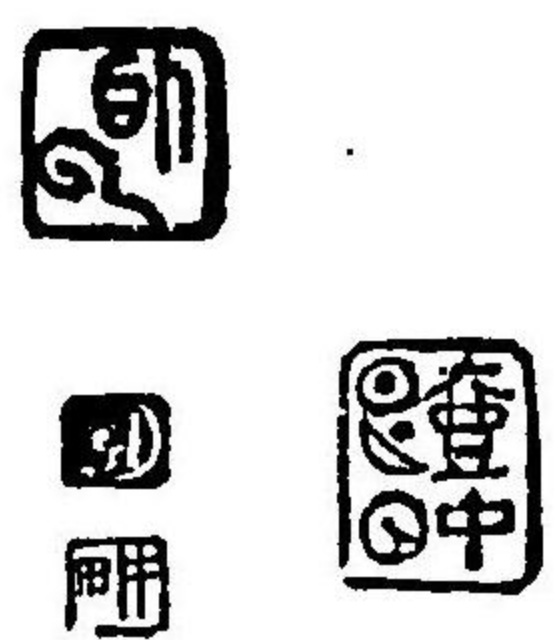
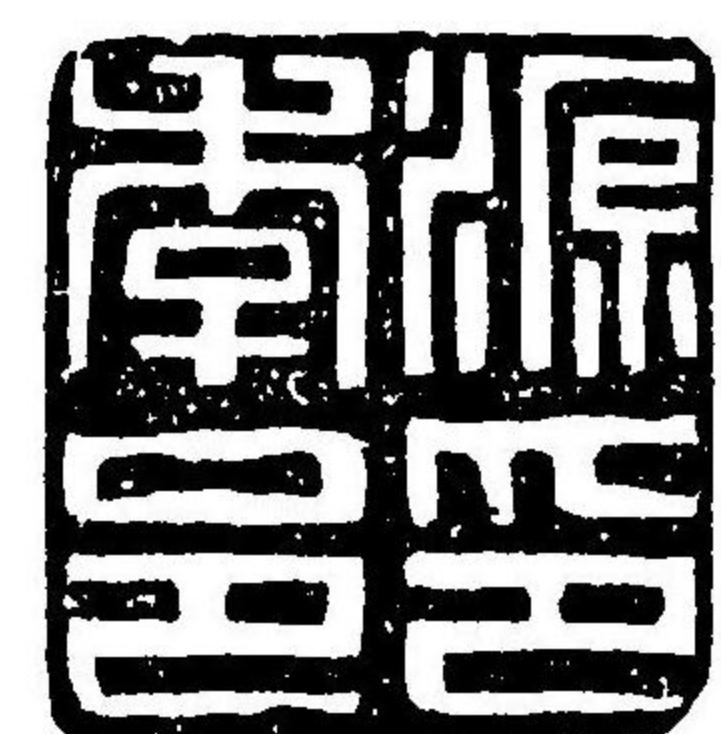
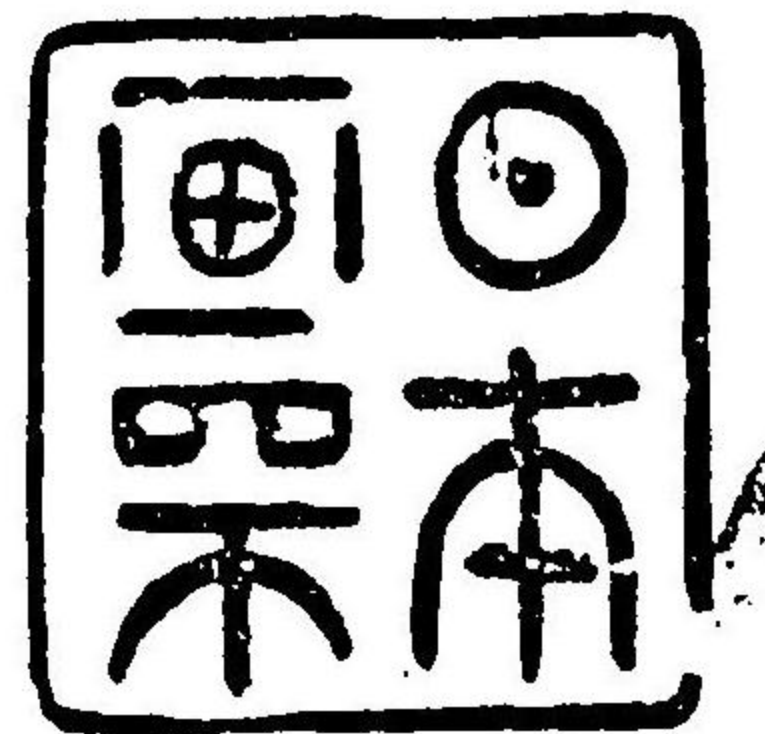
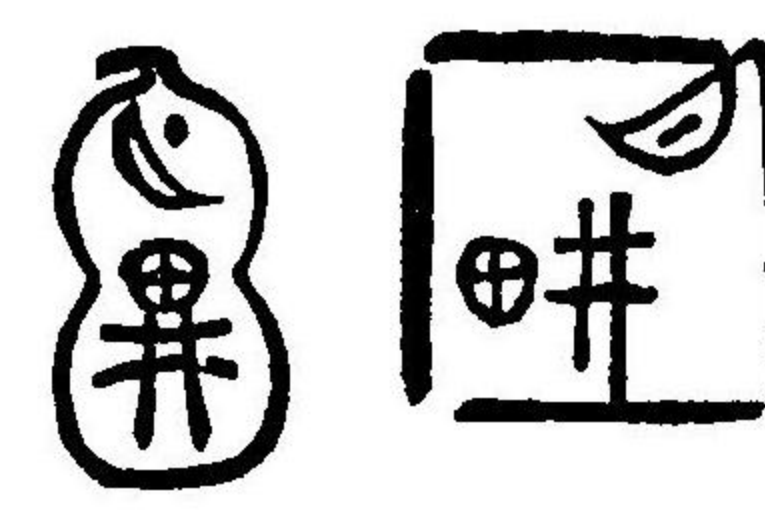
ス安政元年十一月京都ニ生ル初梅川東舉ニ学ビ後塩川文麟ノ門ニ入ル文麟歿後森寛齋ニ就テ其技ヲ研磨ス今代山水画ノ老大家ニシテ岡山派ノ名匠ヲ言フモノ先ツ措フ文舉ニ屈ス



尾形月耕

通称田井正之助月耕ト号シ

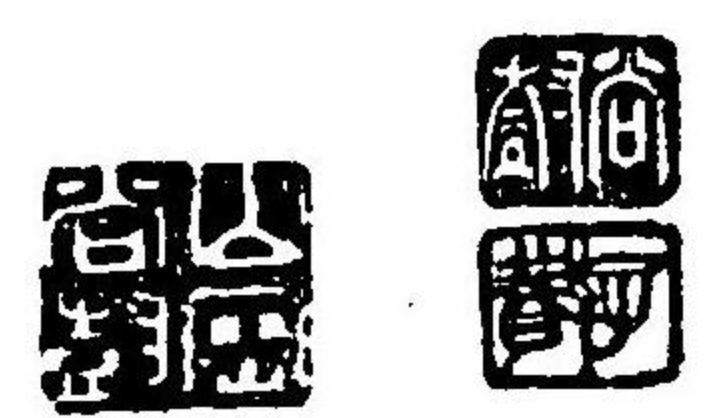
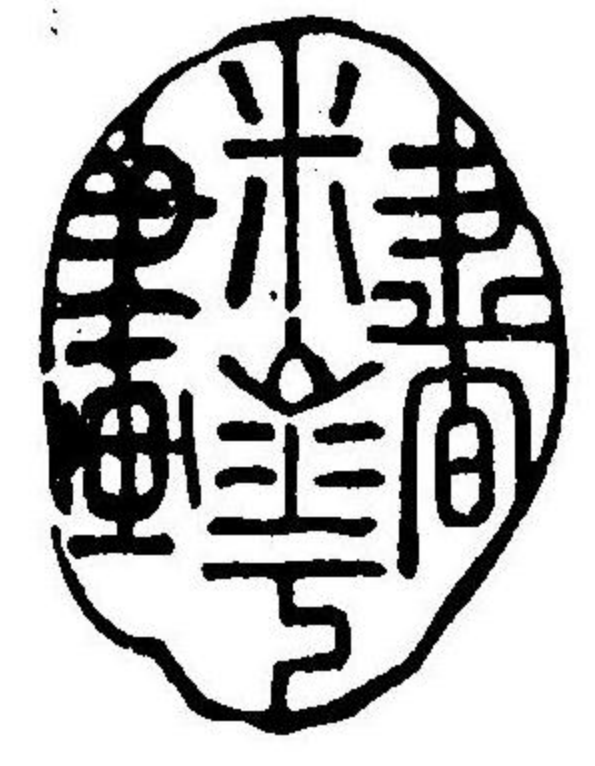
又華職樓ト号ス安政六年江戸ニ生ル幼ヨリ畵画ヲ喜ビ獨学自修ヲ以テ一派ヲ開ク著ス所月耕漫画月耕畵聚アリ内外博覧及ビ美術諸會ニ出品シ銅章其他ノ賞牌ヲ受領ス



山岡米華

名ハ尚樹字ハ子敬米華ト号

ス別ニ小董草堂ノ号アリ慶應元年十一月土佐高知ニ生ル初ノ名草逸峰ノ門ニ入り後東京ニ出デ、諸大家ニ就キテ研精シ且ツ山紫水明ノ境ニ天趣ヲ探リ得ル所多シ屢美術協會博覧會等ニ出品シテ銅牌賞状ヲ得



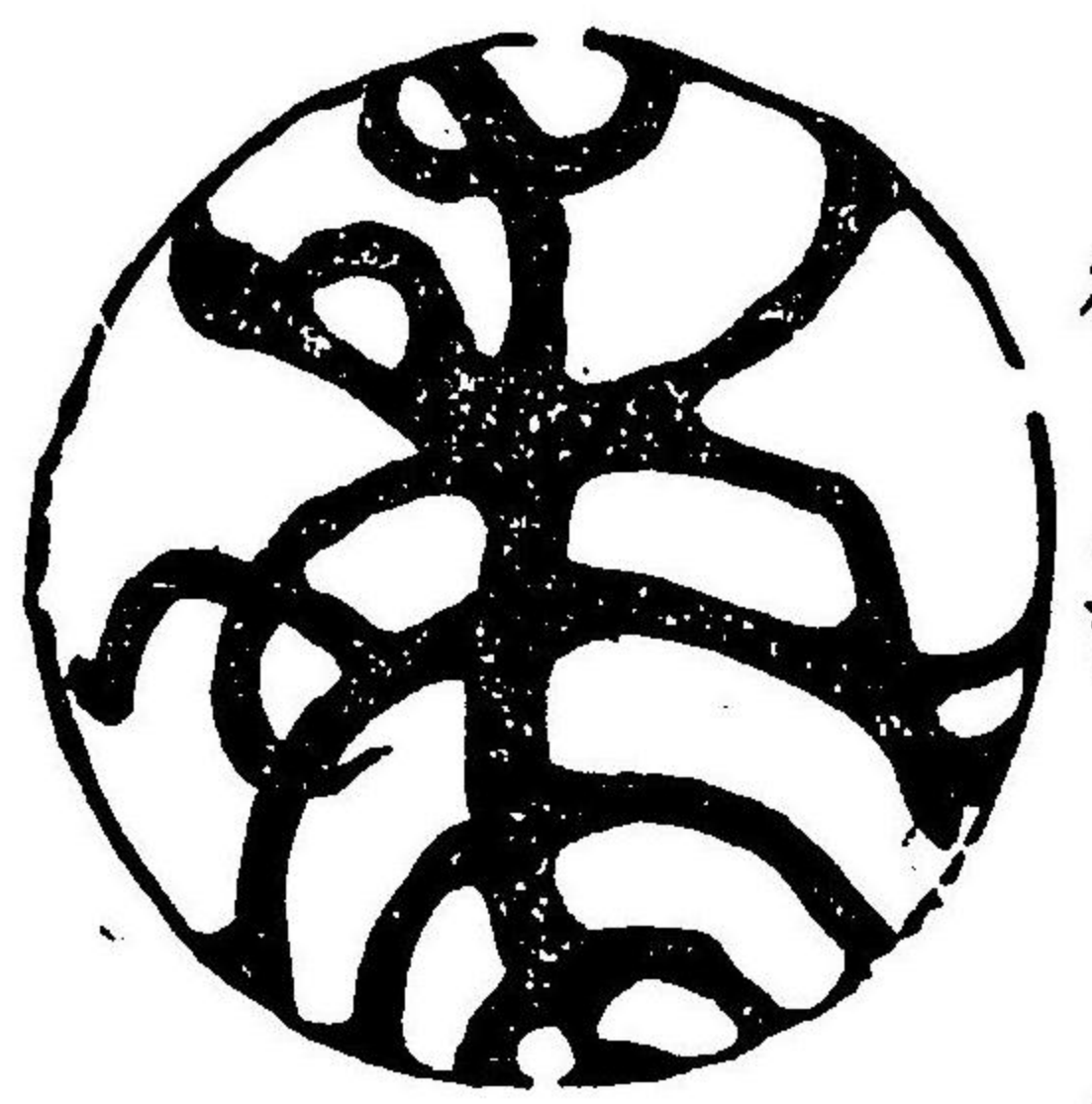
米華

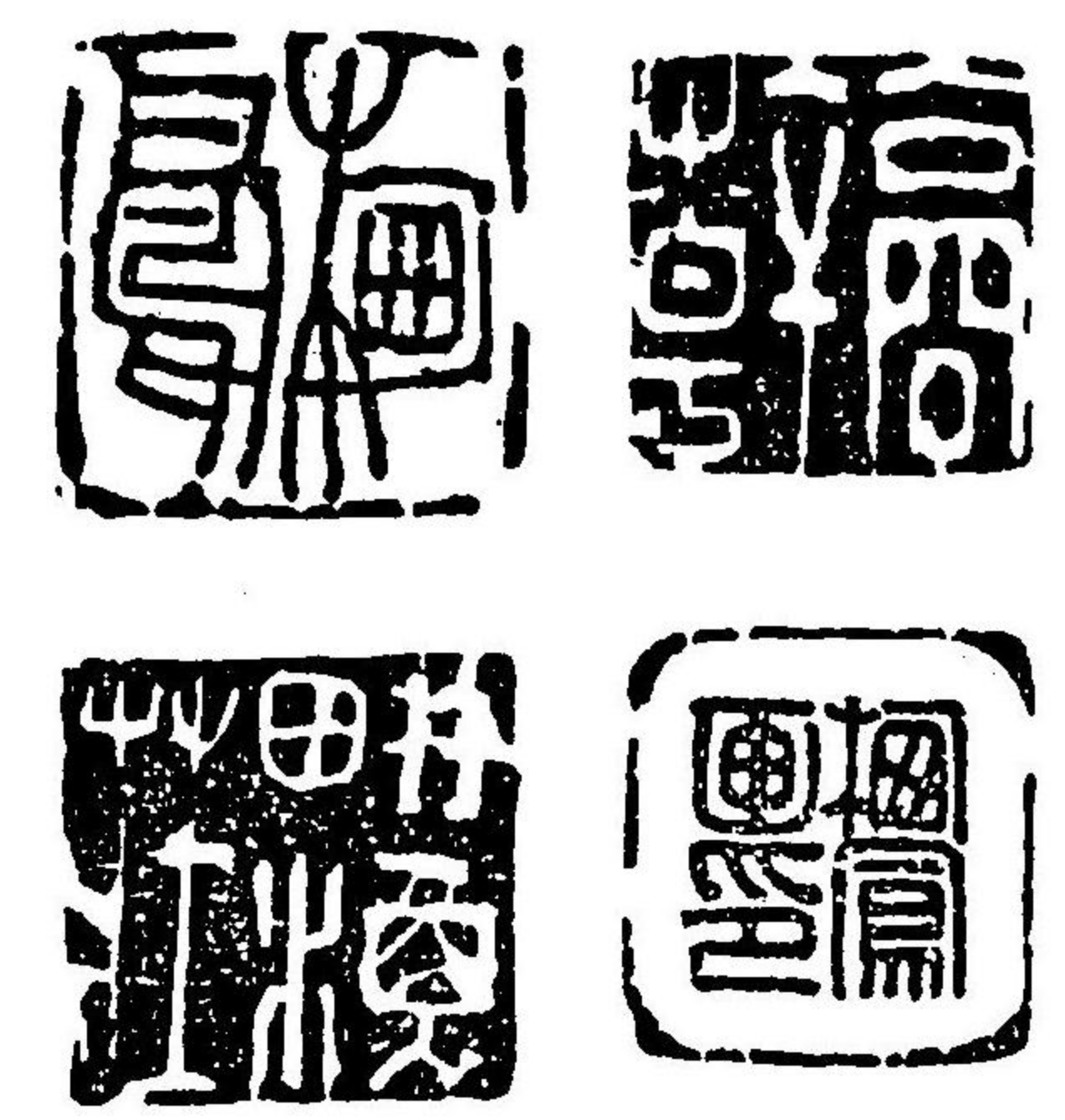
米華

小董草堂

竹内棲鳳

京都ノ人幼ヨリ画ヲ好ミ初メ土田英林ニ就イテ画法ヲ学ブ英林ハ景文ノ門人ナリ後幸野梅嶺ノ門ニ遊ブ二十歳ノ時画学校ニ入り各派ノ描法ヲ見テ大ニ自得スル所アリト云

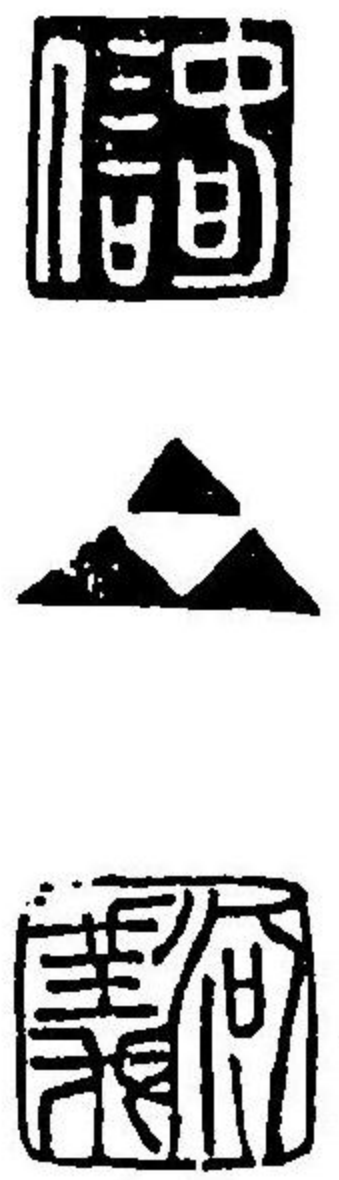




鈴木春信

又兵衛ト称シ
長栄軒ト号ス明

和ノ初吾妻錦繪ヲ画キ出
ス是レ錦繪ノ始ナリ明和
七年六月十五日歿ス年六
十八



鈴木春信筆

勝川春章

一ノ氏ハ宮川
旭朗齋又酉爾

ト号ス通称ハ祐助浮世繪
ヲ能クシ又書ニ巧ナリ歌
舞伎俳優ノ肖像及ビ五人
男ノ画ヲ善クシ又武者繪
ニ巧ナリ初家貧人形屋七
右衛門ノ家ニ食客ス名印
ナキヲ以テ林屋ノ店印ヲ
用井タリ其印文壺ノ中ニ
林ノ字アリ故ニ人呼テ壺
屋ト曰フ寛政四年十二月
八日歿ス

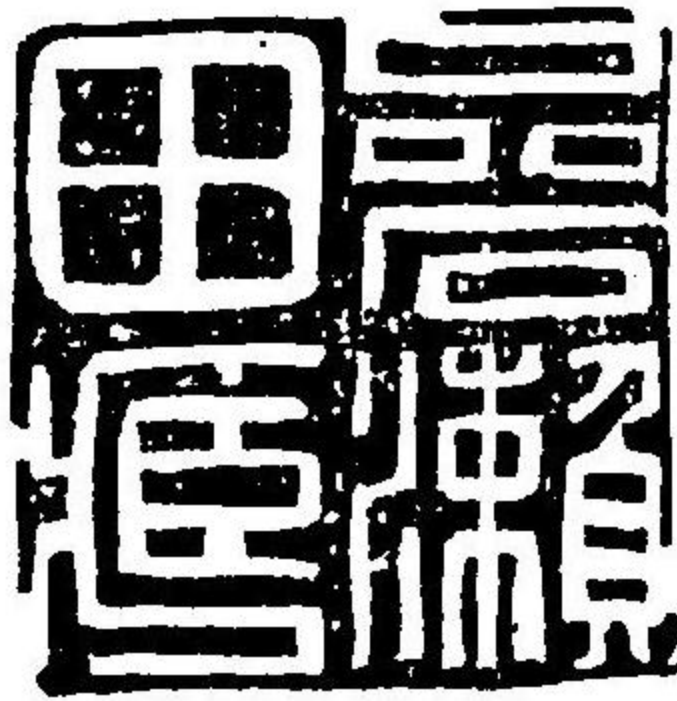
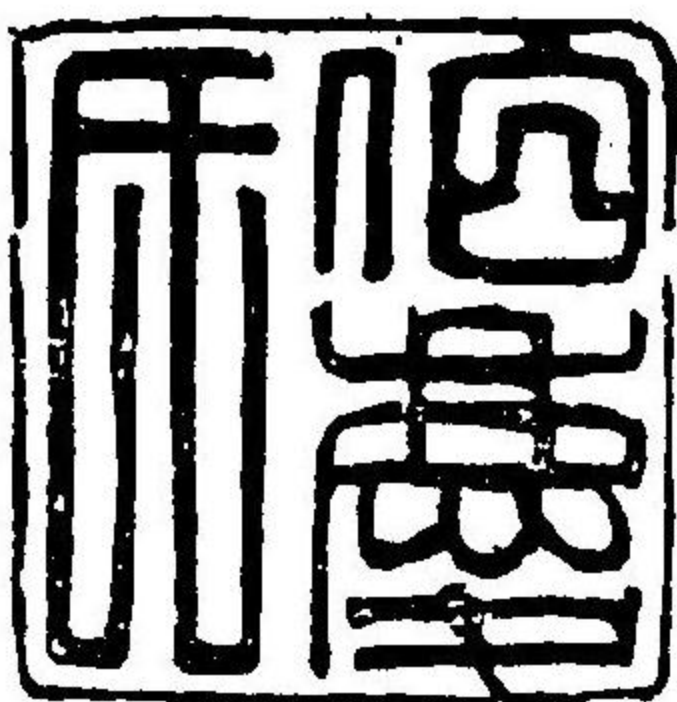
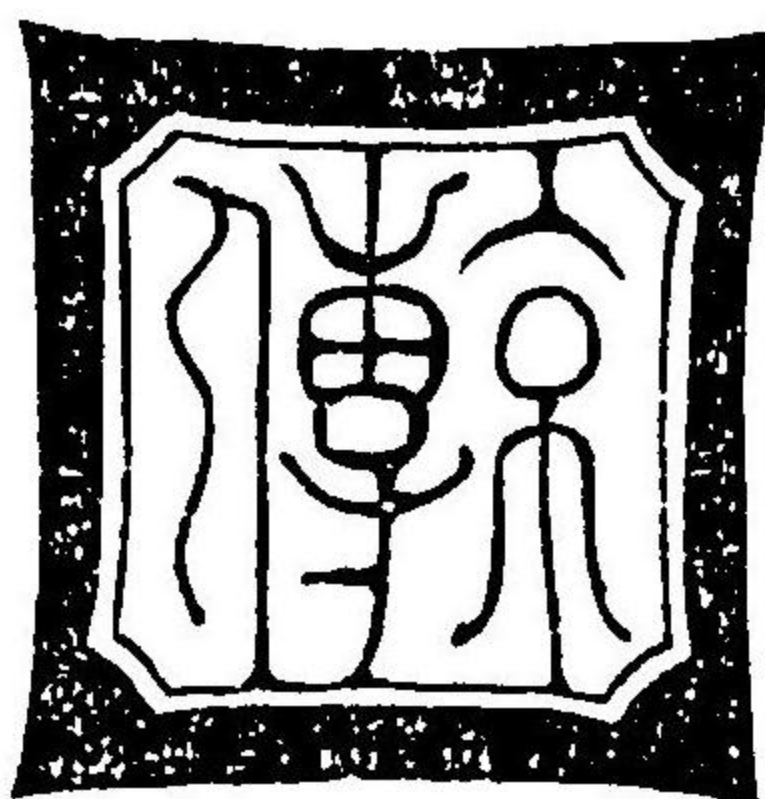


旭湖井春章画

北尾政演

字ハ西星初
名傳藏幼字甚

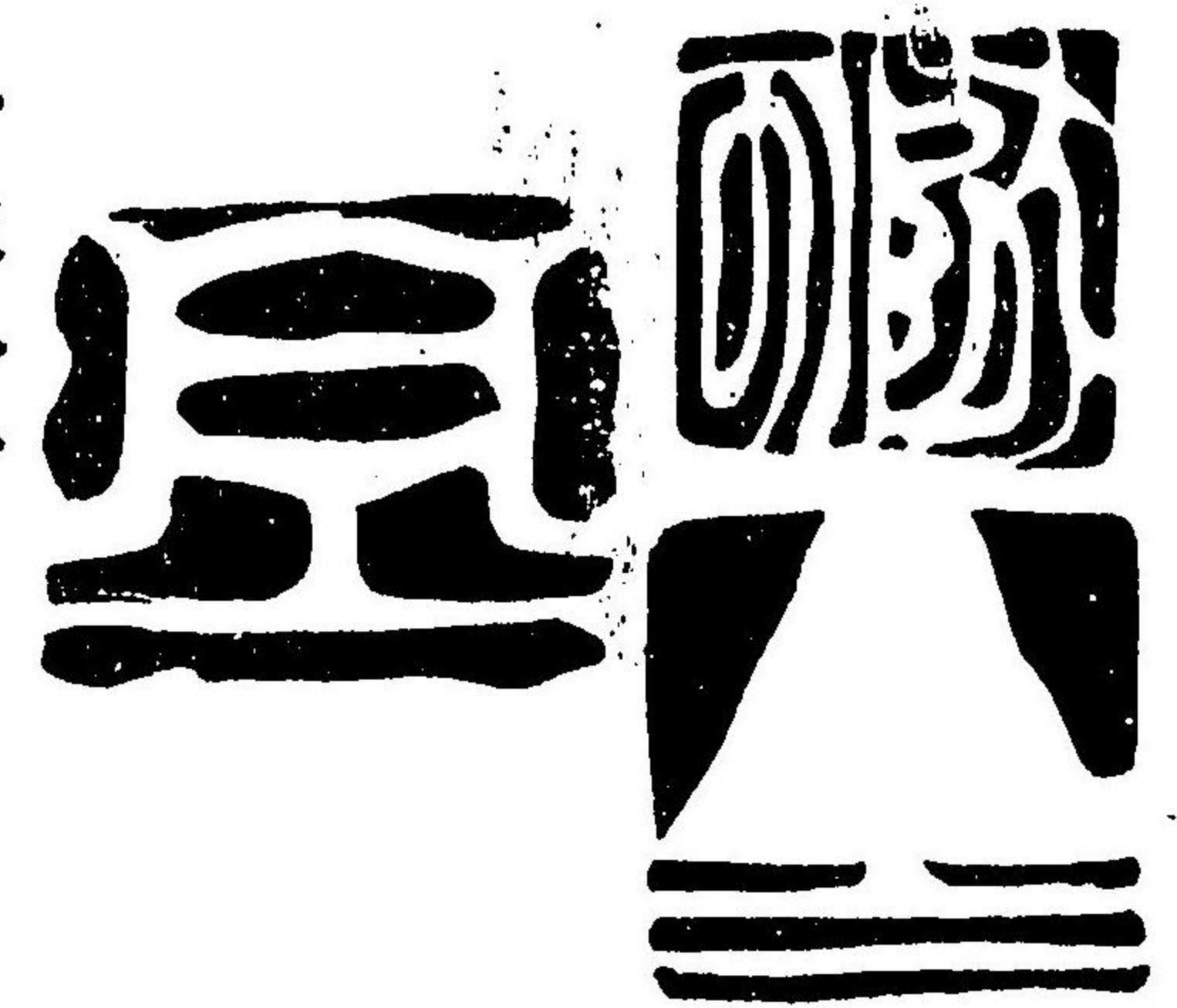
太郎淳世画ヲ能クシ又戯
作狂歌ニ其名高シ



葛飾北齋

名ハ為一字ハ
戴斗雷震画狂

人等ノ号アリ江戸ノ人
家ヲ成ス其画ク所精密ニ
シテ真ヲ写シ筆意絶妙ナ
リ其名海内ニ鳴リ洋人モ
亦賞讃ス画譜ヲ著ハス其
数多シ嘉永二年四月十八
日歿ス年九十



画狂ノ

戴斗雷震

北川歌麿

紫屋ト号シ角
助ト称ス初ノ

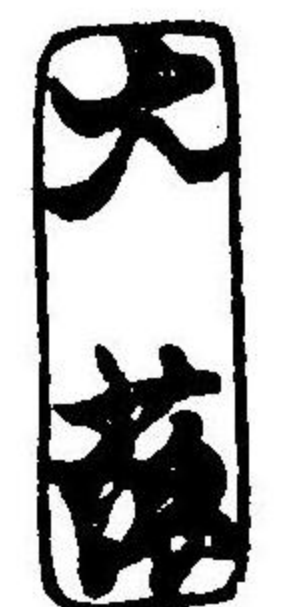
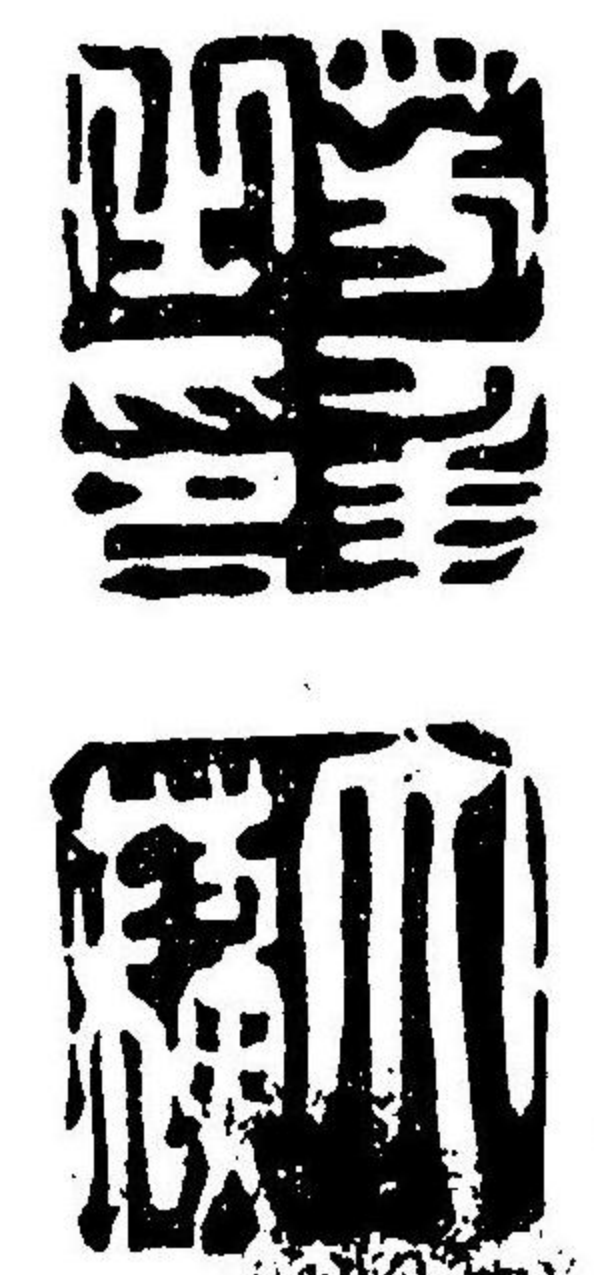
鳥山石燕ノ門ニ入テ狩野
家ノ画ヲ学ブ後淳世繪ニ
変ズ能ク男女ノ風俗ヲ画
ク然レドモ俳優ハ鄙シト
シテ絶テ之ヲ画カズ日本
繪師ヲ以テ居リ其名海内
ニ噴々タリ

哥、磨筆

月岡芳年

通称米次郎大
蘇魁齋等ノ号

アリ歌川國芳ニ学ビテ得
ル所アリ美人画ヲ能クス
明治二十四年歿ス年五十四



細田榮之

名ハ時富鳥文
齋ト号ス徳川

幕府ノ家人ナリ狩野流ノ
筆意ヲ学ビ画風上品ニシ
テ蜀山人ノ賛詞ヲ書スル
モノ多シ嘗テ傳奏公卿ニ
依テ其画天覧ヲ経タルコ
トアリ天覧ノ印ヲ用キル
所以天明ヨリ寛政ニ迄ル
風俗美人画多ク世ニ行ハ
ル

司馬江漢

(補)不言道人西
洋道人等ノ別

号アリ狩野古信ノ画ヲ学
ビ又宋紫石ニ学ブ鈴木春
信歿後其偽筆ヲ画ク世人
江漢ヲ誤リ認メテ春信ト
為ス後チ長崎ニ至リ洋画
ヲ学ビ油画及ビ銅版ノ画
ヲ製ス其花押洋字ヲ用ウ
文政元年十月二十一日歿
ス年七十二著ス所春波樓
画譜アリ



細田榮之

司馬江漢

寛政丙辰夏六月二十四日



西洋畫士

東都 江漢

司馬峻描寫

Calligraphic signature of the artist.

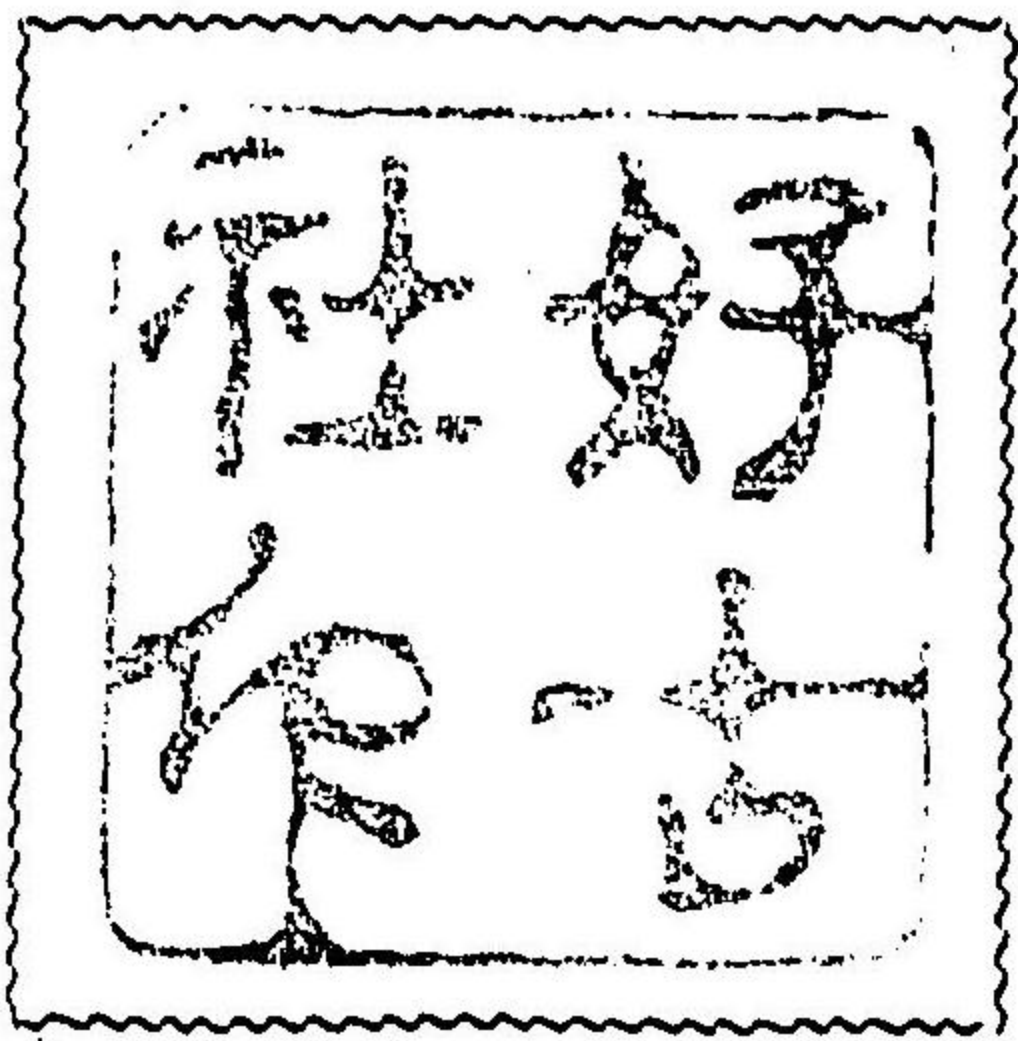
畫家部終

(附奥書全家名本日大)

103

363

明治三十五年八月十五日印刷
明治三十五年八月二十日發行



(畫家部)

校閱者

小杉 楳 邨

校閱者

井上 頼 因

編纂者

好古社編纂部

代表者

宮崎 幸 麿

發行所

青 山 清 吉

發行所

好古社
事務所

青 山 堂 書 房

印刷所

明 昇 舎

東京市日本橋區三代町二十二番地

東京市神田區綾谷町三十番地

(電話本局三千二百二十六番)

(電話浪花三千二百九十一番)

